

資料2
西 東 京 市
男女平等参画推進委員会
平成30年2月19日

男女平等参画に関する 西東京市民意識・実態調査 報告書

平成30年3月

西東京市

目次

I	調査概要	1
1	調査の目的	3
2	調査対象	3
3	調査方法	3
4	調査期間	3
5	調査機関	3
6	回収数及び回収率	3
7	調査項目	3
8	報告書のみかた	5
9	比較した調査の概要	6
II	調査結果のポイント	7
1	回答者の属性	9
2	男女平等参画の意識	9
3	日ごろの生活	10
4	仕事	11
5	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	12
6	地域・防災	13
7	人権	13
8	男女平等参画を進めるために必要な施策	14
III	調査結果	17
1	回答者の属性	19
1-1	性別	19
1-2	年齢	19
1-3	家族構成	20
1-4	配偶者・パートナーの有無	21
1-5	共働きの状況	22
1-6	居住地域	24
2	男女平等参画の意識	25
2-1	固定的性別役割分担意識についての考え	25
2-2	男女の地位の平等感	27
2-3	女性が仕事をするについての考え	39

3	日ごろの生活	42
3-1	自分が行っている家事・育児・介護など	42
3-2	家事・育児・介護などに携わっている時間（平日、休日）	44
3-3	男性が家事・育児・介護などを積極的に行うために必要なこと	46
4	仕事	49
4-1	収入を伴う仕事の有無	49
4-2	管理職への昇進意向	51
4-3	職場でハラスメントを受けた経験	53
4-4	経済状況	55
4-5	今後の就労意向	57
4-6	育児休業、介護休業の取得経験、取得意向	59
4-7	一時期仕事をやめた人が再就職を希望する際に役に立つもの	62
4-8	女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと	64
4-9	男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと	66
4-10	「働き方改革」についての考え	68
4-11	「働き方改革」のために必要なこと	69
5	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	71
5-1	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現状況	71
5-2	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のために必要なもの	73
6	地域・防災	76
6-1	地域活動への参加状況と参加意向	76
6-2	防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと	80
7	人権	82
7-1	性的マイノリティへの取り組みについての考え方	82
7-2	性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策	84
7-3	自分の性的指向や性自認に悩んだ経験	86
7-4	配偶者等からの暴力だと思うもの	87
7-5	配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度	89
7-6	配偶者等から暴力を受けた経験	91
7-7	配偶者等から暴力を受けた時の相談経験	93
7-8	誰にも相談しなかった理由	94
8	男女平等参画を進めるために必要な施策	96
8-1	西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度	96
8-2	市の審議会と市議会における女性の割合への考え	103
8-3	政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由	106
8-4	男女平等推進条例制定についての意向	108

8-5	西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策	111
9	自由回答	113
	参考資料 調査票及び集計結果	117

I 調查概要

1 調査の目的

この調査は、市民の男女共同参画に関する意識・実態を把握し、「西東京市第3次男女平等参画推進計画 西東京市配偶者暴力対策基本計画」の改定及び「西東京市女性活躍推進計画」策定のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査対象

西東京市に居住する満18歳以上の男女2,000人
平成29年9月1日現在の住民基本台帳より無作為抽出

3 調査方法

郵送配布－郵送回収法（督促を兼ねた礼状ハガキ1回送付）

4 調査期間

平成29年10月5日（調査票発送）～平成29年10月20日

5 調査機関

株式会社生活構造研究所

6 回収数及び回収率

- (1) 対象者数 2,000人（女性：1,009人、男性：991人）
- (2) 有効回収数 645人（女性：364人、男性：273人、1・2以外：0人、性別無回答：8人）
- (3) 有効回収率 32.3%（女性：36.1%、男性：27.5%、1・2以外：0.0%）

7 調査項目

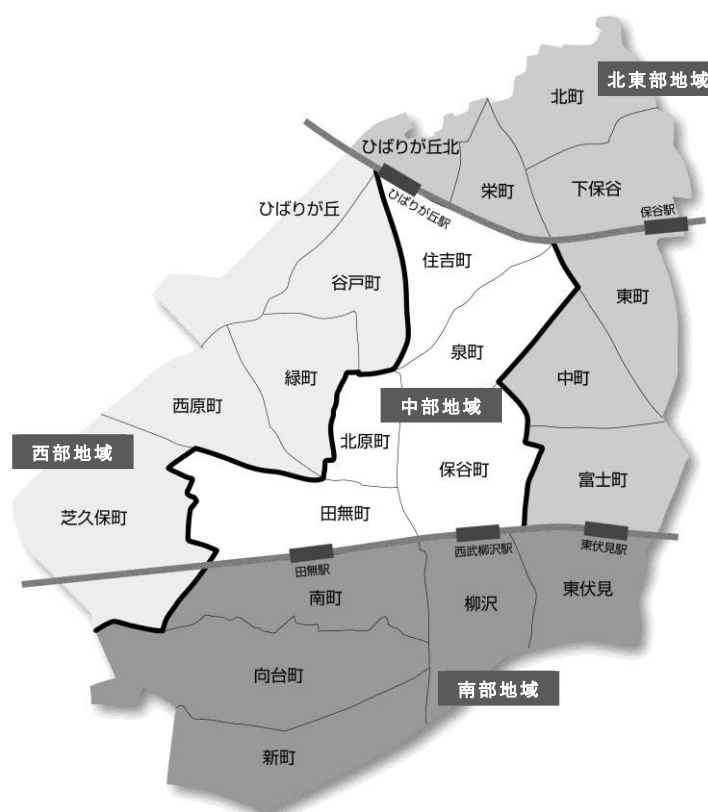
大項目	調査項目
回答者の属性	問1 性別
	問2 年齢
	問3 家族構成
	問4 配偶者・パートナーの有無
	問4-1 共働きの状況（配偶者・パートナーがいる人）
問5 居住地域	
男女平等参画の意識	問6 固定的性別役割分担意識についての考え
	問7 男女の地位の平等感
	問8 女性が仕事をするについての考え

大項目	調査項目
日ごろの生活	問 9 自分が行っている家事・育児・介護など
	問 10 家事・育児・介護などに携わっている時間（平日、休日）
	問 11 男性が家事・育児・介護などを積極的に行うために必要なこと
仕事	問 12 収入を伴う仕事の有無
	問 12-1 管理職への昇進意向（仕事をもっている人）
	問 12-2 職場でハラスメントを受けた経験（仕事をもっている人）
	問 13 経済状況
	問 14 今後の就労意向
	問 15 育児休業、介護休業の取得経験、取得意向
	問 16 一時期仕事をやめた人が再就職を希望する際に役に立つもの
	問 17 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと
	問 18 男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと
	問 19 「働き方改革」についての考え
	問 19-1 「働き方改革」のために必要なこと
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	問 20 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現状況
	問 21 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のために必要なもの
地域・防災	問 22 地域活動への参加状況と参加意向
	問 23 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと
人権	問 24 性的マイノリティへの取り組みについての考え方
	問 24-1 性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策
	問 25 自分の性的指向や性自認に悩んだ経験
	問 26 配偶者等からの暴力だと思うもの
	問 27 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度
	問 28 配偶者等から暴力を受けた経験
	問 28-1 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験（暴力を受けた経験がある人）
	問 28-2 誰にも相談しなかった理由（誰にも相談しなかった人）
男女平等参画を進めるために必要な施策	問 29 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度
	問 30 市の審議会と市議会における女性の割合への考え
	問 31 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由
	問 32 男女平等推進条例制定についての意向
	問 33 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策
自由回答	問 34 自由回答

8 報告書のみかた

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率 (%) で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記しています。
- (2) 女性の10歳代、男性の10歳代は集計をしていますが、件数がそれぞれ6件、4件であるため分析文に記載していません。
- (3) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合があります。
- (4) 性別、年代別などは、無回答があるため、合計が全体とは一致しません。
- (5) 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%を超えることがあります。
- (6) 本文及びグラフ中の設問文の選択肢の表現は一部省略されています（「調査票及び集計結果」において、省略されていない選択肢の表現をご参照ください）。
- (7) 集計表は、全体を10ポイント以上上回るものに 、10ポイント以上下回るものに の網かけをしています。
- (8) 本報告書においては、居住地域を北東部地域、中部地域、西部地域、南部地域の地域別に分析を行っています。各地域の区分は以下のとおりです。

区分	町名
北東部地域	富士町、中町、東町、ひばりが丘北、栄町、北町、下保谷
中部地域	田無町、北原町、保谷町、泉町、住吉町
西部地域	西原町、緑町、谷戸町、芝久保町、ひばりが丘
南部地域	南町、向台町、新町、柳沢、東伏見



9 比較した調査の概要

本調査の分析にあたり、参考、比較・引用した調査等は以下のとおりです。

- (1) 西東京市：男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査（平成 24 年）
調査対象：西東京市に居住する満 18 歳以上 70 歳未満の男女
票本数：2,000 人
調査時期：平成 24 年 10 月 9 日～10 月 22 日
有効回収数（率）：765 人（38.3%）
なお、本報告書では「前回調査」と表記しています。

- (2) 内閣府：男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年 9 月）
調査対象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する者
票本数：5,000 人
調査時期：平成 28 年 8 月 25 日～9 月 11 日
有効回収数（率）：3,059 人（61.2%）
なお、本報告書では「国調査」と表記しています。

- (3) 東京都：男女平等参画に関する調査（平成 27 年 7 月）
調査対象：東京都全域に住む満 20 歳以上の男女個人
票本数：3,000 人
調査時期：平成 27 年 7 月 3 日～7 月 20 日
有効回収数（率）：1,821 人（60.7%）
なお、本報告書では「東京都調査」と表記しています。

Ⅱ 調査結果のポイント

1 回答者の属性

- ・ **性別**は「女性」が 56.5%、「男性」が 42.3%、「1・2以外」が 0.0%となっています。**年齢**は、全体では、「50歳代(18.8%)」が最も多く、「40歳代(18.4%)」、「30歳代(17.7%)」が続いています。(問1、問2)
- ・ **家族構成**は、全体では、「二世帯世帯(自分と子ども)(37.7%)」が最も多く、「夫婦のみ(26.5%)」、「二世帯世帯(自分と親)(15.3%)」が続いています。(問3)
- ・ **配偶者・パートナーの有無**は、「いる」が 69.3%、「いない」が 30.2%となっています。性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、女性は「いる」が 69.3%、男性は 69.6%となっています。(問4)
- ・ 「(配偶者・パートナーが)いる」と回答した人に、**共働きの状況**をたずねたところ、全体では、「自分も配偶者・パートナーも働いている」が 50.5%となっています。性別にみると、女性は「自分のみ働いている」が 3.6%、「配偶者・パートナーのみ働いている」が 25.8%であるのに対し、男性は「自分のみ働いている」が 30.5%、「配偶者・パートナーのみ働いている」が 4.7%となっています。(問4-1)
- ・ **居住地域**は、全体では、「北東部地域」が 24.8%、「中部地域」が 21.9%、「西部地域」が 26.3%、「南部地域」が 25.4%となっています。(問5)

2 男女平等参画の意識

- ・ **固定的性別役割分担意識についての考え**については、全体では、「解消されている(63.4%)」が「解消されていない(33.0%)」を 30.4ポイントと大幅に上回っています。性別にみると、女性は「解消されている(57.9%)」が男性(70.7%)を 12.8ポイント下回っています。(問6)
- ・ **男女の地位の平等感**について、『家庭生活の場で』、『職場で』、『学校教育の場で』、『地域社会(自治会・町内会やPTAなどの地域活動の場で)』、『政治の場で』、『法律や制度の上で』、『社会通念・習慣・しきたりなどで』という7つの分野および『社会全体では』についてたずねました。全体では、『社会通念・習慣・しきたりなどで(81.3%)』、『政治の場で(79.0%)』の2分野で《男性優遇》が8割程度と高くなっています。また、『学校教育の場で』は、《平等》が 61.4%となっており、7つの分野の中で男女の地位の平等感が最も高くなっています。『社会全体では』は、《男性優遇》が 76.7%となっています。性別にみると、どの項目でも、女性は男性より《男性優遇》、男性は女性より《平等》、《女性優遇》と回答する割合が高くなっています。《男性優遇》と回答する割合で男女差が大きい項目は、『家庭生活の場で(女性：65.1%、男性：34.8%)』、『法律や制度の上で(女性：60.4%、男性：37.7%)』、『地域社会(自治会・町内会やPTAなどの地域活動の場で)(女性：45.0%、男性：23.0%)』となっています。
- ・ 前回調査と比較すると、《平等》と回答した割合について、女性は『政治の場で』、『社会通念・習慣・しきたりなどで』以外の項目で今回調査が前回調査を下回っています。男性は『政

治の場で』以外の項目で今回調査が前回調査を下回っています。依然として《男性優遇》と感じる割合は高く、《平等》と感じる割合は低くなっています。(問7)

- ・ **女性が仕事をするについての考え**は、全体では、「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする(58.9%)」が最も多く、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(27.3%)」、「子どもができたらずやめて、その後仕事をしない(2.9%)」が続いています。性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しています。(問8)

3 日ごろの生活

- ・ **自分が行っている家事・育児・介護などは**、全体では、「掃除・洗濯(71.2%)」が最も多く、「日用品の買い物(70.4%)」、「食事の後かたづけ、食器洗い(68.7%)」が上位にあがっています。性別にみると、女性の上位2位は全体と同じですが、「掃除・洗濯(89.3%)」、「日用品の買い物(87.4%)」、「食事の支度(84.9%)」、「食事の後かたづけ、食器洗い(84.1%)」で8割半ばから9割程度と多くなっています。男性は「家具・家電品などの修理(49.8%)」が最も多く、「日用品の買い物(48.0%)」、「食事の後かたづけ、食器洗い(48.0%)」が上位にあがっています。「掃除・洗濯(46.5%)」も僅差で続いています。(問9)
- ・ **家事・育児・介護などに携わっている時間(平日、休日)は**、平日についてみると、全体では、「0～15分未満(15.9%)」が最も多く、「1～2時間未満(15.8%)」、「3～5時間未満(14.7%)」が続いています。性別にみると、女性は「3～5時間未満(23.6%)」が最も多く、「2～3時間未満(15.1%)」、「1～2時間未満(14.0%)」が続いています。男性は「0～15分未満(29.3%)」が最も多く、「30分～1時間未満」と「1～2時間未満」が17.9%、「15分～30分未満」が17.6%で続いています。
- ・ **休日についてみると**、全体では、「2～3時間未満(18.1%)」が最も多く、「3～5時間未満(15.7%)」、「1～2時間未満(14.0%)」が続いています。性別にみると、女性は「2～3時間未満(23.1%)」が最も多く、「3～5時間未満(21.2%)」、「8時間以上(18.1%)」が続いています。男性は「1～2時間未満(22.9%)」が最も多く、「0～15分未満(18.3%)」、「30分～1時間未満(14.7%)」が続いています。(問10)
- ・ **男性が家事・育児・介護などを積極的に行うために必要なことは**、全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること(68.1%)」が最も多く、「子どもの頃から、男女平等意識を教育や生活の中にとりいれること(58.0%)」、「社会の中で、男性が家事・育児を行うことが当たり前とする考え方を普及すること(56.7%)」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること(56.4%)」が上位にあがっています。(問11)

4 仕事

- ・ **収入を伴う仕事の有無**については、全体では、収入を伴う仕事をしている人は「正社員として雇用されている(33.4%)」が最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている(23.1%)」が続いています。「仕事をもっていない(主婦・主夫・その他)」は31.0%です。性・年代別にみると、収入を伴う仕事をしている人は、女性は20歳代と30歳代で「正社員として雇用されている」、40歳代と50歳代では「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」、60歳代以上は「仕事をもっていない(主婦・主夫・その他)」が最も多くなっています。男性は20歳代から50歳代で「正社員として雇用されている」、60歳代は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」が最も多くなっています。また、70歳代以上は「仕事をもっていない(主婦・主夫・その他)」が6割を超え、最も多くなっています。(問12)
- ・ 収入を伴う仕事をしていると回答した人に、**管理職への昇進意向**をたずねたところ、全体では、「思っていない」が50.8%、「思っている」が16.3%となっています。また、「現在、管理職である」は、17.0%となっています。性別にみると、男女ともに「思っていない(女性：64.2%、男性：36.2%)」が最も多くなっています。「思っている」は、女性は10.0%、男性は23.6%となっており、「現在、管理職である」は、女性は6.8%、男性は27.6%となっています。(問12-1)
- ・ 収入を伴う仕事をしていると回答した人に、**職場でハラスメントを受けた経験**についてたずねたところ、全体では、35.7%の人が何らかの職場のハラスメントを経験しており、「パワー・ハラスメント(29.8%)」が最も多く、「セクシュアル・ハラスメント(8.5%)」、「マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント(3.5%)」が続いています。「受けたことはない」は、62.6%となっています。性別にみると、男女ともに「パワー・ハラスメント(女性：27.1%、男性：32.2%)」が最も多く、続いて女性は「セクシュアル・ハラスメント(14.0%)」、男性は「マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント(2.5%)」となっています。「受けたことはない(女性：61.1%、男性65.3%)」は男女ともに6割を超えています。(問12-2)
- ・ **経済状況**は、全体では、「心配がない(69.2%)」が7割程度となっています。性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しています。(問13)
- ・ **今後の就労意向**は、全体では、「正社員として働きたい(36.2%)」が最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい(21.2%)」、「自由業・自営業・家族従業員として働きたい(12.1%)」が続いています。「働きたくない」は12.4%です。性別にみると、女性は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい(31.1%)」が最も多く、男性は「正社員として働きたい(47.6%)」が最も多くなっています。また、「正社員として働きたい」は、男性が女性を19.6ポイント上回っています。「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい」は、女性が男性を23.0ポイント上回っています。(問14)

- ・ **育児休業、介護休業の取得経験、取得意向**についてはたずねたところ、**育児休業**は、全体では、「取得経験がある」が7.8%、「必要が生じれば取得する」が25.9%、「取得には抵抗がある」が5.1%となっています。性別にみると、男女ともに「必要が生じれば取得する(女性:27.7%、男性:24.2%)」が2割を超え最も多くなっています。
- ・ **介護休業**は、全体では、「取得経験がある」が1.1%、「必要が生じれば取得する」が40.4%、「取得には抵抗がある」が6.4%となっています。性別にみると、男女ともに「必要が生じれば取得する(女性:42.3%、男性:38.4%)」が最も多くなっています。(問15)
- ・ **一時期仕事をやめた人が再就職を希望する際に役に立つもの**については、全体では、「再雇用制度(育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度)(75.8%)」が最も多く、「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(70.1%)」、「企業の理解と協力(69.8%)」が上位にあがっています。(問16)
- ・ **女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと**については、全体では、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備(83.4%)」が最も多く、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入(57.7%)」、「男性の家事参加への理解・意識改革(56.6%)」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実(56.0%)」が上位にあがっています。(問17)
- ・ **男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと**については、全体では、「上司の理解を促進する(65.6%)」が最も多く、「キャリア形成において不利にならないようにする(59.4%)」、「育児休業中の賃金を補償する(58.3%)」が上位にあがっています。(問18)
- ・ **「働き方改革」についての考え**は、全体では、「必要だと思う」が82.4%、「必要だと思わない」が3.4%となっています。性別にみると、男女ともに「必要だと思う(女性:83.6%、男性:81.3%)」が8割を超えています。問19)
- ・ **「働き方改革」のために必要なこと**は、全体では、「長時間労働の削減(77.8%)」が最も多く、「年次有給休暇の取得促進(63.8%)」、「多様で柔軟な働き方を選択しやすい環境の整備(60.3%)」、「経営者及び管理職などの意識啓発(59.7%)」が上位にあがっています。(問19-1)

5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

- ・ **「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現状況**は、全体では、「実現できている」が42.0%、「実現できていない」が48.2%となっています。性別にみると、男女ともに「実現できている(女性:42.6%、男性:41.4%)」が「実現できていない(女性:47.5%、男性:49.8%)」をそれぞれ4.9ポイント、8.4ポイント下回っています。(問20)

- ・ **仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のために必要なものは**、全体では、「男女とも残業や休日出勤を減らし、時間外（所定外）労働（時間）が短縮されること（55.2%）」が最も多く、「フレックスタイム制度の導入など就業時間（帯）を選べるようにすること（51.8%）」、「保育・介護サービスが向上すること（48.2%）」、「育児・介護などのための休暇取得や短時間勤務など（のしくみ）が整うこと（46.2%）」が上位にあがっています。（問 21）

6 地域・防災

- ・ **地域活動への現在の参加状況**をたずねたところ、全体では、現在参加している割合は、「趣味、スポーツ、習い事（22.5%）」が最も多く、「自治会・町内会の活動（9.8%）」、「自己啓発のための学習活動（6.2%）」が上位にあがっています。「参加していない」が、55.2%となっています。また、**地域活動への今後の参加意向**をたずねたところ、全体では、「趣味、スポーツ、習い事（45.3%）」が最も多く、「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動（18.0%）」、「自己啓発のための学習活動（16.1%）」が続いています。（問 22）
- ・ **防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと**として、全体では、「備蓄品に女性の視点を活かす（55.3%）」が最も多く、「避難所設備に女性の意見を反映させる（53.5%）」、「災害や防災に関する知識の習得を進める（49.5%）」が上位にあがっています。性別にみると、男女ともに順位の入れ替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、女性は「備蓄品に女性の視点を活かす（女性：63.5%、男性：45.4%）」と「避難所設備に女性の意見を反映させる（女性：61.0%、男性：44.3%）」で男性をそれぞれ18.1ポイント、16.7ポイント上回っています。（問 23）

7 人権

- ・ **性的マイノリティへの取り組みについての考え方は**、全体では、「必要だと思う」が66.5%、「必要だとは思わない」が7.3%、「わからない」が23.1%となっています。性別にみると、男女ともに「必要だと思う（女性：73.0%、男性：58.3%）」が最も多くなっています。（問 24）
- ・ **性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策**としては、全体では、「トイレ等について利用しやすい環境を整備する（62.9%）」が最も多く、「学校や市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等を行う（55.5%）」、「市民や企業等に対して意識啓発を行う（54.3%）」、「相談窓口等の充実を図る（51.0%）」が上位にあがっています。（問 24-1）
- ・ **自分の性的指向や性自認に悩んだ経験**は、全体では、「ある」が1.7%、「ない」が92.9%となっています。性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、「ある」は、女性は2.2%、男性は1.1%、「ない」は、女性は93.1%、男性は93.8%となっています。（問 25）

25)

- ・ **配偶者等からの暴力だと思えるものは**、全体では、「なぐったり、けったりする(67.1%)」が最も多く、「人格を否定するような暴言をはく(65.6%)」、「命の危険を感じるくらいの暴力行為(64.7%)」、「物をなげついたり、突き飛ばしたりする(63.4%)」が続いています。(問26)
- ・ **配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度は**、全体では、「警察(75.5%)」が最も多く、「西東京市の相談窓口(37.8%)」、「東京都の相談窓口(東京都ウィメンズプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所)(28.5%)」が上位にあがっています。(問27)
- ・ **配偶者等から暴力を受けた経験は**、全体では、暴力を受けた経験がある割合は、「心理的攻撃(8.4%、54人)」が最も多く、「身体的暴行(5.3%、34人)」、「経済的圧迫(2.5%、16人)」、「性的強要(1.9%、12人)」が続いています。(問28)
- ・ **配偶者等から暴力を受けた時の相談経験**について、男女ともに「誰にも相談しなかった(女性：49.0%、男性：76.9%)」が最も多くなっています。相談した人の相談先は、男女ともに「友人、知人に相談した(女性：34.7%、男性 15.4%)」が最も多く、女性は「家族、親族に相談した(26.5%)」、「警察に相談した(12.2%)」が続いています。(問28-1)
- ・ **誰にも相談しなかった理由**は、女性は「人に打ち明けることに抵抗があったから(41.7%)」が最も多く、「相談するほどのことではないと思ったから(33.3%)」、「相談しても無駄だと思ったから(29.2%)」が続いています。男性は「相談するほどのことではないと思ったから(40.0%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから(35.0%)」、「自分にも悪いところがあると思ったから(25.0%)」が続いています。(問28-2)

8 男女平等参画を進めるために必要な施策

- ・ **西東京市の取り組み**に関しては、《知っている》は、『西東京市男女平等推進センター パリテ』は20.3%、『西東京市男女平等参画推進計画』は24.7%、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』は13.3%、『西東京市「女性相談」』は19.2%となっています。**男女平等に関する法律等**に関して《知っている》は、『男女共同参画社会基本法』は37.2%、『配偶者暴力防止法』は31.4%、『女性活躍推進法』は34.1%となっています。前回調査と比較すると、今回調査は『西東京市男女平等推進センター パリテ』と『西東京市男女平等参画推進計画』で女性と男性の《知っている》の割合がそれぞれ高くなっています。(問29)
- ・ **市の審議会と市議会における女性の割合への考え**については、「女性の割合をもっと増やす必要がある(女性：51.1%、男性：40.4%)」が最も多く、女性は5割、男性は4割を超えています。今回調査と前回調査を比較すると、女性は「女性の割合をもっと増やす必要がある」が4.4ポイント前回調査を上回っています。(問30)

Ⅱ 調査結果のポイント

- ・ **政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由**としては、全体では、「男性優位の組織運営であるから(54.7%)」が最も多く、「性別による役割分担や性差別の意識があるから(45.3%)」、「女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから(39.8%)」が上位にあがっています。性別にみると、男女ともに上位3項目は全体と同じですが、「性別による役割分担や性差別の意識があるから(女性：49.7%、男性：39.9%)」は、女性が男性を9.8ポイント上回っています。(問31)
- ・ **男女平等推進条例制定についての意向**については、性別にみると、男女ともに「男女平等推進条例があったほうがよい(女性：63.6%、男性：63.7%)」が6割を超えています。今回調査と前回調査を比較すると、「男女平等推進条例があったほうがよい」が女性は2.9ポイント、男性は4.5ポイント前回調査を上回っています。(問32)
- ・ **西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策**は、全体では、「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(49.9%)」が最も多く、「保育サービスの多様化(47.0%)」、「雇用の場の平等な待遇の推進(44.8%)」が上位にあがっています。(問33)



Ⅲ 調查結果

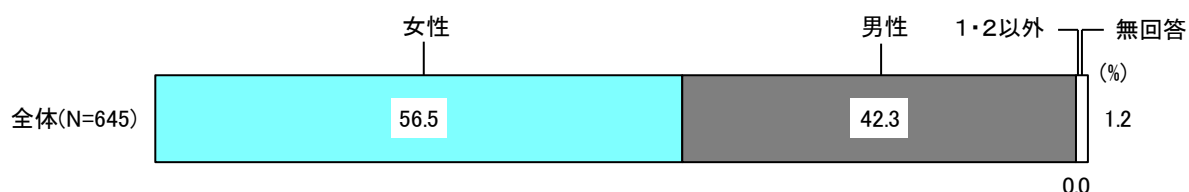
1 回答者の属性

1-1 性別

問1 あなたの性別は。(1つに○)

「女性」が56.5%、「男性」が42.3%、「1・2以外」が0.0%となっています。(図表1-1-①)

図表1-1-① 性別 (全体)



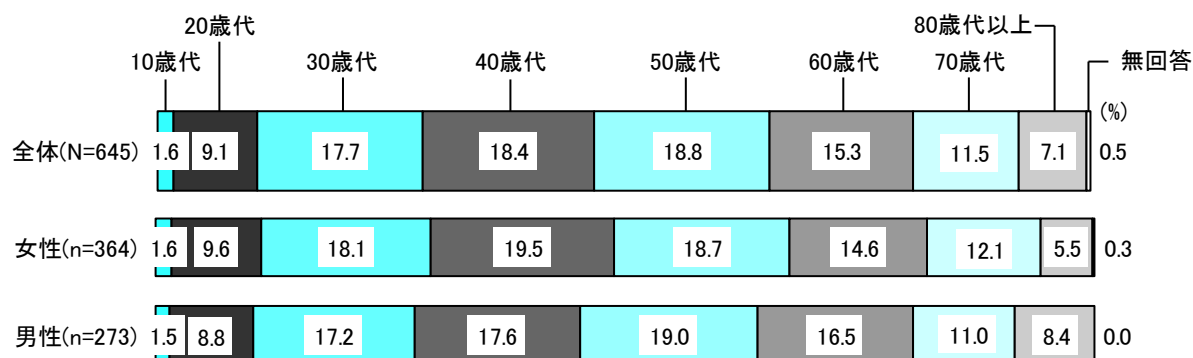
1-2 年齢

問2 あなたの年齢は。(1つに○)

全体では、「50歳代(18.8%)」が最も多く、「40歳代(18.4%)」、「30歳代(17.7%)」が続いています。

性別にみると、女性は「40歳代(19.5%)」が最も多く、「50歳代(18.7%)」、「30歳代(18.1%)」が続いています。男性は「50歳代(19.0%)」が最も多く、「40歳代(17.6%)」、「30歳代(17.2%)」が続いています。(図表1-2-①)

図表1-2-① 年齢 (全体、性別)



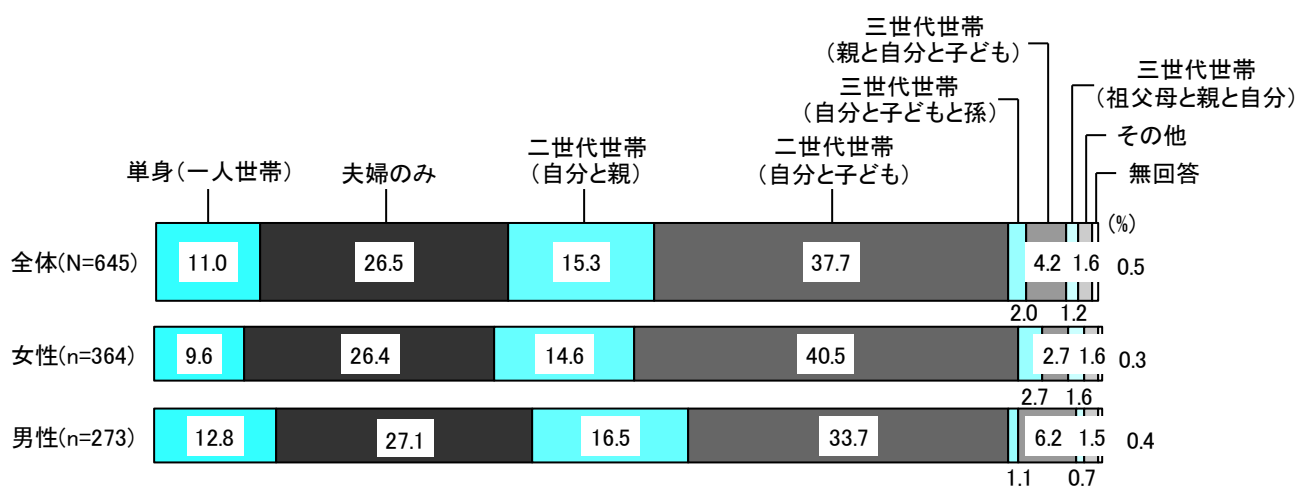
1-3 家族構成

問3 あなたのご家族の構成は次のどれにあたりますか。(1つに○)

全体では、「二世世代世帯（自分と子ども）（37.7%）」が最も多く、「夫婦のみ（26.5%）」、「二世世代世帯（自分と親）（15.3%）」が続いています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、「二世世代世帯（自分と子ども）（女性：40.5%、男性：33.7%）」が最も多く、「夫婦のみ（女性：26.4%、男性：27.1%）」、「二世世代世帯（自分と親）（女性：14.6%、男性：16.5%）」が続いています。（図表1-3-①）

図表1-3-① 家族構成（全体、性別）



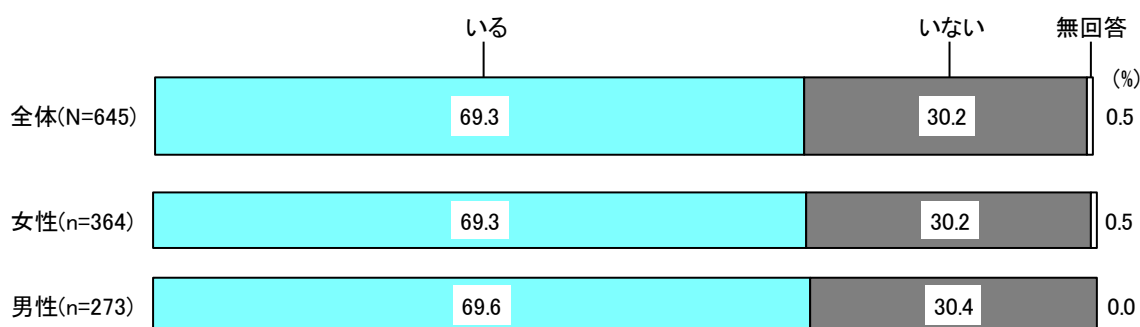
1-4 配偶者・パートナーの有無

問4 あなたには、配偶者・パートナーがいますか。(婚姻届を出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある人を含みます)(1つに〇)

全体では、「いる」が69.3%、「いない」が30.2%となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、女性は「いる」が69.3%、男性は69.6%となっています。(図表1-4-①)

図表1-4-① 配偶者・パートナーの有無(全体、性別)



性・年代別にみると、男性は30歳代で「いない(42.6%)」が全体より12.4ポイント上回っています。(図表1-4-②)

図表1-4-② 配偶者・パートナーの有無(全体、性・年代別)

		いる (%)	いない (%)	無回答 (%)	
全 体 (N= 645)		69.3	30.2	0.5	
性・年代別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	16.7	83.3	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	17.1	82.9	0.0
		30 歳 代 (n= 66)	83.3	15.2	1.5
		40 歳 代 (n= 71)	84.5	15.5	0.0
		50 歳 代 (n= 68)	77.9	22.1	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	75.5	24.5	0.0
		70 歳 代 (n= 44)	65.9	31.8	2.3
		80 歳 代 以上 (n= 20)	35.0	65.0	0.0
	男 性	10 歳 代 (n= 4)	0.0	100.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	12.5	87.5	0.0
		30 歳 代 (n= 47)	57.4	42.6	0.0
		40 歳 代 (n= 48)	70.8	29.2	0.0
		50 歳 代 (n= 52)	76.9	23.1	0.0
		60 歳 代 (n= 45)	86.7	13.3	0.0
70 歳 代 (n= 30)		96.7	3.3	0.0	
80 歳 代 以上 (n= 23)		78.3	21.7	0.0	

1-5 共働きの状況

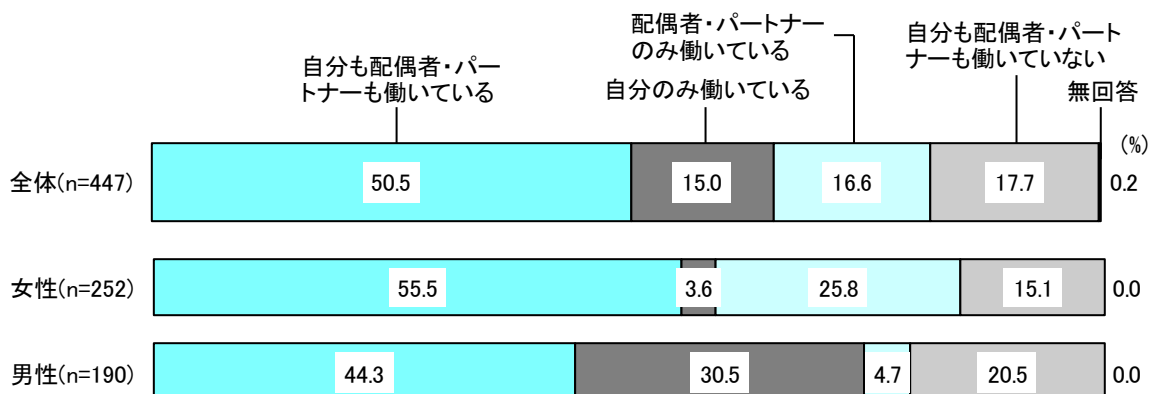
問4-1 問4で「1 いる」と答えた方におたずねします。
おふたりは共働きですか。(パート等も含みます)(1つに〇)

問4で、「いる」と回答した人に、おふたりの就労状況をたずねました。

全体では、「自分も配偶者・パートナーも働いている(50.5%)」が最も多く、「自分も配偶者・パートナーも働いていない(17.7%)」、「配偶者・パートナーのみ働いている(16.6%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「配偶者・パートナーのみ働いている(女性:55.5%、男性:44.3%)」が最も多くなっていますが、女性は「配偶者・パートナーのみ働いている(25.8%)」、男性は「自分のみ働いている(30.5%)」が続いています。(図表1-5-①)

図表1-5-① 共働きの状況(全体、性別)
＜配偶者・パートナーがいる人＞



性・年代別にみると、女性は20歳代から50歳代で「自分も配偶者・パートナーも働いている」の割合が6割を超えており、とくに40歳代の83.3%で最も高くなっています。また、30歳代で「配偶者・パートナーのみ働いている(34.5%)」が全体を17.9ポイント上回っています。男性は30歳代から60歳代で「自分のみ働いている」の割合が3割を超えており、とくに60歳代の46.1%で最も高くなっています。(図表1-5-②)

図表1-5-② 共働きの状況(全体、性・年代別)
 <配偶者・パートナーがいる人>

(%)

		自分も働いている・パートナー	自分も働いている・いない	配偶者・パートナーのみ働いている	自分のみ働いている	無回答	
全体 (n= 447)		50.5	17.7	16.6	15.0	0.2	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 6)	66.6	0.0	16.7	16.7	0.0
		30歳代 (n= 55)	65.5	0.0	34.5	0.0	0.0
		40歳代 (n= 60)	83.3	0.0	15.0	1.7	0.0
		50歳代 (n= 53)	64.1	1.9	28.3	5.7	0.0
		60歳代 (n= 40)	32.5	30.0	27.5	10.0	0.0
		70歳代 (n= 29)	6.9	58.6	34.5	0.0	0.0
		80歳代以上 (n= 7)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	男性	10歳代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		30歳代 (n= 27)	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
		40歳代 (n= 34)	58.8	0.0	5.9	35.3	0.0
		50歳代 (n= 40)	65.0	0.0	2.5	32.5	0.0
		60歳代 (n= 39)	30.8	12.8	10.3	46.1	0.0
		70歳代 (n= 29)	13.8	65.5	6.9	13.8	0.0
80歳代以上 (n= 18)		5.6	83.3	0.0	11.1	0.0	

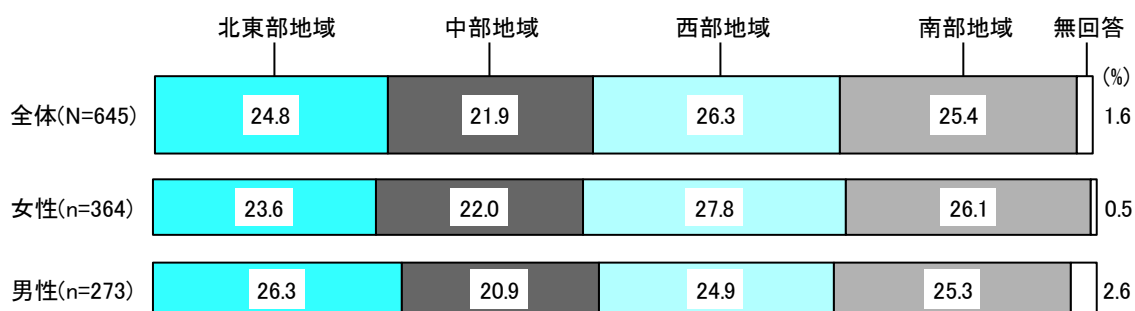
1-6 居住地域

問5 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(1から4の1つに○)

全体では「西部地域(26.3%)」が最も多く、「南部地域(25.4%)」、「北東部地域(24.8%)」が続いています。

性別にみると、女性は全体と同様の傾向を示しており、「西部地域(27.8%)」が最も多く、「南部地域(26.1%)」、「北東部地域(23.6%)」が続いています。男性は「北東部地域(26.3%)」が最も多く、「南部地域(25.3%)」、「西部地域(24.9%)」が続いています。(図表1-6-①)

図表1-6-① 居住地域(全体、性別)



2 男女平等参画の意識

2-1 固定的性別役割分担意識についての考え

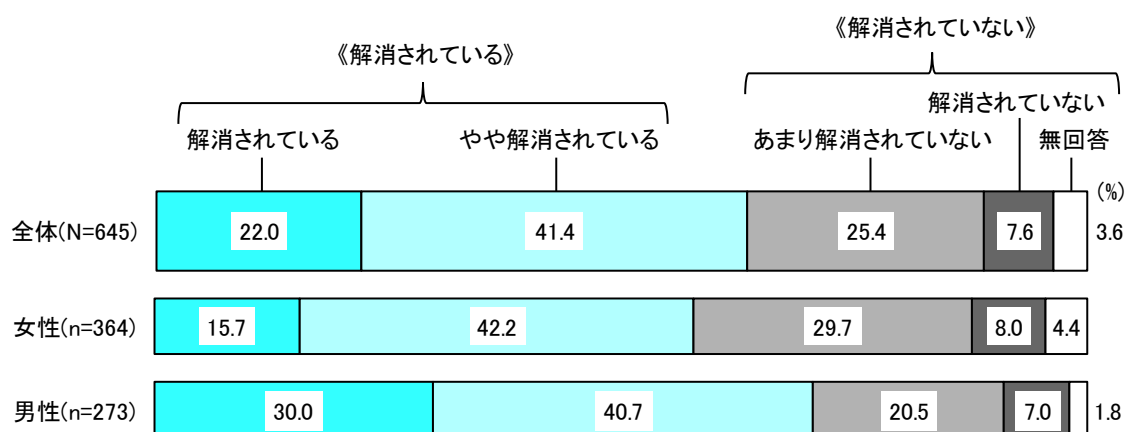
問6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別によって役割を固定する考え方を「固定的性別役割分担意識」と言います。男女平等を実現するためには、固定的性別役割分担意識を解消する必要がありますが、あなたは、固定的性別役割分担意識は解消していると思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。(1つに〇)

ここでは、「解消されている」と「やや解消されている」の合計を《解消されている》とし、「解消されていない」と「あまり解消されていない」の合計を《解消されていない》としています。

全体では、《解消されている(63.4%)》が《解消されていない(33.0%)》を30.4ポイントと大幅に上回っています。

性別にみると、女性は《解消されている》が57.9%、男性は70.7%となっています。(図表2-1-①)

図表2-1-① 固定的性別役割分担意識についての考え(全体、性別)



性・年代別にみると、女性は20歳代で《解消されていない(57.1%)》が、全体を24.1%上回っています。男性は40歳代と50歳代をのぞくすべての年代で《解消されている》が7割を超えており、とくに70歳代の90.0%で最も高くなっています。(図表2-1-②)

図表2-1-② 固定的性別役割分担意識についての考え(全体、性・年代別)

		解消されている	やや解消されている	あまり解消されていない	解消されていない	無回答	再掲		
							《解消されている》	《解消されていない》	
全体 (N= 645)		22.0	41.4	25.4	7.6	3.6	63.4	33.0	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 6)	33.4	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3
		20歳代 (n= 35)	2.9	34.3	37.1	20.0	5.7	37.2	57.1
		30歳代 (n= 66)	13.6	41.0	31.8	10.6	3.0	54.6	42.4
		40歳代 (n= 71)	18.3	42.3	28.2	7.0	4.2	60.6	35.2
		50歳代 (n= 68)	14.7	47.1	29.4	4.4	4.4	61.8	33.8
		60歳代 (n= 53)	20.8	43.4	24.5	9.4	1.9	64.2	33.9
		70歳代 (n= 44)	15.9	36.4	38.6	0.0	9.1	52.3	38.6
		80歳代以上 (n= 20)	20.0	60.0	10.0	5.0	5.0	80.0	15.0
性・年代別	男性	10歳代 (n= 4)	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	75.0
		20歳代 (n= 24)	20.8	50.0	12.5	16.7	0.0	70.8	29.2
		30歳代 (n= 47)	29.8	49.0	19.1	2.1	0.0	78.8	21.2
		40歳代 (n= 48)	20.8	31.2	29.2	12.5	6.3	52.0	41.7
		50歳代 (n= 52)	30.8	36.5	23.1	9.6	0.0	67.3	32.7
		60歳代 (n= 45)	33.3	42.3	22.2	2.2	0.0	75.6	24.4
		70歳代 (n= 30)	56.7	33.3	6.7	3.3	0.0	90.0	10.0
		80歳代以上 (n= 23)	21.7	52.2	17.4	0.0	8.7	73.9	17.4

2-2 男女の地位の平等感

問7 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)から(8)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに○)

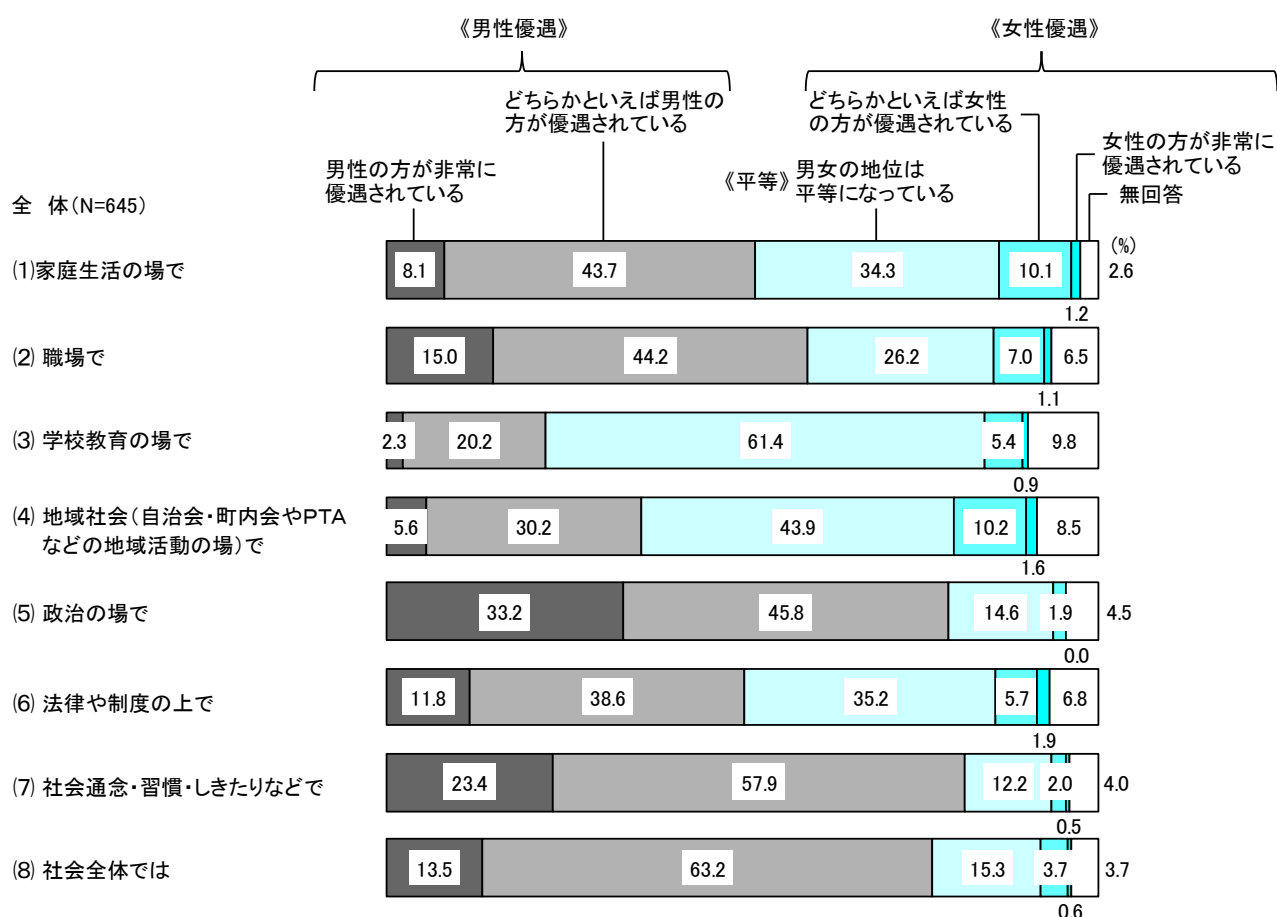
7つの分野および『社会全体では』について、男女の地位の平等感をたずねました。

ここでは、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計を《男性優遇》とし、「男女の地位は平等になっている」を《平等》とし、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計を《女性優遇》としています。

全体では、『社会通念・習慣・しきたりなどで(81.3%)』、『政治の場で(79.0%)』の2分野で《男性優遇》が8割程度と高くなっています。また、『学校教育の場で』は、《平等》が61.4%となっており、7つの分野の中で男女の地位の平等感が最も高くなっています。

『社会全体では』は、《男性優遇》が76.7%となっています。(図表2-2-①)

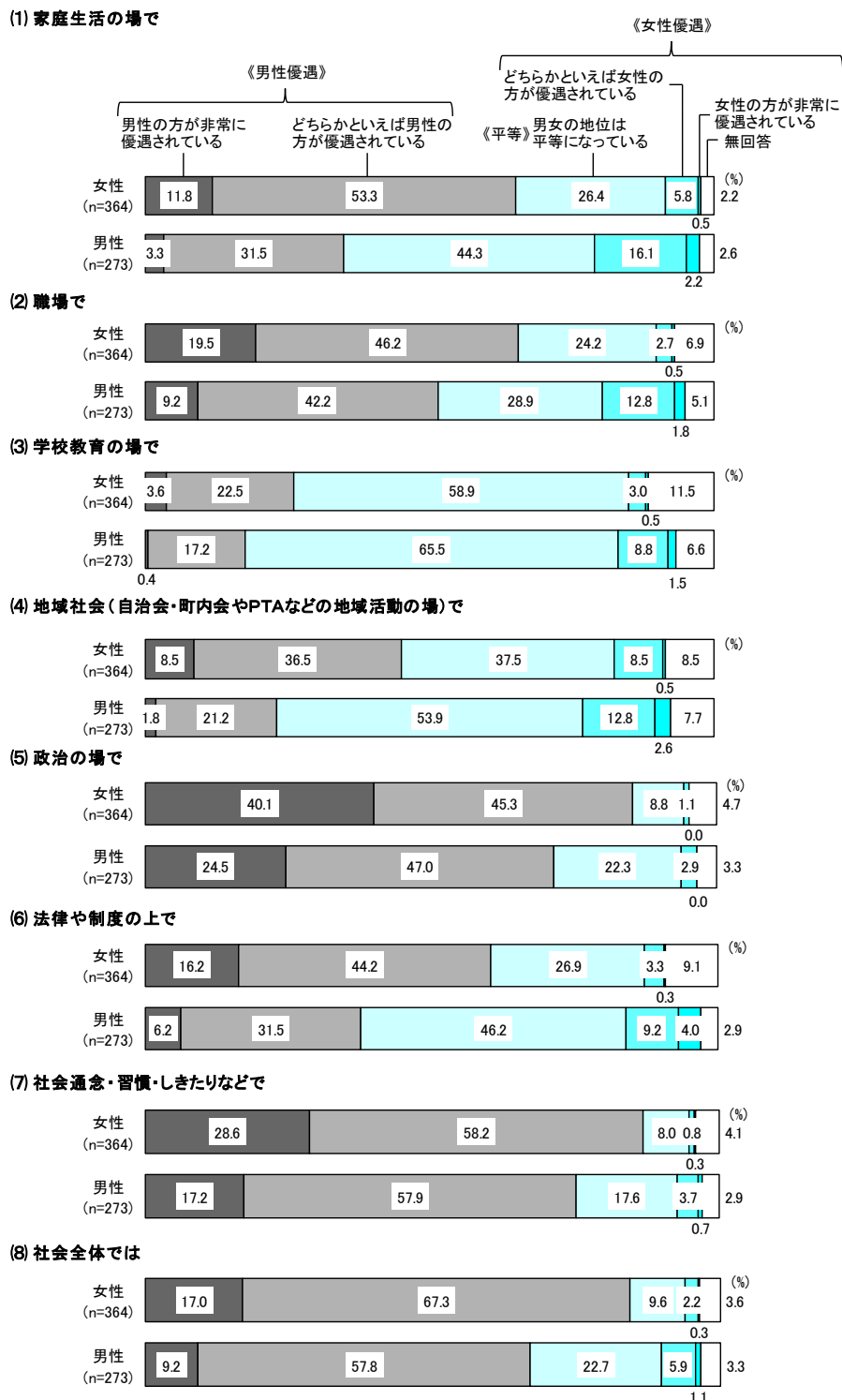
図表2-2-① 男女の地位の平等感(全体)



性別にみると、どの項目でも、女性は男性より《男性優遇》、男性は女性より《平等》、《女性優遇》と回答する割合が高くなっています。

また、《男性優遇》と回答する割合で男女差が大きい項目は、『家庭生活の場で(女性：65.1%、男性：34.8%)』、『法律や制度の上で(女性：60.4%、男性：37.7%)』、『地域社会（自治会・町内会やPTAなどの地域活動の場）で(女性：45.0%、男性：23.0%)』となっています。(図表2-2-②)

図表2-2-② 男女の地位の平等感（性別）



各分野における男女平等意識を性・年代別にみています。

(1) 家庭生活の場で

性・年代別にみると、女性は30歳代と80歳代以上をのぞき《男性優遇》が6割台から7割程度となっており、全体より10から20ポイント程度上回っています。男性は40歳代、50歳代、70歳代をのぞき《平等》が4割半ばから5割半ばとなっており、全体より10から20ポイント程度上回っています。(図表2-2-③)

図表2-2-③ 男女の地位の平等感『家庭生活の場で』
(全体、性別、性・年代別)

		優男性の方が非常に	い男性のどちらの方が優い遇えられて	な女性の地位は平等に	い女性のどちらの方が優い遇えられて	優女性の方が非常に	無回答	再掲			
								《男性優遇》	《平等》	《女性優遇》	
全体 (N= 645)		8.1	43.7	34.3	10.1	1.2	2.6	51.8	34.3	11.3	
性別	女性 (n= 364)	11.8	53.3	26.4	5.8	0.5	2.2	65.1	26.4	6.3	
	男性 (n= 273)	3.3	31.5	44.3	16.1	2.2	2.6	34.8	44.3	18.3	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 6)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
		20歳代 (n= 35)	8.6	57.0	28.6	2.9	2.9	0.0	65.6	28.6	5.8
		30歳代 (n= 66)	19.7	36.4	31.8	9.1	0.0	3.0	56.1	31.8	9.1
		40歳代 (n= 71)	12.7	50.7	28.2	7.0	1.4	0.0	63.4	28.2	8.4
		50歳代 (n= 68)	10.3	61.8	23.5	4.4	0.0	0.0	72.1	23.5	4.4
		60歳代 (n= 53)	11.3	58.5	18.9	9.4	0.0	1.9	69.8	18.9	9.4
		70歳代 (n= 44)	9.1	59.1	22.7	0.0	0.0	9.1	68.2	22.7	0.0
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	55.0	35.0	5.0	0.0	5.0	55.0	35.0	5.0
	男性	10歳代 (n= 4)	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0
		20歳代 (n= 24)	8.3	20.8	45.9	16.7	8.3	0.0	29.1	45.9	25.0
		30歳代 (n= 47)	4.3	25.5	44.7	21.3	2.1	2.1	29.8	44.7	23.4
		40歳代 (n= 48)	2.1	33.3	35.4	25.0	2.1	2.1	35.4	35.4	27.1
		50歳代 (n= 52)	3.8	32.7	40.4	21.2	1.9	0.0	36.5	40.4	23.1
		60歳代 (n= 45)	4.4	33.3	53.5	4.4	2.2	2.2	37.7	53.5	6.6
70歳代 (n= 30)		0.0	46.7	43.3	6.7	0.0	3.3	46.7	43.3	6.7	
80歳代以上 (n= 23)		0.0	26.1	52.2	8.7	0.0	13.0	26.1	52.2	8.7	

(2) 職場で

性・年代別にみると、女性は20歳代、30歳代、60歳代で《男性優遇》が7割台となっており、全体より10から15ポイント程度上回っています。男性は30歳代、40歳代で《女性優遇》が2割台となっており、全体より15から20ポイント程度上回っています。(図表2-2-④)

図表2-2-④ 男女の地位の平等感『職場で』
(全体、性別、性・年代別)

		優男性の優遇されている方が非常に	いる男性のどちらの方が優遇さばれている	どちらの地位は平等に	な男女の地位は平等に	いる女性のどちらの方が優遇さばれている	優女性の優遇されている非常に	無回答	再掲		
									《男性優遇》	《平等》	《女性優遇》
全体 (N= 645)		15.0	44.2	26.2	7.0	1.1	6.5	59.2	26.2	8.1	
性別	女性 (n= 364)	19.5	46.2	24.2	2.7	0.5	6.9	65.7	24.2	3.2	
	男性 (n= 273)	9.2	42.2	28.9	12.8	1.8	5.1	51.4	28.9	14.6	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 6)	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	50.0	33.3	0.0
		20歳代 (n= 35)	28.6	45.7	20.0	5.7	0.0	0.0	74.3	20.0	5.7
		30歳代 (n= 66)	22.7	48.5	25.8	3.0	0.0	0.0	71.2	25.8	3.0
		40歳代 (n= 71)	14.1	47.9	32.4	2.8	1.4	1.4	62.0	32.4	4.2
		50歳代 (n= 68)	16.2	44.0	32.4	4.4	1.5	1.5	60.2	32.4	5.9
		60歳代 (n= 53)	22.6	52.9	15.1	1.9	0.0	7.5	75.5	15.1	1.9
		70歳代 (n= 44)	15.9	47.7	11.4	0.0	0.0	25.0	63.6	11.4	0.0
		80歳代以上 (n= 20)	20.0	30.0	15.0	0.0	0.0	35.0	50.0	15.0	0.0
	男性	10歳代 (n= 4)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	4.2	45.8	41.7	8.3	0.0	0.0	50.0	41.7	8.3
		30歳代 (n= 47)	6.4	31.9	36.2	23.4	2.1	0.0	38.3	36.2	25.5
		40歳代 (n= 48)	6.3	41.6	22.9	20.8	6.3	2.1	47.9	22.9	27.1
		50歳代 (n= 52)	7.7	48.1	25.0	11.5	1.9	5.8	55.8	25.0	13.4
		60歳代 (n= 45)	13.3	37.8	42.2	6.7	0.0	0.0	51.1	42.2	6.7
70歳代 (n= 30)		23.3	46.7	13.3	6.7	0.0	10.0	70.0	13.3	6.7	
80歳代以上 (n= 23)		4.3	48.0	13.0	4.3	0.0	30.4	52.3	13.0	4.3	

(3) 学校教育の場で

性・年代別にみると、女性は20歳代から70歳代で《平等》が5割を超えており、とくに40歳代で7割程度となっています。男性は20歳代から60歳代で《平等》が6割を超えており、とくに20歳代、50歳代、60歳代は7割程度となっています。(図表2-2-⑤)

図表2-2-⑤ 男女の地位の平等感『学校教育の場で』
(全体、性別、性・年代別)

		優遇されている	男性の方が非常に	どちらの方が優遇されている	男女の地位は平等に	どちらの方が優遇されている	女性の方が非常に	無回答	再掲		
									《男性優遇》	《平等》	《女性優遇》
全体 (N= 645)		2.3	20.2	61.4	5.4	0.9	9.8	22.5	61.4	6.3	
性別	女性 (n= 364)	3.6	22.5	58.9	3.0	0.5	11.5	26.1	58.9	3.5	
	男性 (n= 273)	0.4	17.2	65.5	8.8	1.5	6.6	17.6	65.5	10.3	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 6)	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
		20歳代 (n= 35)	0.0	34.3	57.1	5.7	0.0	2.9	34.3	57.1	5.7
		30歳代 (n= 66)	3.0	24.2	56.2	4.5	0.0	12.1	27.2	56.2	4.5
		40歳代 (n= 71)	7.0	12.7	70.5	4.2	2.8	2.8	19.7	70.5	7.0
		50歳代 (n= 68)	2.9	25.0	61.8	1.5	0.0	8.8	27.9	61.8	1.5
		60歳代 (n= 53)	3.8	26.4	56.6	3.8	0.0	9.4	30.2	56.6	3.8
		70歳代 (n= 44)	4.5	18.2	52.3	0.0	0.0	25.0	22.7	52.3	0.0
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	25.0	30.0	0.0	0.0	45.0	25.0	30.0	0.0
	男性	10歳代 (n= 4)	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
		20歳代 (n= 24)	0.0	8.3	70.9	12.5	8.3	0.0	8.3	70.9	20.8
		30歳代 (n= 47)	0.0	23.4	68.1	8.5	0.0	0.0	23.4	68.1	8.5
		40歳代 (n= 48)	2.1	16.7	64.5	12.5	2.1	2.1	18.8	64.5	14.6
		50歳代 (n= 52)	0.0	17.3	71.2	3.8	1.9	5.8	17.3	71.2	5.7
		60歳代 (n= 45)	0.0	11.1	73.4	11.1	0.0	4.4	11.1	73.4	11.1
	70歳代 (n= 30)	0.0	23.3	56.7	6.7	0.0	13.3	23.3	56.7	6.7	
	80歳代以上 (n= 23)	0.0	21.7	39.2	4.3	0.0	34.8	21.7	39.2	4.3	

(4) 地域社会（自治会・町内会やPTAなどの地域活動の場）で

性・年代別にみると、女性は20歳代から70歳代で《男性優遇》が4割を超えており、とくに60歳代で5割程度となっています。男性は40歳代で《男性優遇》が4割半ばとなっており、全体より10ポイント上回っています。（図表2-2-⑥）

図表2-2-⑥ 男女の地位の平等感
『地域社会（自治会・町内会やPTAなどの地域活動の場）で』
（全体、性別、性・年代別）

		優男性 遇され ている 方が非 常に	い男ど 性ち のら の方 かと 優い えさ ばれ て	な男 女 の地 位は 平等 に	い女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	優女 性 の 方 が 非 常 に	無 回 答	再掲			
								《 男性 優 遇 》	《 平 等 》	《 女 性 優 遇 》	
全 体 (N= 645)		5.6	30.2	43.9	10.2	1.6	8.5	35.8	43.9	11.8	
性別	女 性 (n= 364)	8.5	36.5	37.5	8.5	0.5	8.5	45.0	37.5	9.0	
	男 性 (n= 273)	1.8	21.2	53.9	12.8	2.6	7.7	23.0	53.9	15.4	
性・ 年代別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7
		20 歳 代 (n= 35)	11.4	34.3	40.0	8.6	0.0	5.7	45.7	40.0	8.6
		30 歳 代 (n= 66)	12.1	36.4	33.3	9.1	0.0	9.1	48.5	33.3	9.1
		40 歳 代 (n= 71)	11.3	35.2	42.2	8.5	1.4	1.4	46.5	42.2	9.9
		50 歳 代 (n= 68)	5.9	36.8	41.1	8.8	0.0	7.4	42.7	41.1	8.8
		60 歳 代 (n= 53)	7.5	45.3	37.7	3.8	0.0	5.7	52.8	37.7	3.8
		70 歳 代 (n= 44)	6.8	38.7	29.5	6.8	2.3	15.9	45.5	29.5	9.1
		80 歳 代 以上 (n= 20)	0.0	20.0	25.0	20.0	0.0	35.0	20.0	25.0	20.0
	男 性	10 歳 代 (n= 4)	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	75.0
		20 歳 代 (n= 24)	0.0	8.3	66.7	16.7	8.3	0.0	8.3	66.7	25.0
		30 歳 代 (n= 47)	4.3	14.9	61.6	14.9	4.3	0.0	19.2	61.6	19.2
		40 歳 代 (n= 48)	2.1	43.7	35.4	10.4	2.1	6.3	45.8	35.4	12.5
		50 歳 代 (n= 52)	1.9	19.2	61.6	9.6	0.0	7.7	21.1	61.6	9.6
		60 歳 代 (n= 45)	0.0	11.1	64.5	13.3	2.2	8.9	11.1	64.5	15.5
70 歳 代 (n= 30)		0.0	30.0	43.4	13.3	0.0	13.3	30.0	43.4	13.3	
80 歳 代 以上 (n= 23)		4.3	17.4	43.5	8.7	0.0	26.1	21.7	43.5	8.7	

(5) 政治の場で

性・年代別にみると、女性は20歳代から60歳代で《男性優遇》が8割を超えており、とくに30歳代、40歳代で9割程度となっています。男性は40歳代、60歳代、80歳代以上で《男性優遇》が5割台から6割台となっており、全体を10から20ポイント以上下回っています。(図表2-2-⑦)

図表2-2-⑦ 男女の地位の平等感『政治の場で』
(全体、性別、性・年代別)

		優男性 のされ ている 非常に	い男 性の らか と優 い え さ れ て	な男 女の の地 位は 平 等 に	い女 性の らか と優 い え さ れ て	優女性 のされ ている 非常に	無 回 答	再掲			
								《 男性 優 遇 》	《 平 等 》	《 女性 優 遇 》	
全 体 (N= 645)		33.2	45.8	14.6	1.9	0.0	4.5	79.0	14.6	1.9	
性別	女 性 (n= 364)	40.1	45.3	8.8	1.1	0.0	4.7	85.4	8.8	1.1	
	男 性 (n= 273)	24.5	47.0	22.3	2.9	0.0	3.3	71.5	22.3	2.9	
性・ 年代別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	45.7	40.0	11.4	0.0	0.0	2.9	85.7	11.4	0.0
		30 歳 代 (n= 66)	48.5	42.4	3.0	6.1	0.0	0.0	90.9	3.0	6.1
		40 歳 代 (n= 71)	42.3	49.2	8.5	0.0	0.0	0.0	91.5	8.5	0.0
		50 歳 代 (n= 68)	32.4	52.9	13.2	0.0	0.0	1.5	85.3	13.2	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	43.4	43.4	7.5	0.0	0.0	5.7	86.8	7.5	0.0
		70 歳 代 (n= 44)	38.6	36.4	9.1	0.0	0.0	15.9	75.0	9.1	0.0
		80 歳 代 以上 (n= 20)	20.0	40.0	15.0	0.0	0.0	25.0	60.0	15.0	0.0
	男 性	10 歳 代 (n= 4)	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	29.2	50.0	20.8	0.0	0.0	0.0	79.2	20.8	0.0
		30 歳 代 (n= 47)	29.8	42.6	25.5	2.1	0.0	0.0	72.4	25.5	2.1
		40 歳 代 (n= 48)	29.2	37.4	25.0	6.3	0.0	2.1	66.6	25.0	6.3
		50 歳 代 (n= 52)	23.1	53.9	17.3	3.8	0.0	1.9	77.0	17.3	3.8
		60 歳 代 (n= 45)	22.2	42.2	35.6	0.0	0.0	0.0	64.4	35.6	0.0
70 歳 代 (n= 30)		26.7	56.7	10.0	3.3	0.0	3.3	83.4	10.0	3.3	
80 歳 代 以上 (n= 23)		8.7	47.9	17.4	4.3	0.0	21.7	56.6	17.4	4.3	

(6) 法律や制度の上で

性・年代別にみると、女性は30歳代から60歳代で《男性優遇》が6割台となっており、全体を10から15ポイント以上上回っています。20歳代では《平等》が4割半ばとなっており、全体を10ポイント以上上回っています。男性は20歳代から40歳代で、《女性優遇》が2割台となっており、全体を10から15ポイント以上上回っています。(図表2-2-⑧)

図表2-2-⑧ 男女の地位の平等感『法律や制度の上で』
(全体、性別、性・年代別)

		優男性の 優遇され ている方 が非常に 多い	い男性の どちらか の方が優 遇されて いる	な女性の 地位は平 等に	い女性の どちらか の方が優 遇されて いる	優女性の 優遇され ている方 が非常に 多い	無 回 答	再掲			
								《 男性優 遇》	《 平等》	《 女性優 遇》	
全 体 (N= 645)		11.8	38.6	35.2	5.7	1.9	6.8	50.4	35.2	7.6	
性別	女 性 (n= 364)	16.2	44.2	26.9	3.3	0.3	9.1	60.4	26.9	3.6	
	男 性 (n= 273)	6.2	31.5	46.2	9.2	4.0	2.9	37.7	46.2	13.2	
性・ 年代別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7
		20 歳 代 (n= 35)	8.6	34.3	45.6	2.9	0.0	8.6	42.9	45.6	2.9
		30 歳 代 (n= 66)	22.7	44.1	24.2	4.5	0.0	4.5	66.8	24.2	4.5
		40 歳 代 (n= 71)	22.5	40.9	28.2	5.6	1.4	1.4	63.4	28.2	7.0
		50 歳 代 (n= 68)	13.2	50.0	26.5	4.4	0.0	5.9	63.2	26.5	4.4
		60 歳 代 (n= 53)	13.2	54.8	22.6	0.0	0.0	9.4	68.0	22.6	0.0
		70 歳 代 (n= 44)	11.4	45.4	18.2	0.0	0.0	25.0	56.8	18.2	0.0
		80 歳 代 以上 (n= 20)	10.0	20.0	40.0	0.0	0.0	30.0	30.0	40.0	0.0
	男 性	10 歳 代 (n= 4)	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	25.0
		20 歳 代 (n= 24)	8.3	20.8	45.9	20.8	4.2	0.0	29.1	45.9	25.0
		30 歳 代 (n= 47)	10.6	29.8	34.1	14.9	10.6	0.0	40.4	34.1	25.5
		40 歳 代 (n= 48)	2.1	33.3	41.6	16.7	4.2	2.1	35.4	41.6	20.9
		50 歳 代 (n= 52)	7.7	30.8	53.8	5.8	1.9	0.0	38.5	53.8	7.7
		60 歳 代 (n= 45)	4.4	35.6	55.6	2.2	2.2	0.0	40.0	55.6	4.4
		70 歳 代 (n= 30)	10.0	40.0	40.0	3.3	0.0	6.7	50.0	40.0	3.3
		80 歳 代 以上 (n= 23)	0.0	26.1	52.2	0.0	0.0	21.7	26.1	52.2	0.0

(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで

性・年代別にみると、女性は20歳代から60歳代で《男性優遇》が8割を超えており、とくに20歳代で9割程度となっています。男性は30歳代から70歳代で《男性優遇》が7割を超えており、とくに60歳代、70歳代で8割となっています。また、20歳代で《平等》が2割半ばとなっています。(図表2-2-⑨)

図表2-2-⑨ 男女の地位の平等感『社会通念・習慣・しきたりなどで』
(全体、性別、性・年代別)

		優男性 の 優遇 され て い る に	い る 男 性 の 地 位 は 平 等 に	な ら ば 平 等 に	い る 女 性 の 地 位 は 平 等 に	優女性 の 優 遇 され て い る に	無 回 答	再掲			
								《 男性 優 遇 》	《 平 等 》	《 女 性 優 遇 》	
全 体 (N= 645)		23.4	57.9	12.2	2.0	0.5	4.0	81.3	12.2	2.5	
性別	女 性 (n= 364)	28.6	58.2	8.0	0.8	0.3	4.1	86.8	8.0	1.1	
	男 性 (n= 273)	17.2	57.9	17.6	3.7	0.7	2.9	75.1	17.6	4.4	
性・年代別	女	10 歳 代 (n= 6)	16.7	66.6	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7
		20 歳 代 (n= 35)	34.3	57.1	5.7	0.0	0.0	2.9	91.4	5.7	0.0
		30 歳 代 (n= 66)	34.8	54.6	7.6	3.0	0.0	0.0	89.4	7.6	3.0
		40 歳 代 (n= 71)	29.6	59.1	8.5	0.0	1.4	1.4	88.7	8.5	1.4
		50 歳 代 (n= 68)	30.9	55.8	11.8	0.0	0.0	1.5	86.7	11.8	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	32.1	56.6	7.5	0.0	0.0	3.8	88.7	7.5	0.0
		70 歳 代 (n= 44)	15.9	63.7	6.8	0.0	0.0	13.6	79.6	6.8	0.0
		80 歳 代 以上 (n= 20)	10.0	65.0	5.0	0.0	0.0	20.0	75.0	5.0	0.0
	男	10 歳 代 (n= 4)	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	20.8	45.9	25.0	8.3	0.0	0.0	66.7	25.0	8.3
		30 歳 代 (n= 47)	14.9	57.5	19.1	8.5	0.0	0.0	72.4	19.1	8.5
		40 歳 代 (n= 48)	16.7	60.3	14.6	4.2	2.1	2.1	77.0	14.6	6.3
		50 歳 代 (n= 52)	17.3	57.8	15.4	3.8	1.9	3.8	75.1	15.4	5.7
		60 歳 代 (n= 45)	17.8	62.2	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0
		70 歳 代 (n= 30)	30.0	50.0	16.7	0.0	0.0	3.3	80.0	16.7	0.0
		80 歳 代 以上 (n= 23)	0.0	65.2	17.4	0.0	0.0	17.4	65.2	17.4	0.0

(8) 社会全体では

性・年代別にみると、女性は20歳代から60歳代で《男性優遇》が8割を超えており、とくに60歳代で9割程度となっています。男性は20歳代、30歳代、60歳代で《平等》が2割台から3割台となっており、全体を10から15ポイント以上上回っています。40歳代は《女性優遇》が1割半ばとなっており、全体を10ポイント以上上回っています。(図表2-2-⑩)

図表2-2-⑩ 男女の地位の平等感『社会全体では』
(全体、性別、性・年代別)

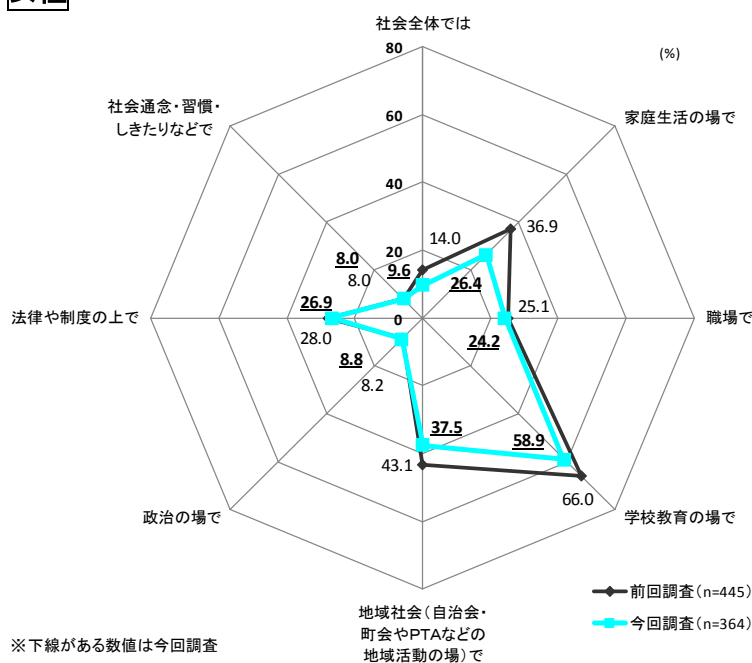
		優男性 遇され ている 方が非 常に	い男ど る性ち のら 方が 優い えば れて	な男 女の 地位 は平 等に	い女ど る性ち のら 方が 優い えば れて	優女性 遇され ている 方が非 常に	無 回 答	再掲			
								《 男性 優遇 》	《 平 等 》	《 女性 優遇 》	
全 体 (N= 645)		13.5	63.2	15.3	3.7	0.6	3.7	76.7	15.3	4.3	
性別	女 性 (n= 364)	17.0	67.3	9.6	2.2	0.3	3.6	84.3	9.6	2.5	
	男 性 (n= 273)	9.2	57.8	22.7	5.9	1.1	3.3	67.0	22.7	7.0	
性・ 年代別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	16.7	50.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
		20 歳 代 (n= 35)	25.7	60.0	8.6	5.7	0.0	0.0	85.7	8.6	5.7
		30 歳 代 (n= 66)	18.2	65.2	13.6	3.0	0.0	0.0	83.4	13.6	3.0
		40 歳 代 (n= 71)	15.5	73.3	7.0	2.8	1.4	0.0	88.8	7.0	4.2
		50 歳 代 (n= 68)	11.8	77.9	10.3	0.0	0.0	0.0	89.7	10.3	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	26.4	64.1	3.8	0.0	0.0	5.7	90.5	3.8	0.0
		70 歳 代 (n= 44)	13.6	54.6	15.9	0.0	0.0	15.9	68.2	15.9	0.0
		80 歳 代 以上 (n= 20)	5.0	70.0	10.0	0.0	0.0	15.0	75.0	10.0	0.0
	男 性	10 歳 代 (n= 4)	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0
		20 歳 代 (n= 24)	0.0	54.2	33.3	8.3	4.2	0.0	54.2	33.3	12.5
		30 歳 代 (n= 47)	10.6	53.3	25.5	10.6	0.0	0.0	63.9	25.5	10.6
		40 歳 代 (n= 48)	6.3	62.4	14.6	12.5	2.1	2.1	68.7	14.6	14.6
		50 歳 代 (n= 52)	9.6	61.6	25.0	0.0	1.9	1.9	71.2	25.0	1.9
		60 歳 代 (n= 45)	11.1	51.2	31.1	2.2	0.0	4.4	62.3	31.1	2.2
		70 歳 代 (n= 30)	20.0	63.4	13.3	0.0	0.0	3.3	83.4	13.3	0.0
		80 歳 代 以上 (n= 23)	4.3	61.0	13.0	4.3	0.0	17.4	65.3	13.0	4.3

『前回調査(平成 24 年調査)との比較』

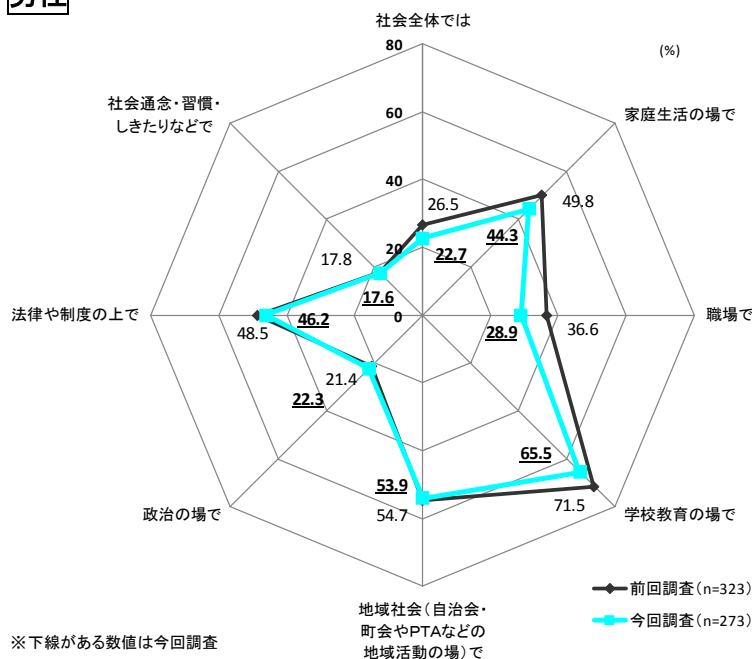
男女の地位の平等感について、性別に《平等》と回答した割合を今回調査と前回調査で比較しています。女性は『政治の場で』、『社会通念・習慣・しきたりなどで』以外の項目で今回調査が前回調査を下回っています。男性は『政治の場で』以外の項目で今回調査が前回調査を下回っています。(図表 2-2-⑪)

図表 2-2-⑪ 男女の地位の平等感(性別)【前回比較】
 <《平等》と回答した割合>

女性



男性



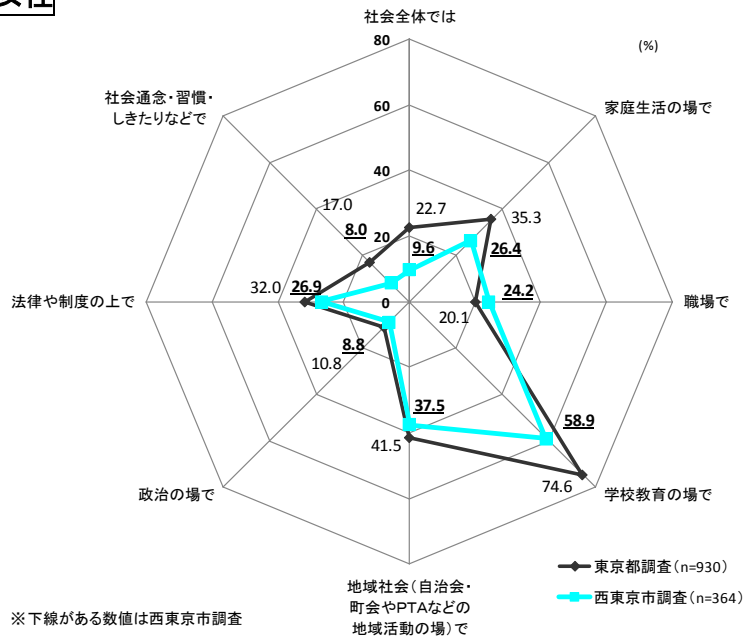
※前回調査は対象者の年齢が 18 歳以上 70 歳未満、今回調査は対象者の年齢が異なります。

『東京都調査との比較』

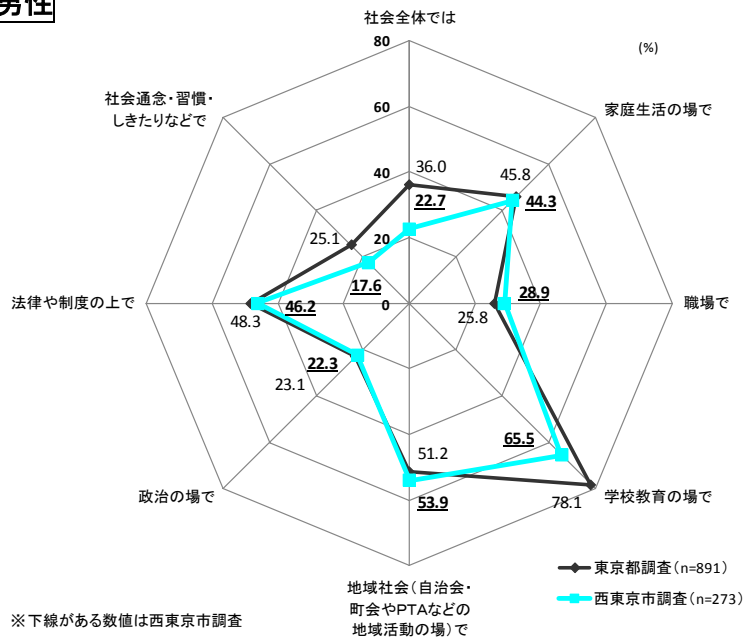
男女の地位の平等感について、性別に《平等》と回答した割合を今回の西東京市調査と東京都調査で比較しています。男女とも『職場で』のみ西東京市が東京都を上回っています。また、男性は『地域社会（自治会・町会やPTAなどの地域生活の場）で』においても西東京市が東京都を上回っています。（図表2-2-⑫）

図表2-2-⑫ 男女の地位の平等感（性別）【東京都比較】
 <《平等》と回答した割合>

女性



男性



※東京都調査は「男女平等参画に関する調査」(平成27年7月)

※調査対象者の年齢は、西東京市では18歳以上70歳未満、東京都では20歳以上です。

※『全体』は西東京市が『社会全体では』、東京都が『全体として』でたずねています。『地域社会』は西東京市が『地域社会（自治会・町会やPTAなどの地域生活の場）で』、東京都が『自治会やNPOなどの地域活動場の場』でたずねています。

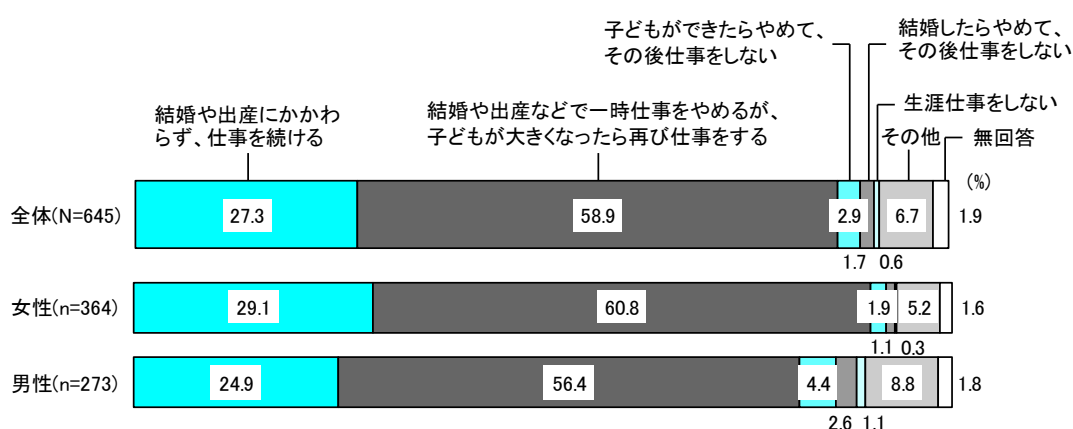
2-3 女性が仕事をすることについての考え

問8 女性が仕事をする事について、あなたのお考えに近いものを選んでください。(1つに〇)

全体では、「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする(58.9%)」が最も多く、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(27.3%)」、「子どもができればやめて、その後仕事をしない(2.9%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示していますが、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」、「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする」と考えている人は、女性は89.9%、男性は81.3%となっています。(図表2-3-①)

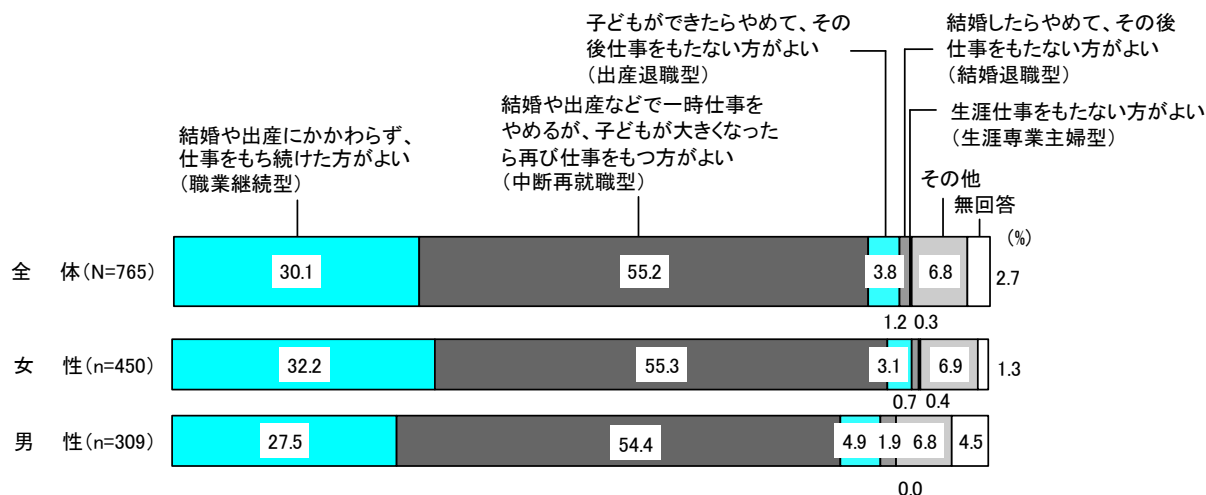
図表2-3-① 女性が仕事をする事についての考え (全体、性別)



参考『前回調査(平成24年調査)の結果』

前回調査は、全体では、「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい(中断再就職型)(55.2%)」が最も多く、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい(職業継続型)(30.1%)」、「子どもができればやめて、その後仕事をもたない方がよい(出産退職型)(3.8%)」が続いています。(図表2-3-②)

図表2-3-② 女性が仕事をもつことについての考え (全体、性別)



※前回調査は対象者の年齢が18歳以上70歳未満、今回調査は対象者の年齢と選択肢の一部が異なります。

性・年代別にみると、女性はすべての年代で「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする」が最も多くなっており、とくに 40 歳代で 7 割を超えています。また、30 歳代で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が 3 割を超えており、全体を 10 ポイント以上上回っています。男性はすべての年代で「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする」が最も多くなっていますが、20 歳代、40 歳代では、全体を 10 ポイント以上上回っています。また、男性の 20 歳代は「その他」が 3 割程度と全体を 20 ポイント以上上回っており、具体的には「本人の希望通りにするのがよい」、「ちゃんと仕事をしてくれるなら性別は関係ない」といった意見があがっています。(図表 2-3-③)

図表 2-3-③ 女性が仕事をすることについての考え（全体、性・年代別）

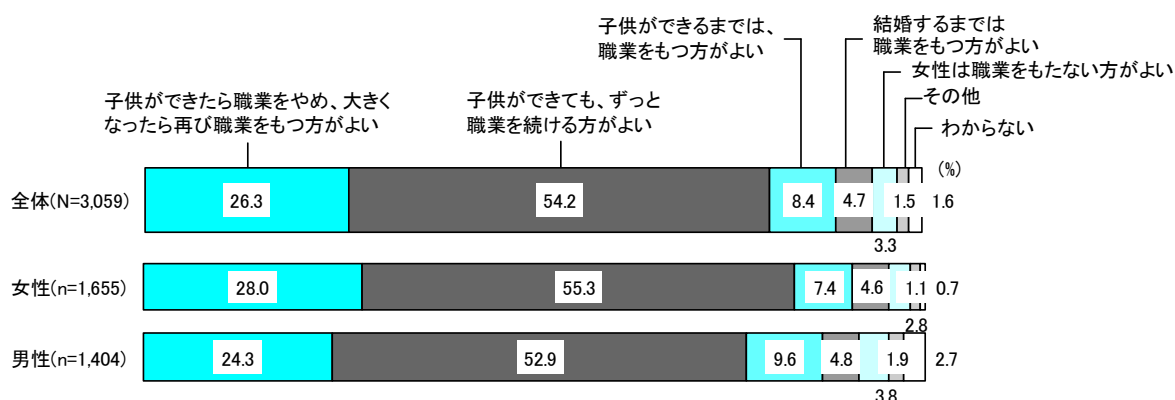
		(%)							
		結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	やめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする	結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする	後子供ができたらやめて、その後仕事をしな	結婚したらやめて、その後仕事をしな	生涯仕事をしな	その他	無回答
全 体 (N= 645)		27.3	58.9	2.9	1.7	0.6	6.7	1.9	
性・年代別	女	10 歳代 (n= 6)	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳代 (n= 35)	34.3	54.2	2.9	0.0	0.0	8.6	0.0
		30 歳代 (n= 66)	37.9	56.1	3.0	0.0	0.0	3.0	0.0
		40 歳代 (n= 71)	18.3	73.3	2.8	0.0	0.0	5.6	0.0
		50 歳代 (n= 68)	30.9	52.9	0.0	2.9	1.5	10.3	1.5
		60 歳代 (n= 53)	35.8	58.5	0.0	1.9	0.0	3.8	0.0
		70 歳代 (n= 44)	18.2	68.1	0.0	2.3	0.0	2.3	9.1
		80 歳代以上 (n= 20)	25.0	65.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	男	10 歳代 (n= 4)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
		20 歳代 (n= 24)	12.5	41.6	12.5	4.2	0.0	29.2	0.0
		30 歳代 (n= 47)	31.9	59.7	2.1	0.0	2.1	2.1	2.1
		40 歳代 (n= 48)	33.3	48.0	8.3	2.1	0.0	8.3	0.0
		50 歳代 (n= 52)	19.2	63.6	0.0	1.9	1.9	9.6	3.8
		60 歳代 (n= 45)	31.1	51.1	6.7	2.2	0.0	8.9	0.0
70 歳代 (n= 30)		23.3	66.7	3.3	6.7	0.0	0.0	0.0	
80 歳代以上 (n= 23)		13.0	65.4	0.0	4.3	4.3	4.3	8.7	

参考 『国調査の結果』、『東京都調査の結果』

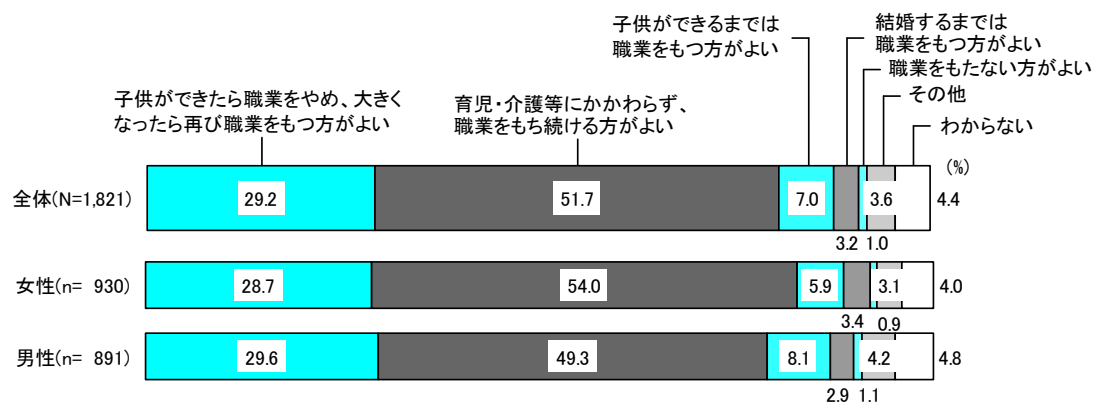
国調査は、全体では、「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい(54.2%)」が最も多く、「子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(26.3%)」、「子供ができるまでは職業をもつ方がよい(8.4%)」が続いています。(図表2-3-④)

東京都調査は、全体では、「育児・介護等にかかわらず、職業をもち続ける方がよい(51.7%)」が最も多く、「子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(29.2%)」、「子供ができるまでは職業をもつ方がよい(7.0%)」が続いています。(図表2-3-⑤)

図表2-3-④ 女性が職業をもつことに対する意識（全体、性別）
【国】



図表2-3-⑤ 女性が職業をもつことについての考え（全体、性別）
【東京都】



※国調査は「男女共同参画に関する世論調査」(平成28年9月)

※東京都調査は「男女平等参画に関する調査」(平成27年7月)

3 日ごろの生活

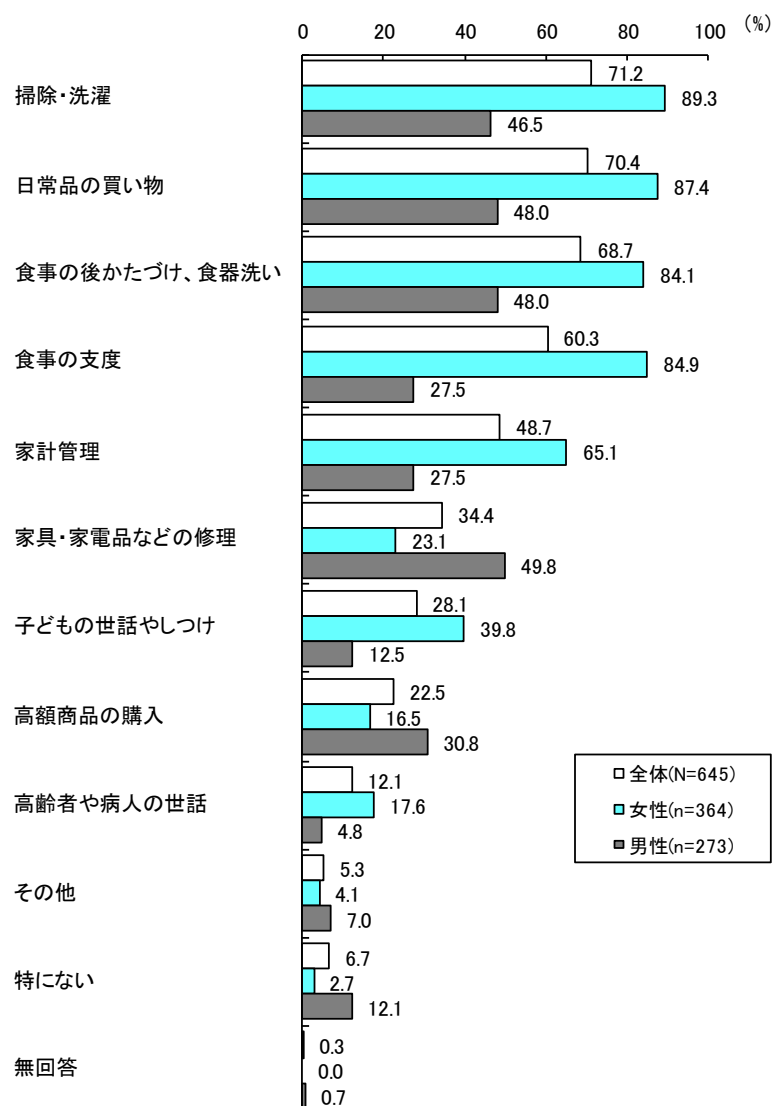
3-1 自分が行っている家事・育児・介護など

問9 日ごろの生活についておたずねします。あなたが主に行っているものを、お答えください。(いくつでも〇)

全体では、「掃除・洗濯(71.2%)」が最も多く、「日用品の買い物(70.4%)」、「食事の後かたづけ、食器洗い(68.7%)」が続いています。

性別にみると、女性の上位2位は全体と同じですが、「掃除・洗濯(89.3%)」、「日用品の買い物(87.4%)」、「食事の支度(84.9%)」、「食事の後かたづけ、食器洗い(84.1%)」で8割半ばから9割程度と多くなっています。男性は「家具・家電品などの修理(49.8%)」が最も多く、「日用品の買い物(48.0%)」と「食事の後かたづけ、食器洗い(48.0%)」が同率で続いています。「掃除・洗濯(46.5%)」も僅差で続いています。(図表3-1-①)

図表3-1-① 自分が行っている家事・育児・介護など（全体、性別：複数回答）



Ⅲ 調査結果

性・配偶者・パートナーの有無・ふたりの働き方別にみると、女性で配偶者・パートナーがいる人は多くの項目で全体を大幅に上回っています。男性で配偶者・パートナーがいる人のうち、共働きの人、自分のみ働いている人は多くの項目で全体を下回っていますが、「家具・家電品などの修理」、「高額商品の購入」で10から25ポイント程度上回っています。(図表3-1-②)

図表3-1-② 自分が行っている家事・育児・介護など
(全体、性・配偶者・パートナーの有無・ふたりの働き方別：複数回答)

			掃除・洗濯	日用品の買い物	食事の後かたづけ、食器洗い	食事の支度	家計管理	家具・家電品などの修理	子どもの世話やしつけ	高額商品の購入	高齢者や病人の世話	その他	特にない	無回答
全		体 (N= 645)	71.2	70.4	68.7	60.3	48.7	34.4	28.1	22.5	12.1	5.3	6.7	0.3
性・配偶者・パートナーの有無 ふたりの働き方別	女	配偶者・パートナーあり (n= 252)	96.0	94.0	89.3	94.0	71.8	23.8	53.2	15.9	19.8	4.8	0.0	0.0
		共働き (n= 140)	96.4	97.1	87.9	94.3	75.0	29.3	65.7	17.9	20.7	5.0	0.0	0.0
		自分のみ働いている (n= 9)	100.0	66.7	77.8	55.6	55.6	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
		配偶者・パートナーのみ働いている (n= 65)	100.0	98.5	96.9	98.5	72.3	24.6	56.9	16.9	18.5	4.6	0.0	0.0
		どちらも働いていない (n= 38)	86.8	81.6	84.2	94.7	63.2	7.9	7.9	10.5	18.4	5.3	0.0	0.0
	配偶者・パートナーなし (n= 110)	74.5	72.7	72.7	64.5	50.9	21.8	9.1	18.2	12.7	2.7	8.2	0.0	
	男	配偶者・パートナーあり (n= 190)	45.3	45.8	48.9	22.6	26.3	54.7	16.3	36.3	3.7	5.3	8.4	0.0
		共働き (n= 84)	50.0	44.0	57.1	23.8	25.0	58.3	20.2	35.7	4.8	2.4	6.0	0.0
		自分のみ働いている (n= 58)	36.2	36.2	37.9	12.1	29.3	60.3	22.4	44.8	1.7	6.9	8.6	0.0
		配偶者・パートナーのみ働いている (n= 9)	33.3	55.6	66.7	44.4	11.1	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0
どちらも働いていない (n= 39)		51.3	61.5	43.6	30.8	28.2	43.6	0.0	28.2	5.1	10.3	10.3	0.0	
配偶者・パートナーなし (n= 83)	49.4	53.0	45.8	38.6	30.1	38.6	3.6	18.1	7.2	10.8	20.5	2.4		

3-2 家事・育児・介護などに携わっている時間（平日、休日）

問10 あなたが平日・休日で家事・育児・介護などに携わる1日あたりの時間はどのくらいですか。平均的な時間をお答えください。（それぞれについて、1つに○）

平日

平日についてみると、全体では、「0～15分未満(15.9%)」が最も多く、「1～2時間未満(15.8%)」、「3～5時間未満(14.7%)」が続いています。

性別にみると、女性は「3～5時間未満(23.6%)」が最も多く、「2～3時間未満(15.1%)」、「1～2時間未満(14.0%)」が続いています。男性は「0～15分未満(29.3%)」が最も多く、「30分～1時間未満」と「1～2時間未満」が17.9%、「15分～30分未満」が17.6%で続いています。（図表3-2-①）

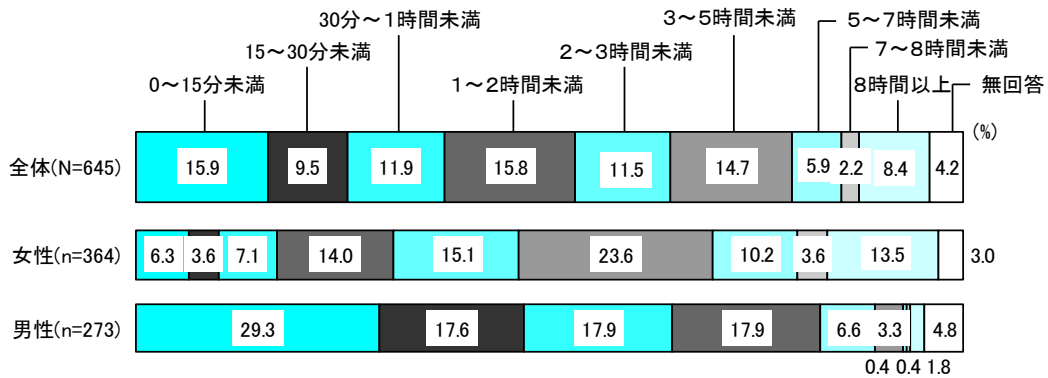
休日

休日についてみると、全体では、「2～3時間未満(18.1%)」が最も多く、「3～5時間未満(15.7%)」、「1～2時間未満(14.0%)」が続いています。

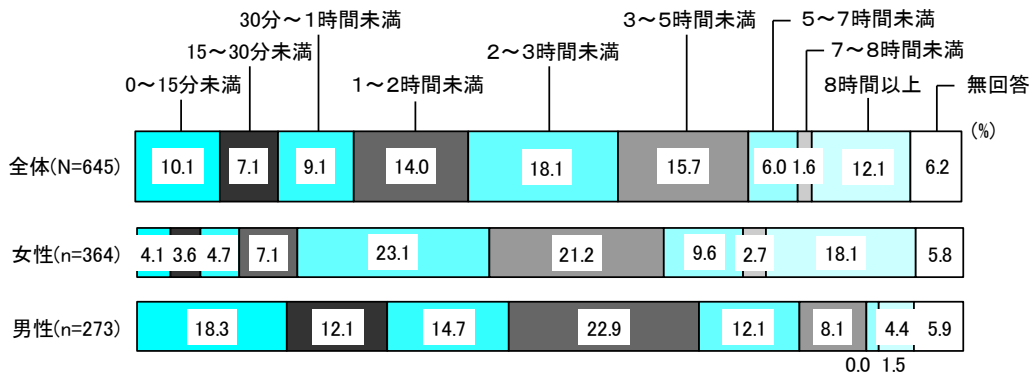
性別にみると、女性は「2～3時間未満(23.1%)」が最も多く、「3～5時間未満(21.2%)」、「8時間以上(18.1%)」が続いています。男性は「1～2時間未満(22.9%)」が最も多く、「0～15分未満(18.3%)」、「30分～1時間未満(14.7%)」が続いています。（図表3-2-①）

図表3-2-① 家事・育児・介護などに携わっている時間（平日、休日）（全体、性別）

平日



休日



Ⅲ 調査結果

性・配偶者・パートナーの有無・ふたりの働き方別にみると、女性で配偶者・パートナーがいる人のうち共働きの人は、平日は「3～5時間未満(30.0%)」が3割で最も多くなっており、全体を15ポイント程度上回っています。休日は、「8時間以上(27.1%)」が2割台で最も多くなっており、全体を15ポイント程度上回っています。

男性で配偶者・パートナーがいる人のうち共働きの人は、平日は「15分～30分未満(27.4%)」が3割弱で最も多くなっており、全体を15ポイント以上上回っています。休日は、「1～2時間未満(30.9%)」が3割程度で最も多くなっており、全体を15ポイント程度上回っています。(図表3-2-②)

図表3-2-② 家事・育児・介護などに携わっている時間（平日、休日）
（全体、性・配偶者・パートナーの有無・ふたりの働き方別）

平日

		0 ～ 1 5 分 未 満	1 ～ 5 分 未 満	3 0 分 ～ 1 時 間 未 満	1 ～ 2 時 間 未 満	2 ～ 3 時 間 未 満	3 ～ 5 時 間 未 満	5 ～ 7 時 間 未 満	7 ～ 8 時 間 未 満	8 時 間 以 上	無 回 答	
全 体 (N= 645)		15.9	9.5	11.9	15.8	11.5	14.7	5.9	2.2	8.4	4.2	
性・配偶者・パートナーの有無	女 性	配偶者・パートナーあり (n= 252)	0.4	1.2	3.2	11.9	15.5	29.6	13.9	4.4	18.3	1.6
		共 働 き (n= 140)	0.7	1.4	5.0	14.3	14.3	30.0	13.6	2.9	16.4	1.4
		自分のみ働いている (n= 9)	0.0	0.0	0.0	44.5	33.3	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
		配偶者・パートナーのみ働いている (n= 65)	0.0	0.0	0.0	4.6	12.3	24.6	18.5	6.2	33.8	0.0
		どちらも働いていない (n= 38)	0.0	2.6	2.6	7.9	21.1	39.5	10.5	7.9	2.6	5.3
配偶者・パートナーなし (n= 110)	18.2	9.1	16.4	19.1	14.5	10.0	1.8	1.8	2.7	6.4		
男 性	性	配偶者・パートナーあり (n= 190)	24.6	21.6	21.6	15.3	7.4	4.2	0.0	0.5	1.6	3.2
		共 働 き (n= 84)	25.0	27.4	19.0	16.7	7.1	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0
		自分のみ働いている (n= 58)	31.1	22.4	27.6	13.8	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	1.7
		配偶者・パートナーのみ働いている (n= 9)	22.2	0.0	22.2	33.4	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		どちらも働いていない (n= 39)	15.4	12.8	17.9	10.3	15.4	5.1	0.0	2.6	7.7	12.8
配偶者・パートナーなし (n= 83)	39.9	8.4	9.6	24.1	4.8	1.2	1.2	0.0	2.4	8.4		

休日

		0 ～ 1 5 分 未 満	1 ～ 5 分 未 満	3 0 分 ～ 1 時 間 未 満	1 ～ 2 時 間 未 満	2 ～ 3 時 間 未 満	3 ～ 5 時 間 未 満	5 ～ 7 時 間 未 満	7 ～ 8 時 間 未 満	8 時 間 以 上	無 回 答	
全 体 (N= 645)		10.1	7.1	9.1	14.0	18.1	15.7	6.0	1.6	12.1	6.2	
性・配偶者・パートナーの有無	女 性	配偶者・パートナーあり (n= 252)	0.0	0.0	2.4	4.8	24.9	23.4	12.7	3.6	24.2	4.0
		共 働 き (n= 140)	0.0	0.0	2.9	6.4	21.4	23.6	12.1	3.6	27.1	2.9
		自分のみ働いている (n= 9)	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0
		配偶者・パートナーのみ働いている (n= 65)	0.0	0.0	1.5	1.5	18.5	16.9	21.5	3.1	32.4	4.6
		どちらも働いていない (n= 38)	0.0	0.0	2.6	5.3	39.5	34.2	2.6	5.3	2.6	7.9
配偶者・パートナーなし (n= 110)	12.7	11.8	10.0	12.7	19.2	16.4	2.7	0.9	4.5	9.1		
男 性	性	配偶者・パートナーあり (n= 190)	12.1	11.6	19.5	23.1	12.6	9.5	1.6	0.0	5.8	4.2
		共 働 き (n= 84)	9.5	11.9	17.9	30.9	10.7	11.9	0.0	0.0	6.0	1.2
		自分のみ働いている (n= 58)	13.8	8.6	20.7	22.4	13.8	10.3	5.2	0.0	5.2	0.0
		配偶者・パートナーのみ働いている (n= 9)	22.2	0.0	44.5	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		どちらも働いていない (n= 39)	12.8	18.0	15.4	10.3	12.8	5.1	0.0	0.0	7.7	17.9
配偶者・パートナーなし (n= 83)	32.6	13.3	3.6	22.9	10.8	4.8	1.2	0.0	1.2	9.6		

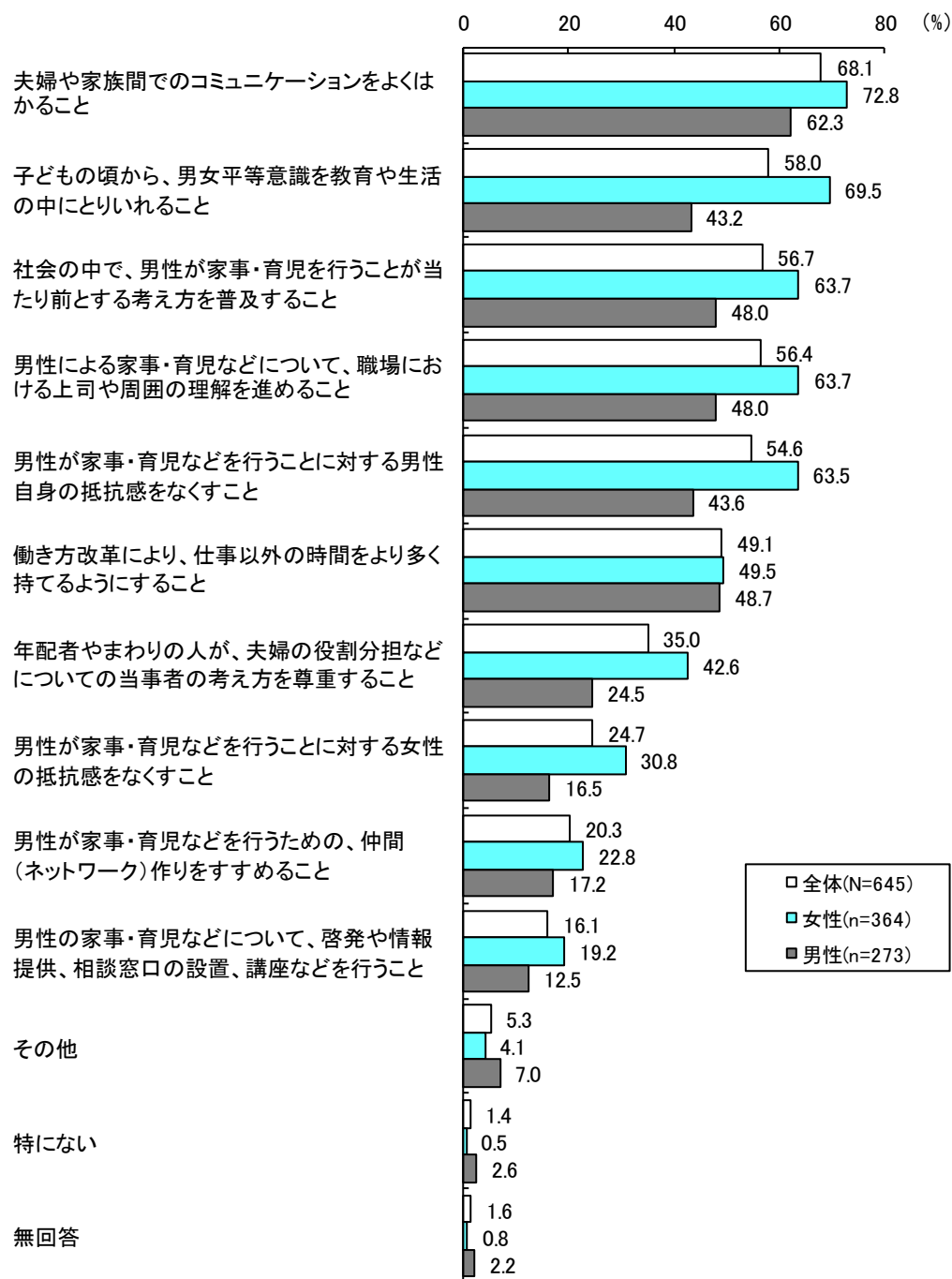
3-3 男性が家事・育児・介護などを積極的に行うために必要なこと

問11 あなたは、男性が家事、育児、介護などを積極的に行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも〇)

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること(68.1%)」が最も多く、「子どもの頃から、男女平等意識を教育や生活の中にとりいれること(58.0%)」、「社会の中で、男性が家事・育児を行うことが当たり前とする考え方を普及すること(56.7%)」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること(56.4%)」が続いています。

性別にみると、女性の上位2位は全体と同じですが、3位に「男性が家事・育児を行うことが当たり前とする考え方を普及すること(63.7%)」と「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること(63.7%)」が同率であげられ、僅差で「男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと(63.5%)」が続いています。男性の上位1位は全体と同じですが、2位以下は「働き方改革により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること(48.7%)」、「社会の中で、男性が家事・育児を行うことが当たり前とする考え方を普及すること(48.0%)」と「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること(48.0%)」が同率で続いています。(図表3-3-①)

図表 3-3-① 男性が家事・育児・介護などを積極的に行うために必要なこと
(全体、性別：複数回答)



性・年代別にみると、女性は20歳代と40歳代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、6割半ばから8割弱となっています。20歳代では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」も同率で最も多くなっています。30歳代で「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」、50歳代、60歳代、80歳代以上で「子どもの頃から、男女平等意識を教育や生活の中にとりいれること」が最も多くなっています。70歳代は、「男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多くなっています。男性は30歳代をのぞくすべての年代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっており、とくに20歳代は8割を超えています。また、40歳代で「社会の中で、男性が家事・育児を行うことが当たり前とする考え方を普及すること」と「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」も同率で最も多くなっています。30歳代は「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が最も多くなっています。(図表3-3-②)

図表3-3-② 男性が家事・育児・介護などを積極的にを行うために必要なこと
(全体、性・年代別、性・配偶者・パートナーの有無別：複数回答)

		夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	子どもの頃から、男女平等意識を教育や生活の中にとりいれること	社会の中で、男性が家事・育児を行うことが当たり前とする考え方を普及すること	男性による家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	働き方改革により多様な働き方を推進すること	役割分担やまわりの人が、当事者の考え方を尊重すること	年配者やまわりの人が、当事者の考え方を尊重すること	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などを行うことに対する女性性の抵抗感をなくすこと
全	体 (N= 645)	68.1	58.0	56.7	56.4	54.6	49.1	35.0	24.7	20.3	16.1	5.3	1.4	1.6							
性・年代別	女	10歳代 (n= 6)	83.3	50.0	83.3	66.7	50.0	66.7	33.3	16.7	50.0	50.0	16.7	0.0	0.0						
		20歳代 (n= 35)	65.7	45.7	42.9	65.7	51.4	60.0	31.4	20.0	17.1	14.3	5.7	0.0	0.0						
		30歳代 (n= 66)	75.8	62.1	72.7	78.8	56.1	66.7	43.9	21.2	31.8	25.8	3.0	1.5	0.0						
		40歳代 (n= 71)	77.5	71.8	63.4	59.2	59.2	40.8	39.4	36.6	21.1	14.1	11.3	0.0	0.0						
		50歳代 (n= 68)	76.5	80.9	72.1	69.1	76.5	45.6	44.1	33.8	26.5	19.1	1.5	0.0	0.0						
		60歳代 (n= 53)	77.4	79.2	66.0	67.9	71.7	43.4	41.5	49.1	22.6	22.6	0.0	0.0	0.0						
		70歳代 (n= 44)	59.1	65.9	47.7	47.7	68.2	45.5	52.3	25.0	11.4	20.5	2.3	2.3	6.8						
		80歳代以上 (n= 20)	65.0	75.0	65.0	35.0	55.0	40.0	50.0	20.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0						
	男	10歳代 (n= 4)	100.0	25.0	50.0	75.0	50.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
		20歳代 (n= 24)	83.3	25.0	45.8	58.3	50.0	54.2	29.2	12.5	25.0	20.8	12.5	0.0	0.0						
		30歳代 (n= 47)	51.1	34.0	57.4	72.3	48.9	66.0	29.8	19.1	25.5	17.0	4.3	0.0	0.0						
		40歳代 (n= 48)	60.4	39.6	60.4	60.4	33.3	54.2	25.0	18.8	14.6	8.3	14.6	2.1	0.0						
		50歳代 (n= 52)	65.4	48.1	36.5	38.5	40.4	51.9	19.2	13.5	13.5	9.6	3.8	3.8	1.9						
		60歳代 (n= 45)	46.7	42.2	42.2	37.8	42.2	40.0	15.6	22.2	11.1	6.7	2.2	4.4	2.2						
		70歳代 (n= 30)	76.7	60.0	43.3	16.7	46.7	20.0	30.0	13.3	20.0	16.7	10.0	6.7	3.3						
		80歳代以上 (n= 23)	65.2	60.9	47.8	39.1	52.2	39.1	30.4	13.0	17.4	17.4	4.3	0.0	13.0						
性・配偶者・パートナーの有無別	女性	あり (n= 252)	76.2	75.0	67.5	63.5	63.9	50.0	44.8	31.3	23.0	19.4	4.8	0.4	0.0						
		なし (n= 110)	66.4	58.2	56.4	65.5	63.6	49.1	38.2	30.0	22.7	19.1	2.7	0.0	1.8						
	男性	あり (n= 190)	63.2	48.9	47.4	47.4	43.2	46.8	21.1	15.8	12.6	11.1	6.8	3.2	2.1						
		なし (n= 83)	60.2	30.1	49.4	49.4	44.6	53.0	32.5	18.1	27.7	15.7	7.2	1.2	2.4						

4 仕事

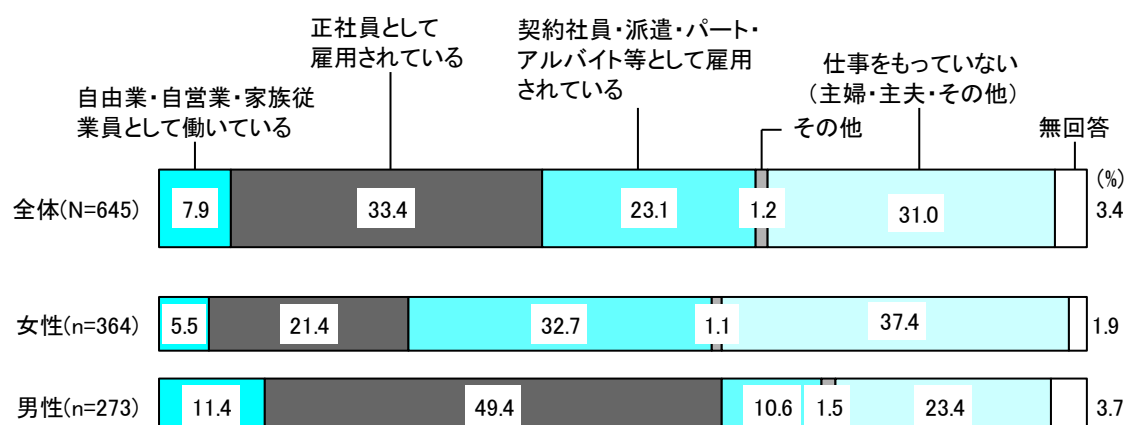
4-1 収入を伴う仕事の有無

問12 あなたは、今、収入を伴う仕事をしていますか。
 出産や育児・介護のために休んでいる場合（育児・介護休業）は働いていると考えてください。（ただし、学生で学費や生活費のためにアルバイトをしている場合は「3」、それ以外（お小遣いや趣味など）のためにアルバイトをしている場合は「5」です）（1つに〇）

全体では、収入を伴う仕事をしている人は「正社員として雇用されている（33.4%）」が最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている（23.1%）」が続いています。「仕事をもっていない（主婦・主夫・その他）」は31.0%です。

性別にみると収入を伴う仕事をしている人は、女性は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている（32.7%）」が最も多く、「正社員として雇用されている（21.4%）」が続いています。「仕事をもっていない（主婦・主夫・その他）」は37.4%です。男性は「正社員として雇用されている（49.4%）」が最も多く、「自由業・自営業・家族従業員として働いている（11.4%）」が続いています。「仕事をもっていない（主婦・主夫・その他）」は23.4%です。（図表4-1-①）

図表4-1-① 収入を伴う仕事の有無（全体、性別）



性・年代別にみると、収入を伴う仕事をしている人は、女性は20歳代と30歳代で「正社員として雇用されている」、40歳代と50歳代では「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」、60歳代以上は「仕事をもっていない（主婦・主夫・その他）」が最も多くなっています。男性は20歳代から50歳代で「正社員として雇用されている」、60歳代は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」が最も多くなっています。また、70歳代以上は「仕事をもっていない（主婦・主夫・その他）」が6割を超え、最も多くなっています。（図表4-1-②）

図表4-1-② 収入を伴う仕事の有無（全体、性・年代別）

		(%)						
		業自由 員業 として 働い てい る 家 族 従 業 者	正 社 員 と し て 雇 用 さ れ て い る	雇 用 さ れ て い る 契 約 社 員 ・ 派 遣 ・ パ ー ト ・ ア ル バ イ ト 等 と し て	そ の 他	婦 主 夫 を も つ て い な い （ 主 婦 ・ 主 夫 ・ そ の 他 ）	無 回 答	
全 体 (N= 645)		7.9	33.4	23.1	1.2	31.0	3.4	
性・年代別	女	10 歳 代 (n= 6)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	0.0	42.9	37.1	0.0	20.0	0.0
		30 歳 代 (n= 66)	1.5	42.4	25.8	1.5	27.3	1.5
		40 歳 代 (n= 71)	11.3	21.1	52.1	1.4	14.1	0.0
		50 歳 代 (n= 68)	4.4	23.5	47.1	0.0	25.0	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	13.2	3.8	28.3	1.9	52.8	0.0
		70 歳 代 (n= 44)	2.3	4.5	9.1	2.3	75.0	6.8
		80 歳 代 以上 (n= 20)	0.0	0.0	0.0	0.0	85.0	15.0
	男	10 歳 代 (n= 4)	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	0.0	58.4	8.3	0.0	33.3	0.0
		30 歳 代 (n= 47)	6.4	70.2	12.8	0.0	10.6	0.0
		40 歳 代 (n= 48)	12.5	77.0	2.1	2.1	6.3	0.0
		50 歳 代 (n= 52)	15.4	71.3	3.8	1.9	3.8	3.8
		60 歳 代 (n= 45)	20.0	26.7	28.9	0.0	24.4	0.0
70 歳 代 (n= 30)		6.7	3.3	13.3	3.3	63.4	10.0	
80 歳 代 以上 (n= 23)		13.0	0.0	0.0	4.3	61.0	21.7	

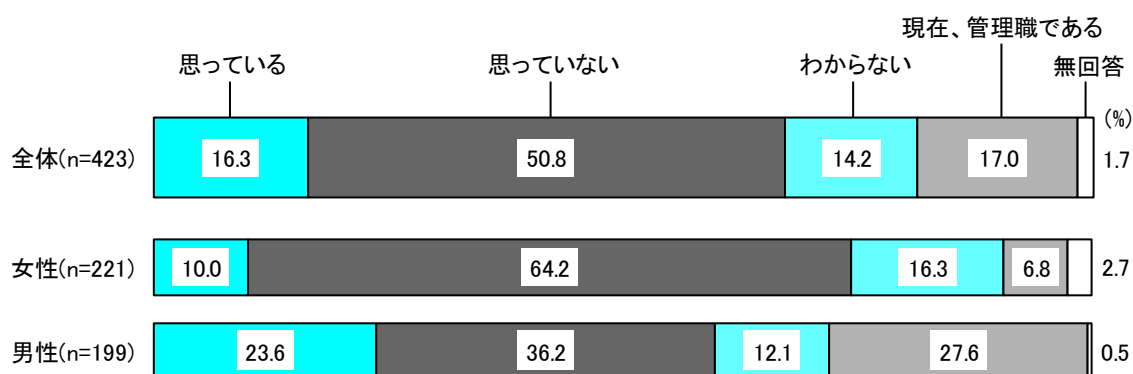
4-2 管理職への昇進意向

問 12-1 問 12 で「1」～「4」と答えた方におたずねします。
 将来、あなたは管理職に昇進したいと思っていますか。(1つに○)

問 12 で、収入を伴う仕事をしていると回答した人に、管理職への昇進意向をたずねました。全体では、「思っていない」が 50.8%、「思っている」が 16.3%となっています。また、「現在、管理職である」は、17.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「思っていない(女性：64.2%、男性：36.2%)」が最も多くなっています。「思っている」は、女性は 10.0%、男性は 23.6%となっており、「現在、管理職である」は、女性は 6.8%、男性は 27.6%となっています。(図表 4-2-①)

図表 4-2-① 管理職への昇進意向 (全体、性別)
 <仕事をもっている人>



性・年代別にみると、女性は20歳代、30歳代で「思っている」がそれぞれ25.0%、19.1%となっています。男性は20歳代から40歳代で「思っている」が最も多くなっており、40歳代から60歳代で「現在、管理職である」が3割強から4割強となっています。(図表4-2-②)

図表4-2-② 管理職への昇進意向（全体、性・年代別）
 <仕事をもっている人>

(%)

		思っている	思っていない	わからない	現在、管理職である	無回答	
全体 (n= 423)		16.3	50.8	14.2	17.0	1.7	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 28)	25.0	42.8	28.6	0.0	3.6
		30歳代 (n= 47)	19.1	38.4	34.0	6.4	2.1
		40歳代 (n= 61)	4.9	70.5	16.4	4.9	3.3
		50歳代 (n= 51)	5.9	84.3	2.0	7.8	0.0
		60歳代 (n= 25)	0.0	84.0	4.0	12.0	0.0
		70歳代 (n= 8)	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0
		80歳代以上 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	10歳代 (n= 2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 16)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
		30歳代 (n= 42)	45.2	23.8	16.7	14.3	0.0
		40歳代 (n= 45)	31.2	24.4	13.3	31.1	0.0
		50歳代 (n= 48)	8.3	39.6	10.4	41.7	0.0
		60歳代 (n= 34)	2.9	58.9	2.9	32.4	2.9
		70歳代 (n= 8)	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0
80歳代以上 (n= 4)		0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	

4-3 職場でハラスメントを受けた経験

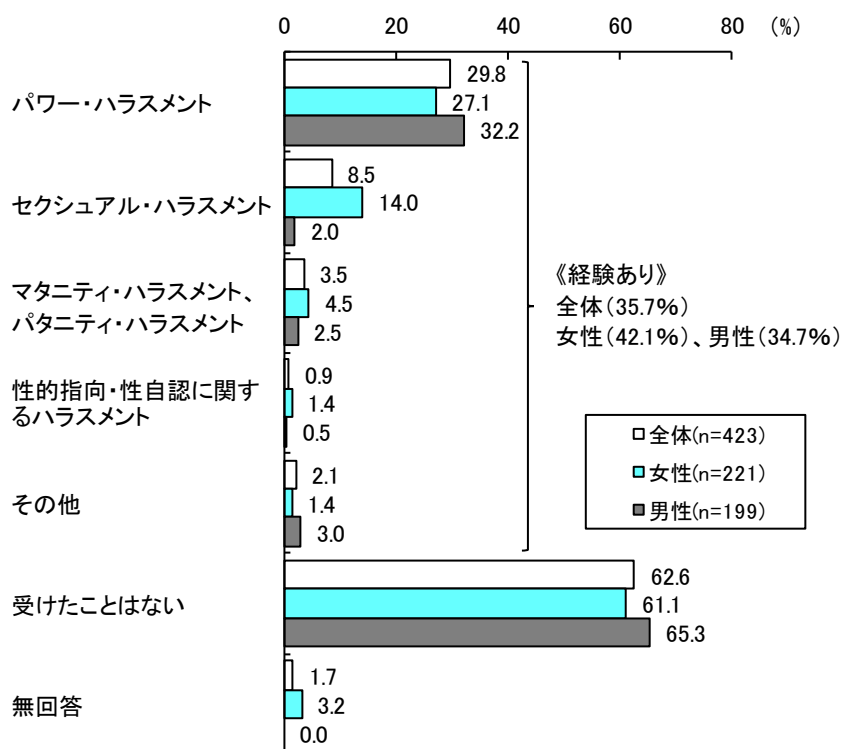
問 12-2 問 12 で「1」～「4」と答えた方におたずねします。
 あなたは、職場で次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。(いくつでも○)

問 12 で、収入を伴う仕事をしていると回答した人に、職場でハラスメントを受けた経験の有無をたずねました。

全体では、35.7%の人が何らかの職場のハラスメントを経験しており、「パワー・ハラスメント(29.8%)」が最も多く、「セクシュアル・ハラスメント(8.5%)」、「マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント(3.5%)」が続いています。「受けたことはない」は、62.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「パワー・ハラスメント(女性:27.1%、男性:32.2%)」が最も多く、続いて女性は「セクシュアル・ハラスメント(14.0%)」、男性は「マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント(2.5%)」となっています。「受けたことはない(女性:61.1%、男性:65.3%)」は男女ともに6割を超えています。(図表4-3-①)

図表 4-3-① 職場でハラスメントを受けた経験 (全体、性別：複数回答)
 <仕事をもっている人>



※《経験あり》は、「受けたことはない」と「無回答」を除いています。

性・年代別にみると、を受けた経験のあるハラスメントでは、女性は20歳代から60歳代で「パワー・ハラスメント」が最も多くなっています。また、50歳代で「セクシュアル・ハラスメント」が全体より15ポイント上回っています。男性は20歳代から50歳代で「パワー・ハラスメント」が最も多くなっており、とくに40歳代と50歳代は全体をそれぞれ10から20ポイント以上上回っています。(図表4-3-②)

図表4-3-② 職場でハラスメントを受けた経験(全体、性・年代別：複数回答)
 <仕事をもっている人>

			パ ワ ー ・ ハ ラ ス メ ン ト	セ ク シ ュ ア ル ・ ハ ラ ス メ ン ト	マ タ ニ テ イ ・ ハ ラ ス メ ン ト 、 パ タ	ハ 性 的 指 向 ・ 性 自 認 に 関 す る ハ ラ ス メ ン ト	そ の 他	受 け た こ と は な い	無 回 答
全		体 (n= 423)	29.8	8.5	3.5	0.9	2.1	62.6	1.7
性 ・ 年 代 別	女 性	10 歳 代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 28)	25.0	14.3	3.6	7.1	0.0	64.3	3.6
		30 歳 代 (n= 47)	36.2	8.5	8.5	0.0	0.0	57.4	2.1
		40 歳 代 (n= 61)	19.7	11.5	4.9	0.0	4.9	63.9	3.3
		50 歳 代 (n= 51)	37.3	23.5	2.0	2.0	0.0	51.0	2.0
		60 歳 代 (n= 25)	20.0	16.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0
		70 歳 代 (n= 8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
		80 歳 代 以上 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男 性	10 歳 代 (n= 2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20 歳 代 (n= 16)	31.3	0.0	0.0	0.0	6.3	62.5	0.0
		30 歳 代 (n= 42)	28.6	2.4	4.8	0.0	2.4	69.0	0.0
		40 歳 代 (n= 45)	53.3	4.4	4.4	0.0	4.4	44.4	0.0
		50 歳 代 (n= 48)	41.7	0.0	0.0	2.1	2.1	56.3	0.0
		60 歳 代 (n= 34)	5.9	0.0	0.0	0.0	2.9	91.2	0.0
70 歳 代 (n= 8)		12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	87.5	0.0	
80 歳 代 以上 (n= 4)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

4-4 経済状況

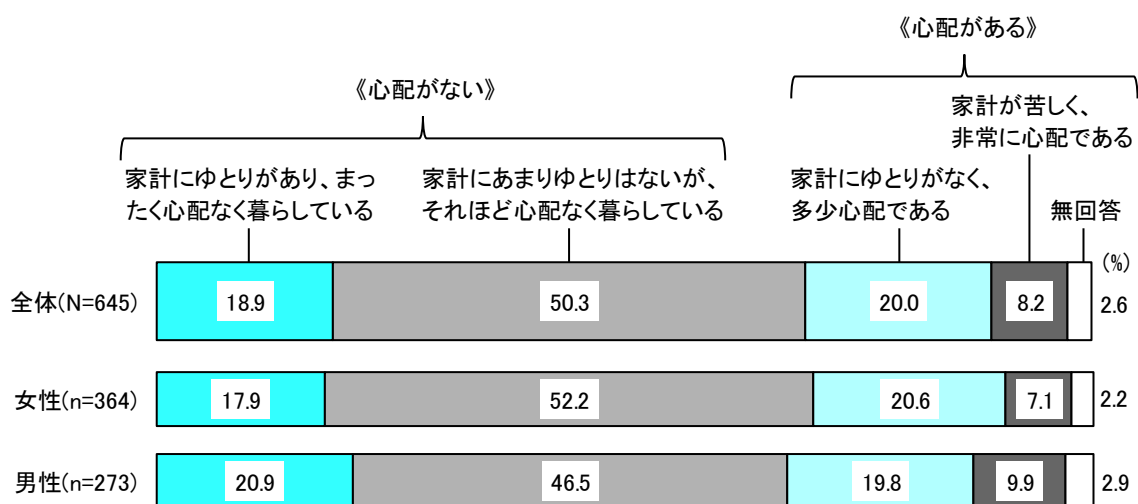
問13 現在のあなたの暮らし向き（経済状況）は、次のうちどれに該当しますか。（1つに〇）

ここでは、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」と「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」の合計を《心配がない》とし、「家計にゆとりがなく、多少心配である」と「家計が苦しく、非常に心配である」の合計を《心配がある》としています。

全体では、《心配がない(69.2%)》が7割程度となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、《心配がない(女性 70.1%、男性：67.4%)》が6割弱から7割程度となっています。（図表4-4-①）

図表4-4-① 経済状況（全体、性別）



性・年代別にみると、女性は20歳代と80歳代以上で《心配がない》が8割台、50歳代と60歳代で7割台、30歳代と70歳代で6割台、40歳代で5割台となっています。男性は20歳代と70歳代で《心配がない》が8割台、80歳代以上で7割台、30歳代、50歳代、60歳代で6割台、40歳代で5割台となっています。

地域別にみると、《心配がない》の割合は、北東部地域(72.5%)が最も高く、中部地域(66.7%)で最も低くなっています。(図表4-4-②)

図表4-4-② 経済状況(全体、性・年代別、地域別)

		てま家 いつ計 るたく くゆ 心とり 配なく なく暮 らし	暮ら計 が、に し、そ いてほ りどゆ 心とり 配なく	少家 心配計 にゆ であと りなく 、多	配家 計が であ る苦し く、 非常 に心	無 回 答	再掲		
							《 心 配 が な い 》	《 心 配 が あ る 》	
全 体 (N= 645)		18.9	50.3	20.0	8.2	2.6	69.2	28.2	
性 ・ 年 代 別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	83.3	16.7
		20 歳 代 (n= 35)	28.6	54.2	14.3	0.0	2.9	82.8	14.3
		30 歳 代 (n= 66)	18.2	50.0	19.7	10.6	1.5	68.2	30.3
		40 歳 代 (n= 71)	11.3	46.4	26.8	12.7	2.8	57.7	39.5
	男 性	50 歳 代 (n= 68)	17.6	54.5	17.6	7.4	2.9	72.1	25.0
		60 歳 代 (n= 53)	13.2	66.0	20.8	0.0	0.0	79.2	20.8
		70 歳 代 (n= 44)	20.5	43.2	25.0	6.8	4.5	63.7	31.8
		80 歳 代 以上 (n= 20)	25.0	55.0	15.0	5.0	0.0	80.0	20.0
地 域 別	北 東 部 地 域	10 歳 代 (n= 4)	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	25.0
		20 歳 代 (n= 24)	41.7	45.7	4.2	4.2	4.2	87.4	8.4
		30 歳 代 (n= 47)	14.9	46.8	25.5	6.4	6.4	61.7	31.9
		40 歳 代 (n= 48)	18.8	37.5	22.9	20.8	0.0	56.3	43.7
	中 部 地 域	50 歳 代 (n= 52)	21.2	40.3	25.0	7.7	5.8	61.5	32.7
		60 歳 代 (n= 45)	13.3	53.3	17.8	15.6	0.0	66.6	33.4
		70 歳 代 (n= 30)	30.0	53.4	13.3	3.3	0.0	83.4	16.6
		80 歳 代 以上 (n= 23)	8.7	65.3	21.7	0.0	4.3	74.0	21.7
西 部 地 域	北 東 部 地 域 (n= 160)	21.9	50.6	17.5	9.4	0.6	72.5	26.9	
	中 部 地 域 (n= 141)	16.3	50.4	21.3	10.6	1.4	66.7	31.9	
	西 部 地 域 (n= 170)	20.0	48.2	22.4	6.5	2.9	68.2	28.9	
	南 部 地 域 (n= 164)	18.3	51.2	18.9	6.7	4.9	69.5	25.6	

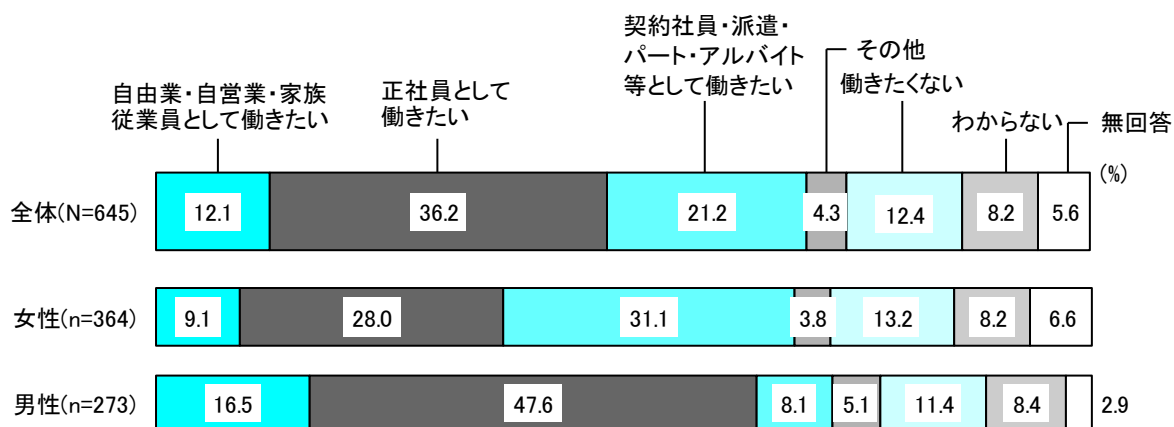
4-5 今後の就労意向

問14 あなたは、今後、どのような形態で働きたいと思いますか。(1つに〇)

全体では、「正社員として働きたい(36.2%)」が最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい(21.2%)」、「自由業・自営業・家族従業員として働きたい(12.1%)」が続いています。「働きたくない」は12.4%です。

性別にみると、女性は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい(31.1%)」が最も多く、男性は「正社員として働きたい(47.6%)」が最も多くなっています。また、「正社員として働きたい」は、男性が女性を19.6ポイント上回っています。「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい」は、女性が男性を23.0ポイント上回っています。(図表4-5-①)

図表4-5-① 今後の就労意向(全体、性別)



性・年代別にみると、女性は年代が上がるほど、「正社員として働きたい」の割合が低くなっています。また、女性は20歳代と30歳代で「正社員として働きたい」が最も多くなっていますが、40歳代から60歳代で「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい」が最も多くなっています。男性は20歳代から50歳代で「正社員として働きたい」、60歳代は「自由業・自営業・家族従業員として働いている」が最も多くなっています。(図表4-5-②)

図表4-5-② 今後の就労意向 (全体、性・年代別)

			業自由 員業 として 働 き た い ・ 自 営 業 ・ 家 族 従 業 員	正 社 員 と し て 働 き た い	働 き た い ・ 契 約 社 員 ・ ア ル バ イ ト 等 と し て	そ の 他	働 き た く な い	わ か ら な い	無 回 答
全		体 (N= 645)	12.1	36.2	21.2	4.3	12.4	8.2	5.6
性・年代別	女	10 歳代 (n= 6)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳代 (n= 35)	2.9	77.1	8.6	0.0	0.0	11.4	0.0
		30 歳代 (n= 66)	10.6	45.5	36.4	0.0	4.5	3.0	0.0
		40 歳代 (n= 71)	12.7	32.4	45.1	4.2	2.8	1.4	1.4
		50 歳代 (n= 68)	10.3	19.1	49.9	5.9	7.4	7.4	0.0
		60 歳代 (n= 53)	13.2	3.8	33.9	1.9	28.3	15.1	3.8
		70 歳代 (n= 44)	4.5	2.3	2.3	6.8	43.2	11.4	29.5
		80 歳代以上 (n= 20)	0.0	0.0	0.0	15.0	20.0	25.0	40.0
	男	10 歳代 (n= 4)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳代 (n= 24)	8.3	70.9	0.0	4.2	8.3	8.3	0.0
		30 歳代 (n= 47)	12.8	80.8	4.3	0.0	2.1	0.0	0.0
		40 歳代 (n= 48)	16.7	74.9	0.0	2.1	4.2	2.1	0.0
		50 歳代 (n= 52)	23.1	53.9	9.6	7.7	3.8	0.0	1.9
		60 歳代 (n= 45)	26.7	13.3	22.2	8.9	11.1	15.6	2.2
70 歳代 (n= 30)		10.0	0.0	16.7	10.0	36.6	20.0	6.7	
80 歳代以上 (n= 23)		8.7	4.3	0.0	4.3	34.9	30.4	17.4	

4-6 育児休業、介護休業の取得経験、取得意向

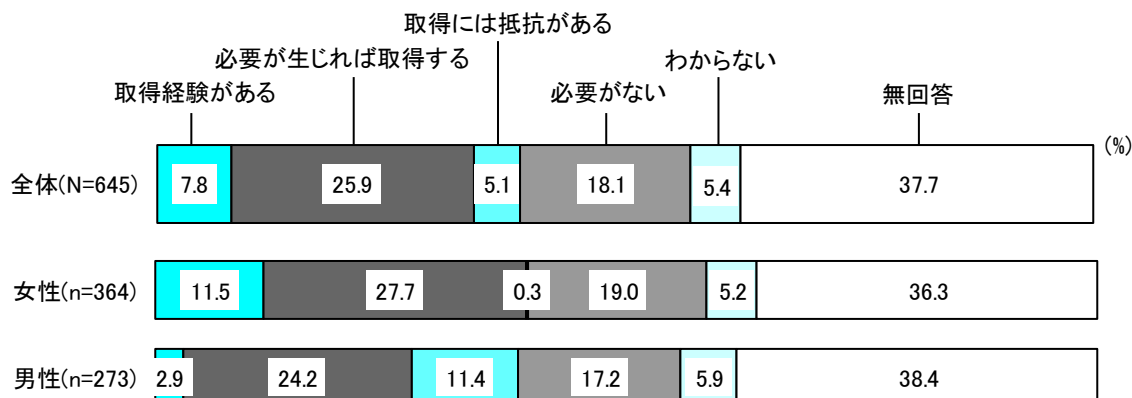
問 15 あなたは、育児休業や介護休業を取得した経験がありますか。または、これから先そのような状況が生じた時、どうしようと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについて、回答欄に数字を記載してください。

(1) 育児休業

全体では、「取得経験がある」が 7.8%、「必要が生じれば取得する」が 25.9%、「取得には抵抗がある」が 5.1%、「必要がない」が 18.1%、「わからない」が 5.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要が生じれば取得する(女性：27.7%、男性：24.2%)」が2割を超え最も多くなっています。「必要がない」、「わからない」、「無回答」をのぞくと、2位以下は、女性は「取得経験がある(11.5%)」が続いています。男性は「取得には抵抗がある(11.4%)」が続いており、「取得経験がある」は 2.9%にとどまっています。(図表 4-6-①)

図表 4-6-① 育児休業の取得経験、取得意向 (全体、性別)



性・年代別にみると、女性は30歳代、40歳代で「取得経験がある」が2割を超えています。男性はすべての年代で「取得経験がある」が1割未満となっています。また、20歳代、40歳代で「取得には抵抗がある」が2割を超えています。(図表4-6-②)

図表4-6-② 育児休業の取得経験、取得意向（全体、性・年代別）

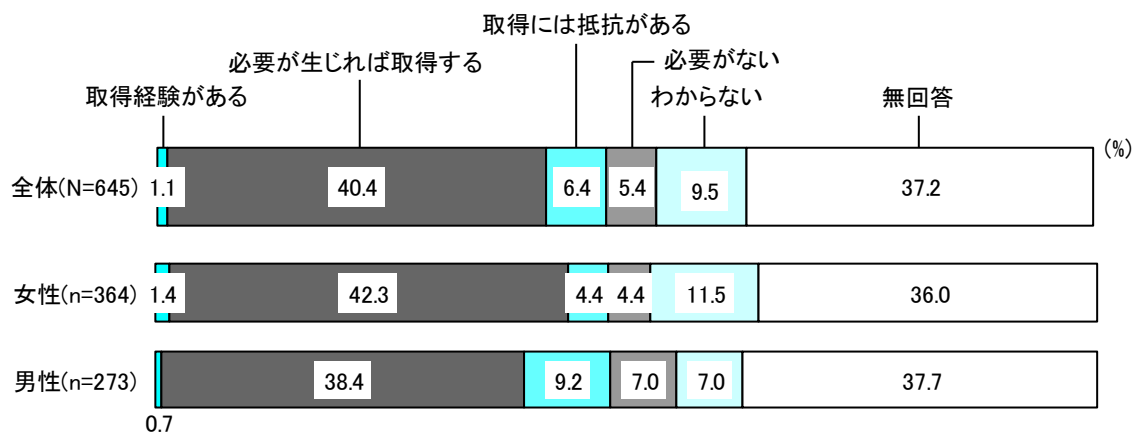
			取得経験がある	必要が生じれば取得する	取得には抵抗がある	必要がない	わからない	無回答
全 体 (N= 645)			7.8	25.9	5.1	18.1	5.4	37.7
性・年代別	女	10 歳 代 (n= 6)	0.0	66.6	0.0	0.0	16.7	16.7
		20 歳 代 (n= 35)	2.9	71.3	0.0	2.9	0.0	22.9
		30 歳 代 (n= 66)	27.3	40.8	0.0	9.1	7.6	15.2
		40 歳 代 (n= 71)	21.1	26.8	0.0	28.2	5.6	18.3
		50 歳 代 (n= 68)	1.5	20.6	1.5	42.6	5.9	27.9
		60 歳 代 (n= 53)	11.3	18.9	0.0	17.0	5.7	47.1
		70 歳 代 (n= 44)	2.3	2.3	0.0	6.8	4.5	84.1
		80 歳 代 以上 (n= 20)	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	95.0
	男	10 歳 代 (n= 4)	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	0.0	50.0	20.8	4.2	8.3	16.7
		30 歳 代 (n= 47)	6.4	48.9	12.8	6.4	10.6	14.9
		40 歳 代 (n= 48)	6.3	33.2	27.1	12.5	4.2	16.7
		50 歳 代 (n= 52)	1.9	11.5	11.5	34.6	1.9	38.6
		60 歳 代 (n= 45)	2.2	6.7	0.0	28.9	6.7	55.5
		70 歳 代 (n= 30)	0.0	10.0	0.0	16.7	6.7	66.6
80 歳 代 以上 (n= 23)		0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	91.4	

(2) 介護休業

全体では、「取得経験がある」が 1.1%、「必要が生じれば取得する」が 40.4%、「取得には抵抗がある」が 6.4%、「必要がない」が 5.4%、「わからない」が 9.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要が生じれば取得する(女性：42.3%、男性：38.4%)」が最も多くなっています。「取得経験がある」は、女性は 1.4%、男性は 0.7%となっています。(図表 4-6-③)

図表 4-6-③ 介護休業の取得経験、取得意向(全体、性別)



性・年代別にみると、女性は 20 歳代から 50 歳代で「必要が生じれば取得する」が 5 割から 6 割程度で最も多くなっています。男性は年代が上がるほど、「必要が生じれば取得する」の割合が低くなっています。また、40 歳代で「取得には抵抗がある」が 2 割程度となっています。(図表 4-6-④)

図表 4-6-④ 介護休業の取得経験、取得意向(全体、性・年代別)

		取得経験がある	必要が生じれば取得する	取得には抵抗がある	必要がない	わからない	無回答	
全 体 (N= 645)		1.1	40.4	6.4	5.4	9.5	37.2	
性・年代別	女	10 歳代 (n= 6)	0.0	33.3	16.7	0.0	33.3	16.7
		20 歳代 (n= 35)	2.9	57.0	14.3	2.9	2.9	20.0
		30 歳代 (n= 66)	0.0	56.1	4.5	3.0	16.7	19.7
		40 歳代 (n= 71)	2.8	60.6	4.2	2.8	12.7	16.9
		50 歳代 (n= 68)	2.9	50.0	5.9	2.9	16.2	22.1
		60 歳代 (n= 53)	0.0	30.2	0.0	11.3	11.3	47.2
		70 歳代 (n= 44)	0.0	2.3	0.0	4.5	4.5	88.7
		80 歳代以上 (n= 20)	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	95.0
	男	10 歳代 (n= 4)	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳代 (n= 24)	0.0	66.6	4.2	4.2	8.3	16.7
30 歳代 (n= 47)		2.1	55.4	14.9	2.1	10.6	14.9	
40 歳代 (n= 48)		0.0	54.2	20.8	2.1	2.1	20.8	
50 歳代 (n= 52)		0.0	40.4	9.6	5.8	7.7	36.5	
60 歳代 (n= 45)		2.2	17.8	2.2	20.0	4.4	53.4	
	70 歳代 (n= 30)	0.0	13.3	0.0	10.0	13.3	63.4	
	80 歳代以上 (n= 23)	0.0	4.3	0.0	4.3	4.3	87.1	

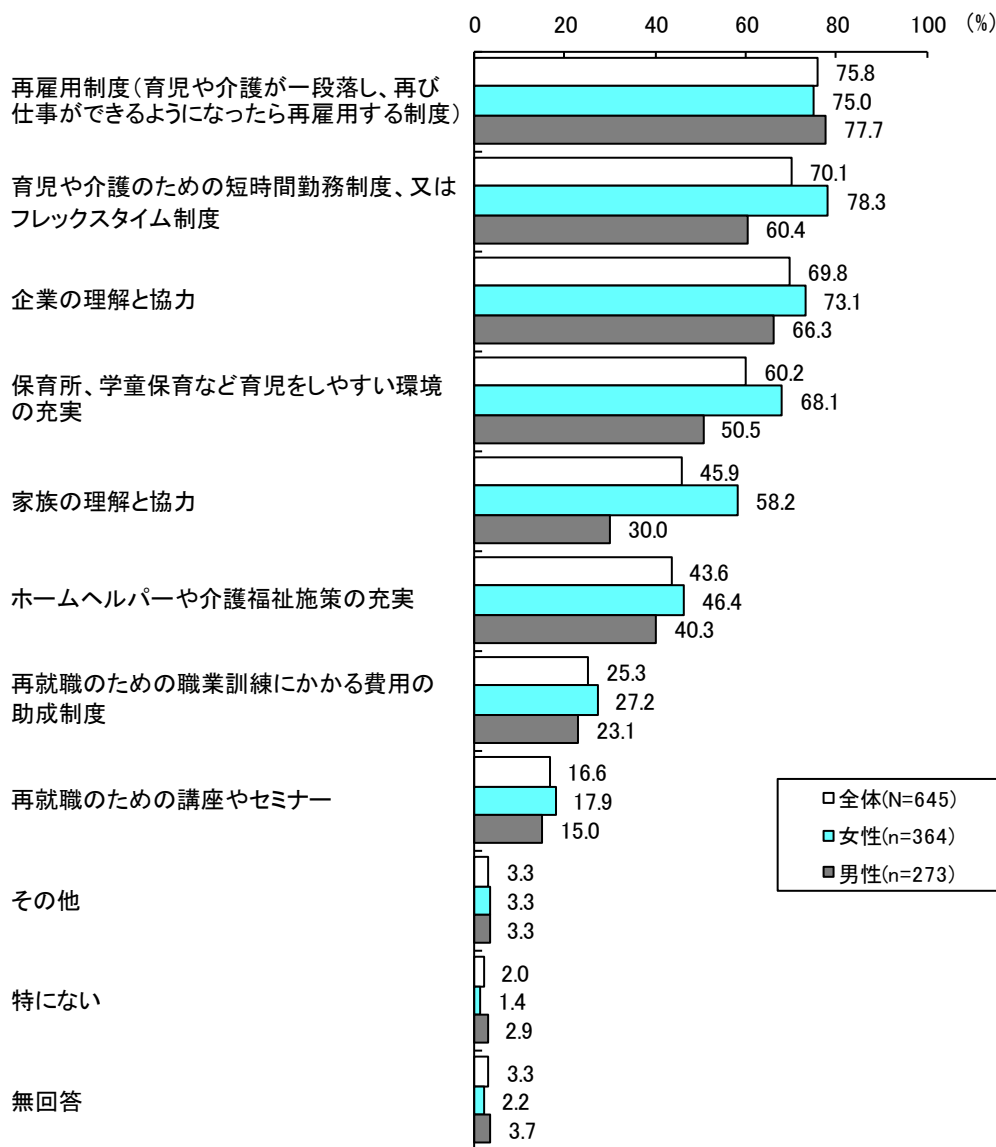
4-7 一時期仕事をやめた人が再就職を希望する際に役に立つもの

問 16 家事、育児、介護などのために一時期仕事をやめた人が再就職を希望する場合、役に立つものは何だと思えますか。(いくつでも○)

全体では、「再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）（75.8%）」が最も多く、「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度（70.1%）」、「企業の理解と協力（69.8%）」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、女性は「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度（女性：78.3%、男性：60.4%）」で男性を17.9ポイント上回っています。また、「保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実（女性：68.1%、男性：50.5%）」と「家族の理解と協力（女性：58.2%、男性：30.0%）」も女性が男性をそれぞれ17.6ポイント、28.2ポイント上回っています。（図表4-7-①）

図表 4-7-① 一時期仕事をやめた人が再就職を希望する際に役に立つもの
(全体、性別：複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性は20歳代で「保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実」、「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度」、「企業の理解と協力」が8割を超えて多くなっています。30代は「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度」が9割を超え、「保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実」が8割を超えて多くなっています。40歳代と50歳代は「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度」が8割を超え、50歳代は「再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）」も8割を超えて多くなっています。

男性はすべての年代で「再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）」が最も多くなっており、とくに20歳代から40歳代、60歳代で8割を超えています。50歳代では「企業の理解と協力」も同率で最も多く、40歳代では「企業の理解と協力」も8割を超えて多くなっています。（図表4-7-②）

図表4-7-② 一時期仕事をやめた人が再就職を希望する際に役に立つもの
（全体、性・年代別：複数回答）

(%)

		再雇用制度（育児や介護が一段落したら再雇用する制度）	育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度	企業の理解と協力	保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実	家族の理解と協力	ホームヘルパーや介護福祉施策の充実	再就職のための職業訓練にかかる費用の助成制度	再就職のための講座やセミナー	その他	特にない	無回答
全体 (N= 645)		75.8	70.1	69.8	60.2	45.9	43.6	25.3	16.6	3.3	2.0	3.3
女性	10歳代 (n= 6)	83.3	83.3	100.0	100.0	66.7	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n= 35)	77.1	85.7	85.7	88.6	54.3	28.6	11.4	11.4	2.9	0.0	0.0
	30歳代 (n= 66)	75.8	97.0	72.7	83.3	57.6	45.5	28.8	24.2	3.0	0.0	0.0
	40歳代 (n= 71)	73.2	87.3	78.9	59.2	67.6	47.9	31.0	9.9	5.6	0.0	0.0
	50歳代 (n= 68)	88.2	80.9	77.9	64.7	66.2	57.4	30.9	16.2	7.4	0.0	0.0
	60歳代 (n= 53)	73.6	71.7	75.5	66.0	54.7	54.7	34.0	22.6	0.0	0.0	0.0
	70歳代 (n= 44)	59.1	47.7	52.3	50.0	40.9	36.4	20.5	22.7	0.0	4.5	15.9
	80歳代以上 (n= 20)	65.0	45.0	45.0	60.0	50.0	40.0	25.0	20.0	0.0	15.0	5.0
男性	10歳代 (n= 4)	100.0	75.0	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n= 24)	83.3	66.7	70.8	54.2	25.0	29.2	25.0	8.3	4.2	0.0	0.0
	30歳代 (n= 47)	87.2	74.5	72.3	48.9	38.3	46.8	27.7	23.4	2.1	2.1	0.0
	40歳代 (n= 48)	87.5	77.1	83.3	58.3	37.5	47.9	29.2	8.3	6.3	0.0	0.0
	50歳代 (n= 52)	69.2	65.4	69.2	57.7	21.2	46.2	21.2	11.5	1.9	0.0	3.8
	60歳代 (n= 45)	84.4	40.0	57.8	40.0	22.2	42.2	31.1	20.0	2.2	0.0	0.0
	70歳代 (n= 30)	66.7	46.7	53.3	50.0	33.3	30.0	13.3	23.3	3.3	6.7	16.7
	80歳代以上 (n= 23)	47.8	34.8	34.8	39.1	34.8	21.7	4.3	8.7	4.3	21.7	13.0

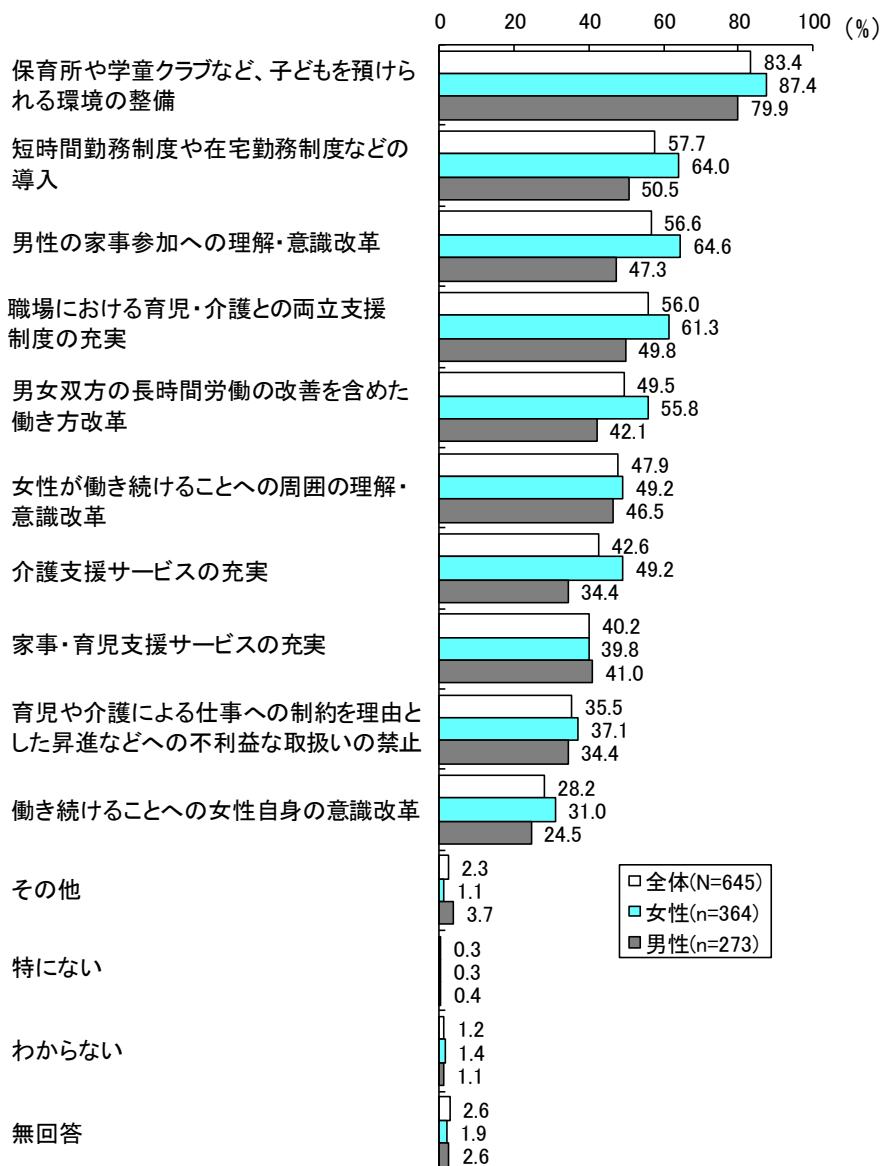
4-8 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと

問17 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(いくつでも○)

全体では、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備(83.4%)」が最も多く、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入(57.7%)」、「男性の家事参加への理解・意識改革(56.6%)」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実(56.0%)」が続いています。

性別にみると、女性は順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じです。男性は上位2項目は全体と同じですが、3位に「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が続いています。また、「男性の家事参加への理解・意識改革(女性：64.6%、男性：47.3%)」、「介護支援サービスの充実(女性：49.2%、男性：34.4%)」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入(女性：64.0%、男性：50.5%)」で女性が男性をそれぞれ17.3ポイント、14.8ポイント、13.5ポイント上回っています。(図表4-8-①)

図表4-8-① 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと(全体、性別：複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性はすべての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多くなっており、とくに30歳代、60歳代、80歳代以上で9割を超えています。20歳代では「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」も8割を超えて多くなっています。また、40歳代から70歳代で「介護支援サービスの充実」が全体を10から15ポイント以上上回っています。男性も、すべての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多くなっており、とくに20歳代で9割を超えて多くなっています。(図表4-8-②)

図表4-8-② 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと
(全体、性・年代別：複数回答)

		も保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	男性の家事参加への理解・意識改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	益な取扱いの禁止	育児や介護による仕事への不利を理由とした昇進などへの不利	働き続けることへの女性自身の意識改革	その他	特にない	わからない	無回答
全 体 (N= 645)		83.4	57.7	56.6	56.0	49.5	47.9	42.6	40.2	35.5	28.2	2.3	0.3	1.2	2.6	
性 年代別	女															
	10歳代 (n= 6)	100.0	66.7	100.0	50.0	66.7	66.7	50.0	66.7	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n= 35)	85.7	80.0	60.0	57.1	68.6	60.0	31.4	31.4	40.0	22.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
	30歳代 (n= 66)	95.5	69.7	78.8	74.2	69.7	57.6	33.3	45.5	43.9	27.3	1.5	0.0	1.5	0.0	0.0
	40歳代 (n= 71)	81.7	71.8	60.6	60.6	49.3	43.7	54.9	42.3	31.0	32.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0
	50歳代 (n= 68)	89.7	67.6	67.6	67.6	42.6	48.5	57.4	41.2	32.4	39.7	2.9	0.0	1.5	1.5	0.0
	60歳代 (n= 53)	90.6	66.0	64.2	60.4	69.8	45.3	60.4	39.6	50.9	34.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0
	70歳代 (n= 44)	75.0	38.6	50.0	45.5	43.2	40.9	54.5	34.1	27.3	25.0	0.0	0.0	4.5	11.4	0.0
80歳代以上 (n= 20)	90.0	30.0	50.0	45.0	45.0	50.0	45.0	30.0	15.0	35.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
男	10歳代 (n= 4)	25.0	25.0	75.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n= 24)	91.7	58.3	50.0	25.0	54.2	50.0	20.8	29.2	20.8	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n= 47)	85.1	63.8	51.1	59.6	42.6	57.4	36.2	57.4	40.4	23.4	4.3	0.0	2.1	0.0	0.0
	40歳代 (n= 48)	85.4	62.5	45.8	56.3	58.3	50.0	31.3	41.7	43.8	25.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代 (n= 52)	75.0	46.2	53.8	50.0	38.5	40.4	40.4	38.5	36.5	19.2	5.8	0.0	1.9	1.9	0.0
	60歳代 (n= 45)	84.4	48.9	44.4	48.9	35.6	42.2	40.0	40.0	22.2	31.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳代 (n= 30)	80.0	40.0	40.0	63.3	33.3	46.7	46.7	46.7	33.3	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	80歳代以上 (n= 23)	56.5	21.7	34.8	30.4	26.1	39.1	17.4	21.7	34.8	26.1	4.3	4.3	4.3	4.3	13.0

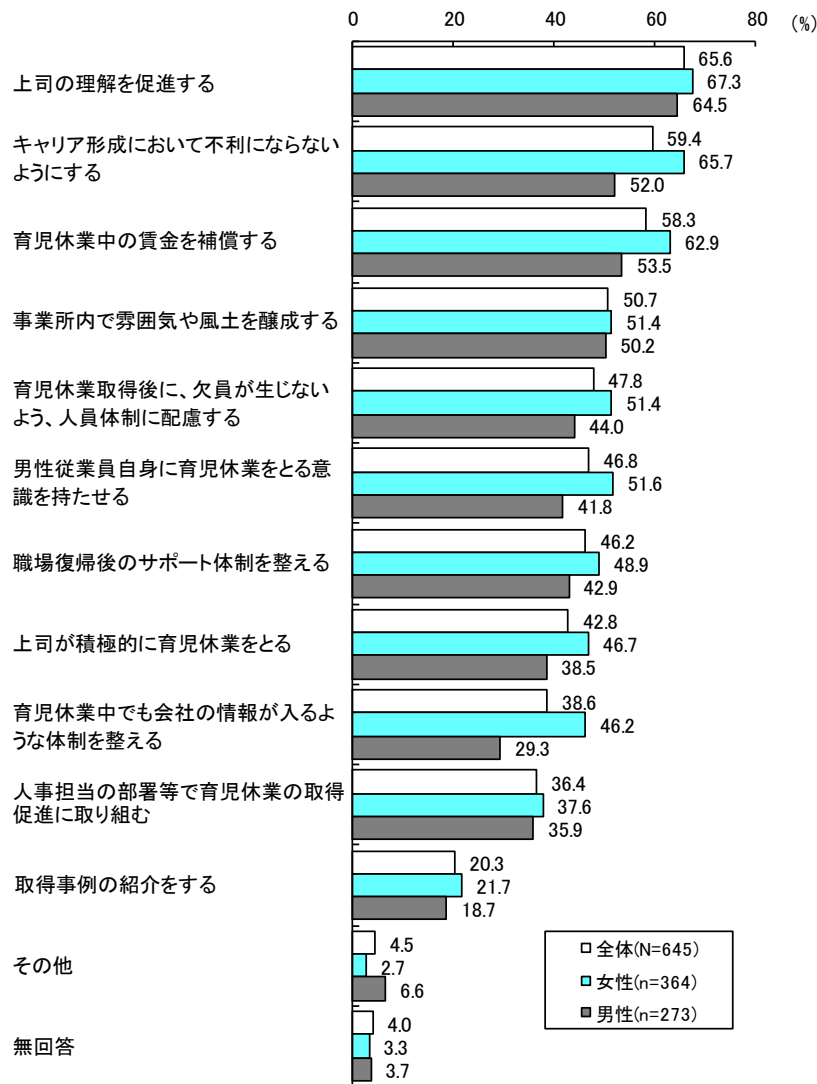
4-9 男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと

問 18 男性が育児休業を取得しやすくするために必要だと思うことは何ですか。(いくつでも○)

全体では、「上司の理解を促進する(65.6%)」が最も多く、「キャリア形成において不利にならないようにする(59.4%)」、「育児休業中の賃金を補償する(58.3%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、女性は「キャリア形成において不利にならないようにする(女性:65.7%、男性:52.0%)」で男性を13.7ポイント上回っています。また、「育児休業中でも会社の情報が入るような体制を整える(女性:46.2%、男性:29.3%)」と「男性従業員自身に育児休業をとる意識を持たせる(女性:51.6%、男性:41.8%)」も女性が男性をそれぞれ16.9ポイント、9.8ポイント上回っています。(図表4-9-①)

図表 4-9-① 男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと (全体、性別：複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性は40歳代と60歳代をのぞいたすべての年代で「上司の理解を促進する」が最も多くなっており、50歳代は「キャリア形成において不利にならないようにする」も同率で最も多くなっています。30歳代は「キャリア形成において不利にならないようにする」、「育児休業中の賃金を補償する」、「事業所内で雰囲気や風土を醸成する」が7割を超えて多くなっています。40歳代、60歳代は「キャリア形成において不利にならないようにする」が7割を超え、最も多くなっています。男性も、すべての年代で「上司の理解を促進する」が最も多くなっており、とくに30歳代で8割程度となっています。また、30歳代は「育児休業中の賃金を補償する」、「事業所内で雰囲気や風土を醸成する」も7割程度となっています。(図表4-9-②)

図表4-9-② 男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと
(全体、性・年代別：複数回答)

		上司の理解を促進する	キャリア形成において不利にならないようにする	育児休業中の賃金を補償する	事業所内で雰囲気や風土を醸成する	育児休業取得後に、欠員が生じないよう、人員体制に配慮する	男性従業員自身に育児休業をとる意識を持たせる	職場復帰後のサポート体制を整える	上司が積極的に育児休業をとる	育児休業中でも会社の情報が入るような体制を整える	人事担当の部署等で育児休業の取得事例の紹介をする	取得事例の紹介をする	その他	無回答	
全	体 (N= 645)	65.6	59.4	58.3	50.7	47.8	46.8	46.2	42.8	38.6	36.4	20.3	4.5	4.0	
性・年代別	女	10歳代 (n= 6)	83.3	83.3	66.7	83.3	33.3	50.0	83.3	50.0	50.0	16.7	33.3	0.0	0.0
		20歳代 (n= 35)	68.6	62.9	65.7	65.7	45.7	42.9	42.9	60.0	62.9	25.7	20.0	0.0	2.9
		30歳代 (n= 66)	77.3	75.8	74.2	71.2	65.2	57.6	51.5	56.1	50.0	43.9	34.8	7.6	0.0
		40歳代 (n= 71)	59.2	73.2	62.0	49.3	47.9	42.3	50.7	38.0	42.3	40.8	18.3	4.2	0.0
		50歳代 (n= 68)	69.1	69.1	63.2	51.5	63.2	54.4	52.9	48.5	50.0	42.6	20.6	2.9	1.5
		60歳代 (n= 53)	66.0	71.7	60.4	41.5	50.9	58.5	50.9	50.9	37.7	37.7	22.6	0.0	1.9
		70歳代 (n= 44)	59.1	38.6	52.3	34.1	38.6	50.0	40.9	36.4	40.9	29.5	15.9	0.0	18.2
		80歳代以上 (n= 20)	70.0	35.0	50.0	25.0	25.0	55.0	30.0	30.0	40.0	35.0	5.0	0.0	5.0
	男	10歳代 (n= 4)	50.0	75.0	25.0	75.0	0.0	50.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	62.5	54.2	41.7	54.2	37.5	41.7	25.0	45.8	33.3	29.2	4.2	4.2	0.0
		30歳代 (n= 47)	80.9	61.7	70.2	70.2	66.0	55.3	42.6	48.9	31.9	40.4	36.2	4.3	0.0
		40歳代 (n= 48)	75.0	68.8	66.7	54.2	52.1	39.6	60.4	47.9	35.4	41.7	10.4	10.4	0.0
		50歳代 (n= 52)	57.7	50.0	46.2	46.2	42.3	34.6	34.6	26.9	23.1	30.8	13.5	5.8	3.8
		60歳代 (n= 45)	55.6	44.4	48.9	51.1	37.8	46.7	46.7	40.0	31.1	37.8	28.9	8.9	0.0
70歳代 (n= 30)		56.7	36.7	53.3	40.0	40.0	30.0	50.0	30.0	30.0	36.7	16.7	3.3	13.3	
80歳代以上 (n= 23)		56.5	30.4	34.8	13.0	17.4	39.1	30.4	21.7	21.7	30.4	8.7	8.7	17.4	

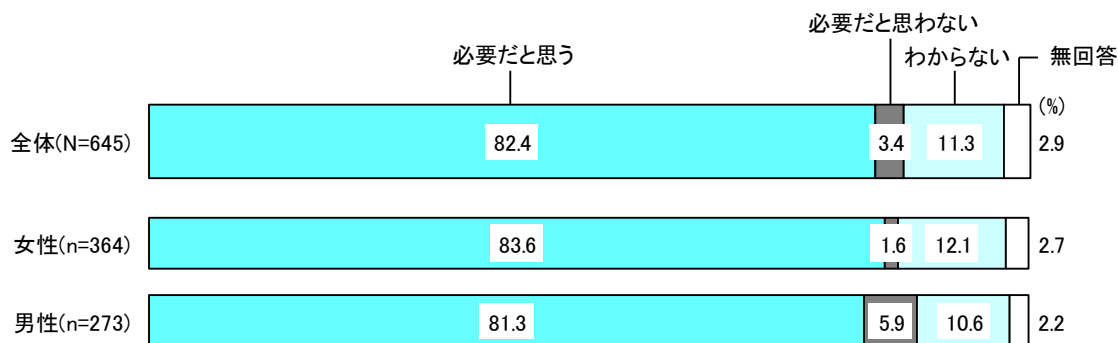
4-10 「働き方改革」についての考え

問 19 男女がともに仕事と生活を両立しつつ、個性と能力を発揮し、活躍できるようにするためには、これまでの働き方を抜本的に見直す「働き方改革」が必要と言われています。あなたは、「働き方改革」についてどう思いますか。(1つに〇)

全体では、「必要だと思う」が 82.4%、「必要だと思わない」が 3.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要だと思う(女性：83.6%、男性：81.3%)」が8割を超えています。(図表4-10-①)

図表4-10-① 「働き方改革」についての考え(全体、性別)



性・年代別にみると、女性はすべての年代で「必要だと思う」が最も多くなっており、とくに30歳代と50歳代は9割を超えています。男性も、すべての年代で「必要だと思う」が最も多くなっており、20歳代から60歳代で8割を超えています。(図表4-10-②)

図表4-10-② 「働き方改革」についての考え(全体、性・年代別)

		必要 だ と 思 う	必要 だ と 思 わ ない	わ か ら ない	無 回 答	
全 体 (N= 645)		82.4	3.4	11.3	2.9	
性・年代別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	100.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	88.5	2.9	5.7	2.9
		30 歳 代 (n= 66)	90.9	1.5	7.6	0.0
		40 歳 代 (n= 71)	78.9	2.8	18.3	0.0
		50 歳 代 (n= 68)	92.6	1.5	5.9	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	84.9	0.0	13.2	1.9
		70 歳 代 (n= 44)	68.2	0.0	15.9	15.9
		80 歳 代 以上 (n= 20)	65.0	5.0	25.0	5.0
	男 性	10 歳 代 (n= 4)	75.0	25.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	87.5	0.0	12.5	0.0
		30 歳 代 (n= 47)	85.1	2.1	12.8	0.0
		40 歳 代 (n= 48)	87.5	10.4	2.1	0.0
		50 歳 代 (n= 52)	82.7	7.7	7.7	1.9
		60 歳 代 (n= 45)	80.0	6.7	13.3	0.0
70 歳 代 (n= 30)		70.0	3.3	16.7	10.0	
80 歳 代 以上 (n= 23)		69.6	4.3	17.4	8.7	

4-11 「働き方改革」のために必要なこと

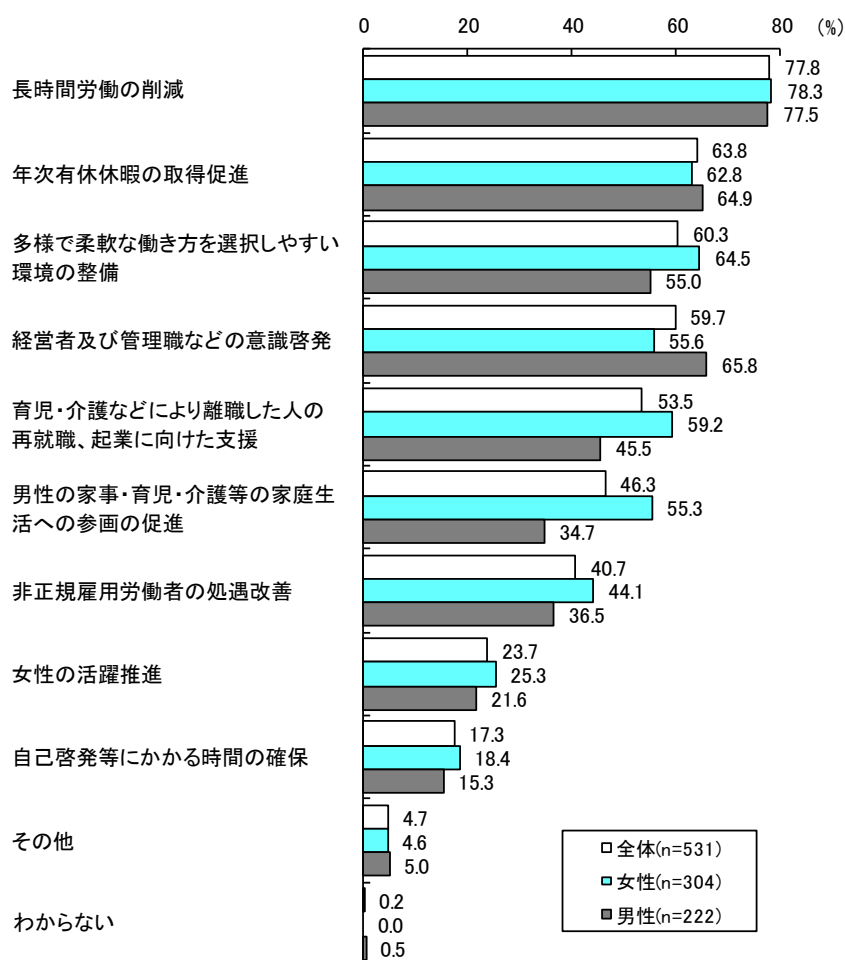
問 19-1 問 19 で「1 必要だと思う」と答えた方におたずねします。
あなたは、「働き方改革」に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

問 19 で、「必要だと思う」と回答した人に、「働き方改革」に向けて、必要なことをたずねました。

全体では、「長時間労働の削減(77.8%)」が最も多く、「年次有給休暇の取得促進(63.8%)」、「多様で柔軟な働き方を選択しやすい環境の整備(60.3%)」、「経営者及び管理職などの意識啓発(59.7%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「長時間労働の削減(女性：78.3%、男性：77.5%)」が7割を超えて最も多く、女性は「多様で柔軟な働き方を選択しやすい環境の整備(64.5%)」、「年次有給休暇の取得促進(62.8%)」、男性は「経営者及び管理職などの意識啓発(65.8%)」、「年次有給休暇の取得促進(64.9%)」が続いています。また、「男性の家事・育児・介護等の家庭生活への参画の促進(女性：55.3%、男性：34.7%)」と「育児・介護などにより離職した人の再就職、起業に向けた支援(女性：59.2%、男性：45.5%)」は、女性が男性をそれぞれ 20.6 ポイント、13.7 ポイント上回っています。一方、「経営者及び管理職などの意識啓発(女性：55.6%、男性：65.8%)」は男性が女性を 10.2 ポイント上回っています。(図表 4-11-①)

図表 4-11-① 「働き方改革」のために必要なこと (全体、性別：複数回答)
＜必要だと思う人＞



性・年代別にみると、女性はすべての年代で「長時間労働の削減」が最も多く、7割強から8割半ばとなっています。男性は70歳代をのぞいたすべての年代で「長時間労働の削減」が最も多く、70歳代は「経営者及び管理職などの意識啓発」が最も多くなっています。また、30歳代は「年次有休休暇の取得促進」が8割、30歳代と40歳代は「経営者及び管理職などの意識啓発」も7割台と多くなっています。(図表4-11-②)

図表4-11-② 「働き方改革」のために必要なこと（全体、性別：複数回答）
 <必要だと思う人>

		長時間労働の削減	年次有休休暇の取得促進	経営者及び管理職などの意識啓発	男性の家事・育児・介護等の家庭生活への参画の促進	多様な柔軟な働き方を選択しやすい環境の整備	女性の活躍推進	自己啓発等にかかる時間の確保	非正規雇用労働者の処遇改善	育児・介護などにより離職した人の再就職・起業に向けた支援	その他	わからない	無回答	
全体 (n= 531)		77.8	63.8	59.7	46.3	60.3	23.7	17.3	40.7	53.5	4.7	0.2	0.0	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 6)	50.0	33.3	50.0	100.0	83.3	50.0	33.3	50.0	66.7	16.7	0.0	0.0
		20歳代 (n= 31)	83.9	71.0	54.8	51.6	64.5	25.8	29.0	32.3	54.8	3.2	0.0	0.0
		30歳代 (n= 60)	80.0	66.7	53.3	63.3	61.7	20.0	8.3	30.0	56.7	11.7	0.0	0.0
		40歳代 (n= 56)	83.9	62.5	46.4	42.9	64.3	23.2	12.5	37.5	53.6	5.4	0.0	0.0
		50歳代 (n= 63)	71.4	65.1	58.7	52.4	68.3	25.4	22.2	55.6	58.7	3.2	0.0	0.0
		60歳代 (n= 45)	82.2	62.2	64.4	60.0	62.2	26.7	24.4	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0
		70歳代 (n= 30)	73.3	60.0	63.3	50.0	70.0	36.7	20.0	43.3	66.7	0.0	0.0	0.0
		80歳代以上 (n= 13)	76.9	38.5	46.2	69.2	46.2	15.4	15.4	30.8	61.5	0.0	0.0	0.0
	男性	10歳代 (n= 3)	100.0	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 21)	85.7	61.9	61.9	33.3	38.1	9.5	4.8	9.5	42.9	4.8	0.0	0.0
		30歳代 (n= 40)	82.5	80.0	77.5	45.0	60.0	25.0	22.5	40.0	45.0	5.0	0.0	0.0
		40歳代 (n= 42)	81.0	69.0	71.4	28.6	64.3	16.7	7.1	23.8	59.5	9.5	0.0	0.0
		50歳代 (n= 43)	79.1	60.5	55.8	30.2	53.5	25.6	11.6	41.9	30.2	7.0	0.0	0.0
		60歳代 (n= 36)	69.4	55.6	66.7	30.6	63.9	16.7	22.2	50.0	36.1	2.8	0.0	0.0
		70歳代 (n= 21)	66.7	61.9	76.2	42.9	47.6	28.6	9.5	52.4	57.1	0.0	0.0	0.0
80歳代以上 (n= 16)		68.8	50.0	43.8	37.5	43.8	31.3	31.3	37.5	56.3	0.0	6.3	0.0	

5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

5-1 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現状況

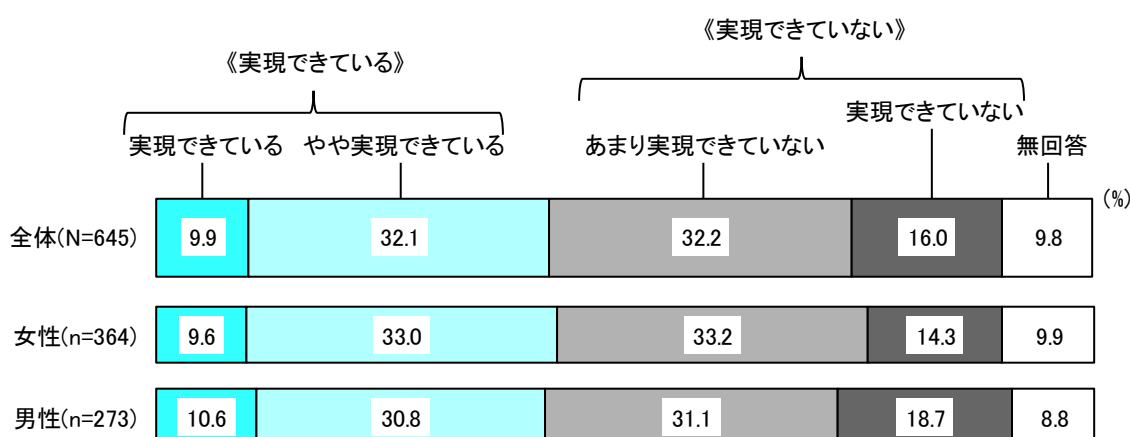
問20 あなたはワーク・ライフ・バランスを実現していますか。あなたの実情に近いものを選んでください。（1つに〇）

ここでは、「実現できている」と「やや実現できている」の合計を《実現できている》とし、「あまり実現できていない」と「実現できていない」の合計を《実現できていない》としています。

全体では、《実現できている(42.0%)》が《実現できていない(48.2%)》を6.2ポイント下回っています。

性別にみると、男女ともに《実現できている(女性：42.6%、男性：41.4%)》が《実現できていない(女性：47.5%、男性：49.8%)》をそれぞれ4.9ポイント、8.4ポイント下回っています。（図表5-1-①）

図表5-1-① 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現状況（全体、性別）



性・年代別にみると、女性は30歳代、50歳代で《実現できていない》が6割を超え、全体を10ポイント以上上回っています。男性は40歳代と80歳代以上で《実現できていない》が6割を超え、全体を10ポイント以上上回っています。(図表5-1-②)

図表5-1-② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現状況（全体、性・年代別）

			実現できている	やや実現できている	あまり実現できていない	実現できていない	無回答	再掲	
								《実現できている》	《実現できていない》
全		体 (N= 645)	9.9	32.1	32.2	16.0	9.8	42.0	48.2
性・年代別	女	10歳代 (n= 6)	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	83.3	16.7
		20歳代 (n= 35)	17.1	34.3	34.3	11.4	2.9	51.4	45.7
		30歳代 (n= 66)	7.6	28.8	39.4	22.7	1.5	36.4	62.1
		40歳代 (n= 71)	14.1	46.5	29.6	7.0	2.8	60.6	36.6
		50歳代 (n= 68)	7.4	29.4	48.5	14.7	0.0	36.8	63.2
		60歳代 (n= 53)	7.5	30.2	32.1	17.0	13.2	37.7	49.1
		70歳代 (n= 44)	0.0	27.3	22.7	11.4	38.6	27.3	34.1
		80歳代以上 (n= 20)	10.0	25.0	5.0	20.0	40.0	35.0	25.0
	男	10歳代 (n= 4)	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	20.8	37.6	33.3	8.3	0.0	58.4	41.6
		30歳代 (n= 47)	12.8	36.1	29.8	17.0	4.3	48.9	46.8
		40歳代 (n= 48)	14.6	20.8	39.6	22.9	2.1	35.4	62.5
		50歳代 (n= 52)	9.6	34.7	32.7	19.2	3.8	44.3	51.9
		60歳代 (n= 45)	4.4	33.4	28.9	20.0	13.3	37.8	48.9
70歳代 (n= 30)		10.0	26.7	23.3	13.3	26.7	36.7	36.6	
80歳代以上 (n= 23)		4.3	17.4	30.5	30.4	17.4	21.7	60.9	

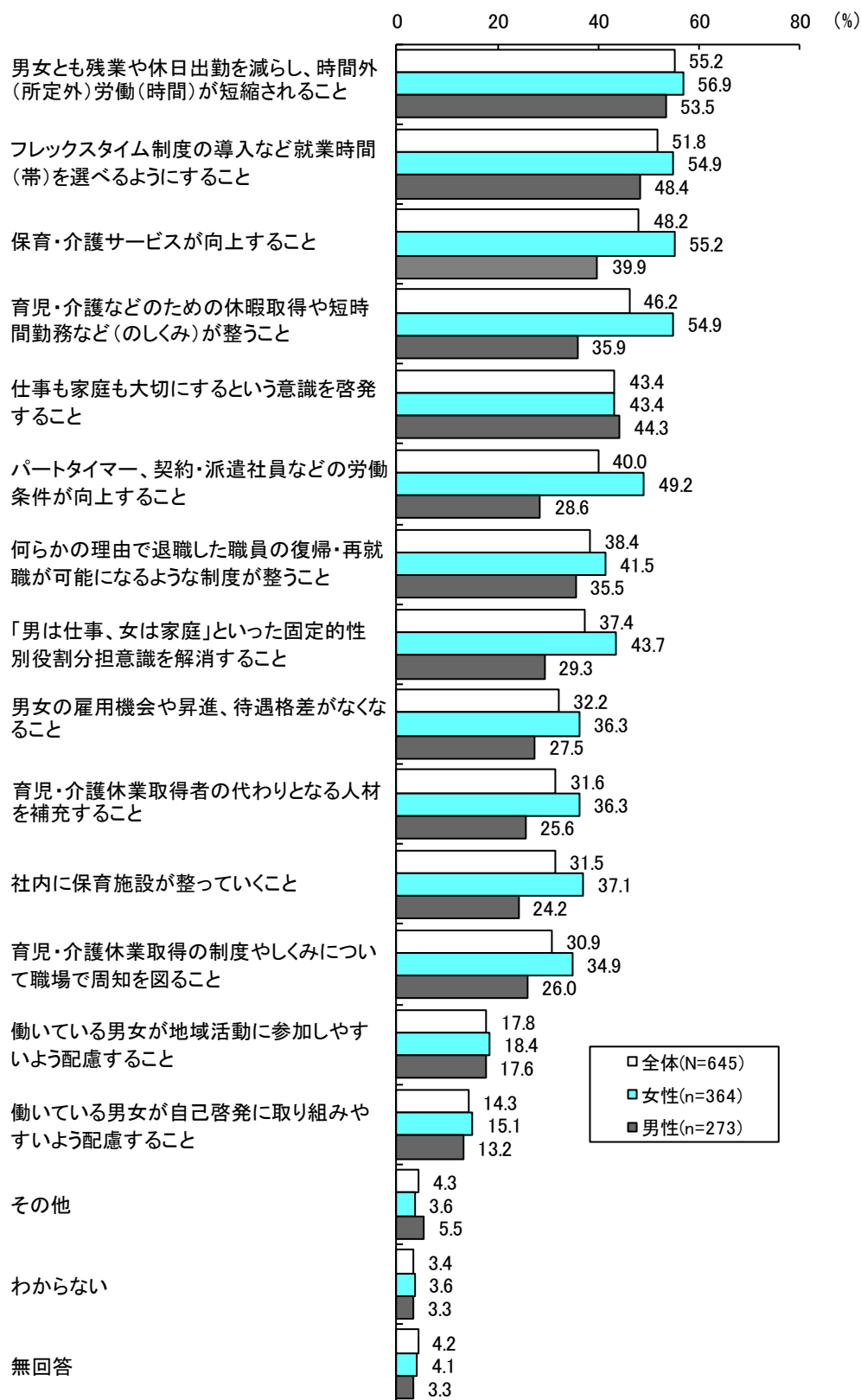
5-2 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のために必要なもの

問21 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なものは何だと思えますか。（いくつでも○）

全体では、「男女とも残業や休日出勤を減らし、時間外（所定外）労働（時間）が短縮されること（55.2%）」が最も多く、「フレックスタイム制度の導入など就業時間（帯）を選べるようにすること（51.8%）」、「保育・介護サービスが向上すること（48.2%）」、「育児・介護などのための休暇取得や短時間勤務など（のしくみ）が整うこと（46.2%）」が続いています。

性別にみると、女性は順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、第3位に同率で「育児・介護などのための休暇取得や短時間勤務など（のしくみ）が整うこと（女性：54.9%、男性：35.9%）」が続いており、男性を19.0ポイント上回っています。男性の上位2位は全体と同じですが、3位に「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること（44.3%）」が続いています。また、「パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること（女性：49.2%、男性：28.6%）」と「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識を解消すること（女性：43.7%、男性：29.3%）」、「社内に保育施設が整っていくこと（女性：37.1%、男性：24.2%）」、「育児・介護休業取得者の代わりとなる人材を補充すること（女性：36.3%、男性：25.6%）」でそれぞれ男性を20.6ポイント、14.4ポイント、12.9ポイント、10.7ポイント上回っています。（図表5-2-①）

図表5-2-① 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のために必要なもの
（全体、性別：複数回答）



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性は20歳代、30歳代、60歳代で「男女とも残業や休日出勤を減らし、時間外（所定外）労働（時間）が短縮されること」が最も多くなっています。60歳代は「パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること」も同率で最も多くなっています。また、40歳代は「フレックスタイム制度の導入など就業時間（帯）を選べるようにすること」、50歳代は「パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること」、70歳代と80歳代以上は「保育・介護サービスが向上すること」が最も多くなっています。男性は20歳代、40歳代、50歳代で「男女とも残業や休日出勤を減らし、時間外（所定外）労働（時間）が短縮されること」が最も多くなっており、30歳代は「保育・介護サービスが向上すること」と「フレックスタイム制度の導入など就業時間（帯）を選べるようにすること」も同率で最も多くなっています。また、60歳代は「フレックスタイム制度の導入など就業時間（帯）を選べるようにすること」、70歳代は「保育・介護サービスが向上すること」、80歳代以上は「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識を解消すること」が最も多くなっています。（図表5-2-②）

図表5-2-② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のために必要なもの
（全体、性・年代別：複数回答）

		定外労働（時間）が短縮されること	男女とも残業や休日出勤を減らし、時間外（所定外）労働（時間）が短縮されること	フレックスタイム制度の導入など就業時間（帯）を選べるようにすること	保育・介護サービスが向上すること	育児・介護などのための休暇取得や短時間勤務など（のしくみ）が整うこと	仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること	パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること	何らかの理由で退職した職員の復帰・再就職が可能になるような制度が整うこと	「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識を解消すること	男女の雇用機会や昇進、待遇格差がなくなること	育児・介護休業取得者の代わりとなる人材を補充すること	社内に保育施設が整っていくこと	育児・介護休業取得の制度やしきみについて職場で周知を図ること	働いている男女が地域活動に参加しやすいよう配慮すること	働いている男女が自己啓発に取り組みやすいよう配慮すること	その他	わからない	無回答
全	体 (N= 645)	55.2	51.8	48.2	46.2	43.4	40.0	38.4	37.4	32.2	31.6	31.5	30.9	17.8	14.3	4.3	3.4	4.2	
性	女	10歳代 (n= 6)	66.7	100.0	66.7	50.0	66.7	66.7	66.7	100.0	83.3	33.3	66.7	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n= 35)	68.6	62.9	45.7	54.3	34.3	40.0	45.7	42.9	37.1	28.6	25.7	28.6	5.7	14.3	2.9	8.6	2.9	
	30歳代 (n= 66)	74.2	60.6	48.5	69.7	47.0	47.0	40.9	43.9	37.9	45.5	43.9	50.0	15.2	12.1	9.1	1.5	1.5	
	40歳代 (n= 71)	42.3	63.4	59.2	49.3	43.7	39.4	38.0	43.7	31.0	26.8	33.8	35.2	18.3	14.1	4.2	5.6	1.4	
	50歳代 (n= 68)	58.8	50.0	57.4	66.2	41.2	72.1	50.0	41.2	36.8	44.1	35.3	33.8	23.5	17.6	1.5	1.5	0.0	
	60歳代 (n= 53)	60.4	52.8	58.5	52.8	47.2	60.4	45.3	50.9	37.7	47.2	45.3	32.1	22.6	13.2	0.0	1.9	3.8	
	70歳代 (n= 44)	43.2	43.2	56.8	36.4	38.6	31.8	27.3	31.8	36.4	29.5	31.8	27.3	20.5	22.7	4.5	6.8	18.2	
	80歳代以上 (n= 20)	45.0	25.0	55.0	40.0	50.0	35.0	35.0	40.0	30.0	15.0	35.0	20.0	15.0	5.0	0.0	0.0	10.0	
性	男	10歳代 (n= 4)	75.0	0.0	50.0	75.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n= 24)	70.8	58.3	16.7	37.5	33.3	20.8	41.7	41.7	20.8	20.8	25.0	20.8	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	
	30歳代 (n= 47)	53.2	59.6	59.6	57.4	46.8	25.5	42.6	38.3	36.2	34.0	36.2	36.2	19.1	21.3	2.1	2.1	0.0	
	40歳代 (n= 48)	64.6	56.3	37.5	41.7	50.0	22.9	45.8	20.8	27.1	31.3	22.9	31.3	18.8	2.1	12.5	0.0	4.2	
	50歳代 (n= 52)	55.8	51.9	38.5	21.2	51.9	19.2	25.0	19.2	26.9	26.9	19.2	19.2	9.6	15.4	3.8	1.9	1.9	
	60歳代 (n= 45)	44.4	48.9	31.1	28.9	37.8	40.0	31.1	17.8	26.7	15.6	13.3	15.6	20.0	13.3	6.7	4.4	4.4	
	70歳代 (n= 30)	43.3	30.0	50.0	36.7	40.0	40.0	36.7	40.0	23.3	33.3	26.7	30.0	26.7	16.7	3.3	6.7	6.7	
	80歳代以上 (n= 23)	34.8	21.7	34.8	17.4	39.1	39.1	26.1	43.5	26.1	13.0	30.4	26.1	21.7	26.1	4.3	13.0	8.7	

6 地域・防災

6-1 地域活動への参加状況と参加意向

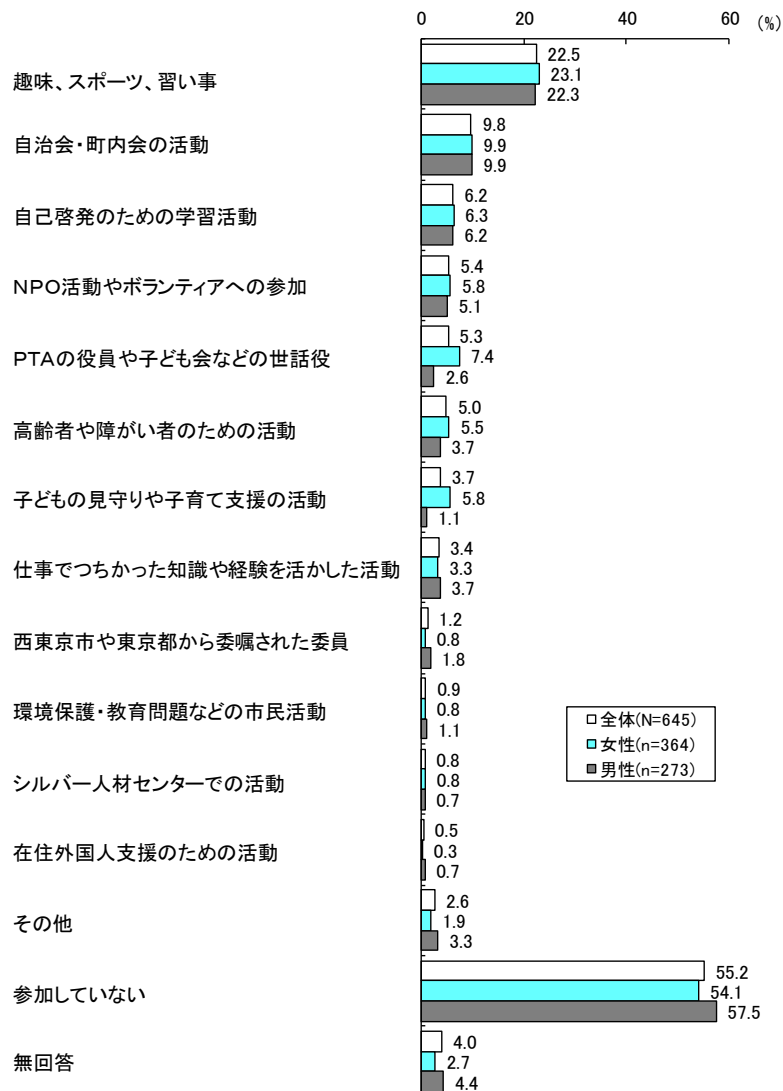
問 22 地域活動についておたずねします。
 ①あなたは現在、どのような地域活動に参加していますか。【参加状況】(いくつでも○)
 ②あなたは今後、どのような地域活動に参加したいと思いますか。【参加意向】
 現在参加している地域活動も含めて、参加したい活動をお答えください。(いくつでも○)

地域活動について、現在の参加の状況をたずねました。

全体では、現在参加している割合は、「趣味、スポーツ、習い事(22.5%)」が最も多く、「自治会・町内会の活動(9.8%)」、「自己啓発のための学習活動(6.2%)」が続いています。「参加していない」が、55.2%となっています。

性別にみると、現在参加している割合は、男女ともに上位2位は全体と同じですが、第3位は、女性は「PTAの役員や子ども会などの世話役(7.4%)」、男性は「自己啓発のための学習活動(6.2%)」が続いています。「参加していない(女性：54.1%、男性：57.5%)」は、男女ともに5割台となっています。(図表6-1-①)

図表6-1-① 地域活動への参加状況(全体、性別：複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、現在参加している割合は、女性は40歳代以上で「趣味、スポーツ、習い事」が2割を超え、とくに70歳代は4割半ばとなっています。また、40歳代は「PTAの役員や子ども会などの世話役」、「子どもの見守りや子育て支援の活動」が全体を10から15ポイント程度上回っています。一方、20歳代と30歳代は「参加していない」が6割半ばから7割強となっています。男性は20歳代と60歳代以上で「趣味、スポーツ、習い事」が2割を超え、とくに70歳代は4割半ばとなっています。一方、30歳代から50歳代は「参加していない」が6割強から7割半ば、60歳代は5割半ば、70歳代は2割台、80歳代は4割程度となっています。

地域別にみると、いずれの地域も「趣味、スポーツ、習い事」が最も多く、北東部地域と西部地域、南部地域は「自治会・町内会の活動」が、中部地域は「自己啓発のための学習活動」が続いています。(図表6-1-②)

図表6-1-② 地域活動への参加状況（全体、性・年代別、地域別：複数回答）

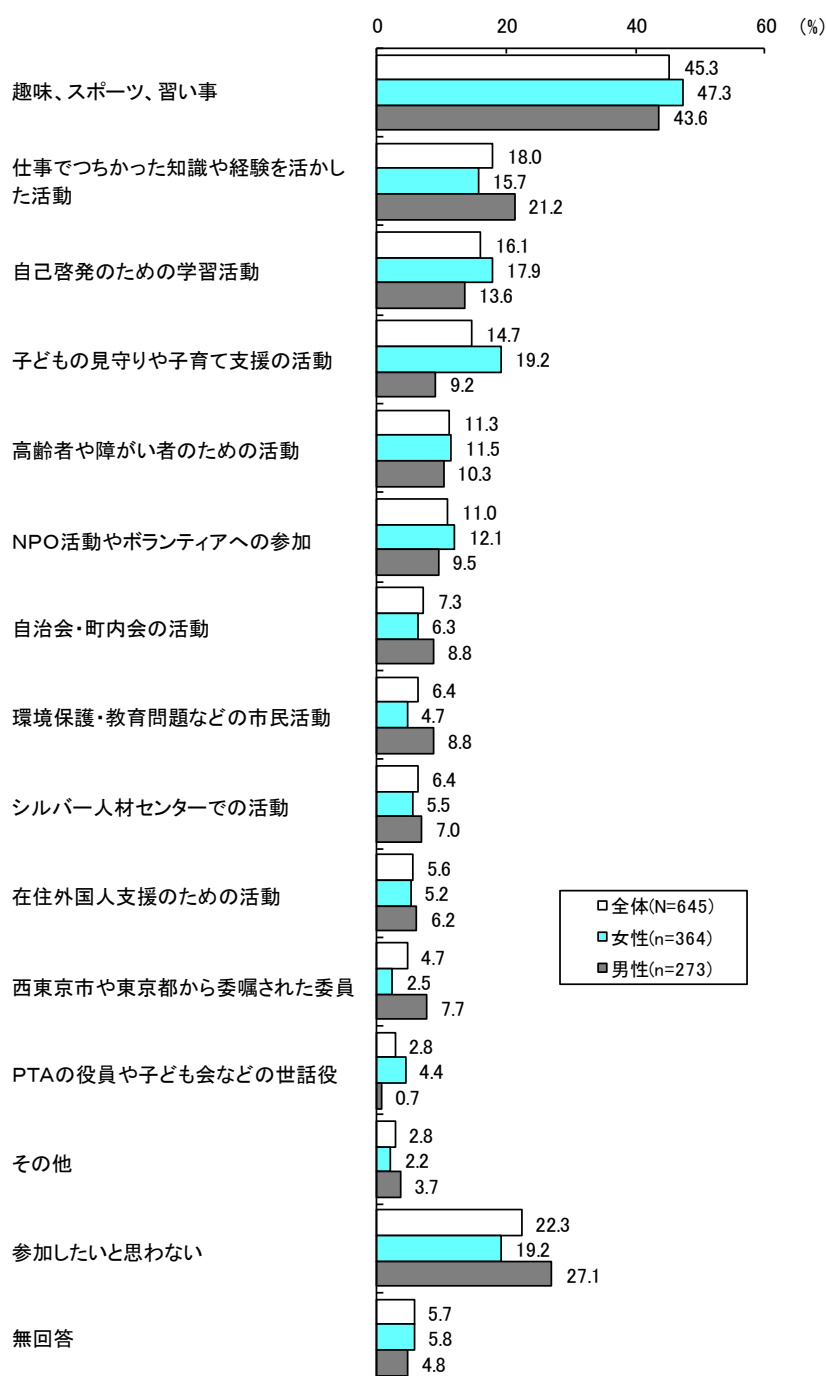
		趣味、スポーツ、習い事	自治会・町内会の活動	自己啓発のための学習活動	参加NPO活動やボランティアへの世話役	PTAの役員や子ども会などの	高齢者や障がい者のための活動	活動子どもの見守りや子育て支援の	仕事でつちかった知識や経験を活かした活動	西東京市や東京都から委嘱された委員	環境保護・教育問題などの市民活動	シルバー人材センターでの活動	在住外国人支援のための活動	その他	参加していない	無回答	
全体 (N= 645)		22.5	9.8	6.2	5.4	5.3	5.0	3.7	3.4	1.2	0.9	0.8	0.5	2.6	55.2	4.0	
性・年代別	女	10歳代 (n= 6)	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0
		20歳代 (n= 35)	8.6	0.0	2.9	8.6	0.0	2.9	5.7	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	2.9
		30歳代 (n= 66)	10.6	7.6	1.5	0.0	10.6	3.0	7.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	66.7	1.5
		40歳代 (n= 71)	25.4	8.5	1.4	5.6	21.1	4.2	14.1	5.6	1.4	1.4	0.0	1.4	4.2	46.5	1.4
		50歳代 (n= 68)	23.5	17.6	7.4	2.9	4.4	4.4	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	57.4	0.0
		60歳代 (n= 53)	24.5	7.5	5.7	7.5	1.9	7.5	3.8	5.7	3.8	1.9	1.9	0.0	0.0	52.8	5.7
		70歳代 (n= 44)	45.5	13.6	25.0	15.9	0.0	13.6	2.3	2.3	0.0	2.3	4.5	0.0	4.5	27.3	4.5
		80歳代以上 (n= 20)	30.0	15.0	5.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.0	10.0
男	10歳代 (n= 4)	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	
	20歳代 (n= 24)	29.2	4.2	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	54.2	4.2	
	30歳代 (n= 47)	12.8	8.5	6.4	2.1	2.1	2.1	2.1	6.4	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	76.6	0.0	
	40歳代 (n= 48)	12.5	10.4	6.3	6.3	6.3	4.2	2.1	6.3	0.0	2.1	0.0	2.1	4.2	66.7	6.3	
	50歳代 (n= 52)	17.3	3.8	5.8	1.9	3.8	3.8	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	3.8	61.5	3.8	
	60歳代 (n= 45)	22.2	17.8	6.7	6.7	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	55.6	0.0	
	70歳代 (n= 30)	46.7	13.3	6.7	6.7	0.0	6.7	3.3	3.3	10.0	3.3	3.3	0.0	6.7	23.3	10.0	
	80歳代以上 (n= 23)	34.8	13.0	8.7	8.7	0.0	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	8.7	39.1	13.0	
地域別	北東部地域 (n= 160)	21.9	10.6	5.0	7.5	6.9	5.0	5.6	5.0	0.6	0.6	1.3	0.0	3.8	56.3	1.9	
	中部地域 (n= 141)	22.7	9.9	10.6	5.0	3.5	9.2	3.5	3.5	0.7	1.4	0.7	0.0	2.1	53.9	6.4	
	西部地域 (n= 170)	25.9	10.0	7.1	5.9	3.5	3.5	2.9	2.9	2.4	1.2	0.6	0.6	4.1	51.8	2.9	
	南部地域 (n= 164)	19.5	9.1	3.0	3.7	6.7	3.0	3.0	2.4	1.2	0.6	0.6	1.2	0.6	57.9	4.9	

地域活動について今後の参加意向をたずねました。

全体では、「趣味、スポーツ、習い事(45.3%)」が最も多く、「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動(18.0%)」、「自己啓発のための学習活動(16.1%)」が続いています。

性別にみると、今後参加したい割合は、男女ともに「趣味、スポーツ、習い事(女性：47.3%、男性：43.6%)」が4割を超えて最も多く、女性は「子どもの見守りや子育て支援の活動(19.2%)」、「自己啓発のための学習活動(17.9%)」、男性は「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動(21.2%)」、「自己啓発のための学習活動(13.6%)」が続いています。「参加したいと思わない」は、女性は19.2%、男性は27.1%となっています。(図表6-1-③)

図表6-1-③ 地域活動への参加意向（全体、性別：複数回答）



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、今後参加したい割合は、女性はすべての年代で「趣味、スポーツ、習い事」が最も多くなっています。20歳代は「子どもの見守りや子育て支援の活動」、「在住外国人支援のための活動」、30歳代は「子どもの見守りや子育て支援の活動」、60歳代は「NPO活動やボランティアへの参加」、70歳代は「自己啓発のための学習活動」が全体を10から20ポイント程度上回っています。男性はすべての年代で「趣味、スポーツ、習い事」が最も多くなっています。30歳代は「自己啓発のための学習活動」、60歳代は「シルバー人材センターでの活動」、80歳代以上は「自治会・町内会の活動」、「その他」が全体を10から15ポイント程度上回っています。

地域別にみると、いずれの地域も「趣味、スポーツ、習い事」が4割台で最も多く、北東部地域と南部地域は「仕事でつちかった知識や経験を活かした活動」、中部地域と西部地域は「自己啓発のための学習活動」が続いています。また、西部地域は「子どもの見守りや子育て支援の活動(18.2%)」も同率が続いています。(図表6-1-④)

図表6-1-④ 地域活動への参加意向（全体、性・年代別、地域別：複数回答）

		趣味、スポーツ、習い事	仕事でつちかった知識や経験を 活かした活動	自己啓発のための学習活動	子どもの見守りや子育て支援の 活動	高齢者や障がい者のための活動	参加 NPO活動やボランティアへの	自治会・町内会の活動	環境保護・教育問題などの市民 活動	シルバー人材センターでの活動	在住外国人支援のための活動	西東京市や東京都から委嘱され た委員	世話役 PTAの役員や子ども会などの	その他	参加したいと思わない	無回答	
全 体 (N= 645)		45.3	18.0	16.1	14.7	11.3	11.0	7.3	6.4	6.4	5.6	4.7	2.8	2.8	22.3	5.7	
性・年代別	女 性	10歳代 (n= 6)	83.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 35)	37.1	17.1	11.4	37.1	5.7	17.1	2.9	8.6	2.9	17.1	2.9	2.9	0.0	28.6	5.7
		30歳代 (n= 66)	43.9	15.2	15.2	27.3	7.6	4.5	6.1	7.6	1.5	10.6	0.0	9.1	3.0	24.2	0.0
		40歳代 (n= 71)	43.7	14.1	11.3	22.5	12.7	12.7	8.5	4.2	0.0	2.8	1.4	9.9	2.8	23.9	2.8
		50歳代 (n= 68)	52.9	22.1	17.6	17.6	14.7	8.8	5.9	5.9	7.4	2.9	8.8	1.5	0.0	20.6	1.5
		60歳代 (n= 53)	56.6	20.8	20.8	15.1	13.2	22.6	3.8	1.9	15.1	3.8	1.9	1.9	0.0	7.5	5.7
		70歳代 (n= 44)	50.0	9.1	38.6	4.5	18.2	15.9	9.1	2.3	9.1	0.0	0.0	0.0	2.3	13.6	11.4
		80歳代以上 (n= 20)	30.0	0.0	10.0	0.0	5.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	15.0	40.0
	男 性	10歳代 (n= 4)	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	62.5	12.5	4.2	8.3	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0	8.3	0.0	0.0	4.2	25.0	0.0
		30歳代 (n= 47)	44.7	21.3	27.7	4.3	6.4	4.3	8.5	6.4	2.1	4.3	6.4	2.1	0.0	42.6	0.0
		40歳代 (n= 48)	45.8	16.7	14.6	16.7	16.7	12.5	8.3	8.3	2.1	12.5	8.3	0.0	4.2	29.2	8.3
		50歳代 (n= 52)	46.2	25.0	7.7	5.8	9.6	9.6	5.8	13.5	9.6	5.8	9.6	1.9	5.8	21.2	3.8
		60歳代 (n= 45)	33.3	33.3	17.8	8.9	13.3	13.3	8.9	11.1	17.8	6.7	11.1	0.0	0.0	22.2	2.2
		70歳代 (n= 30)	36.7	10.0	13.3	3.3	13.3	13.3	13.3	6.7	6.7	3.3	10.0	0.0	3.3	26.7	13.3
		80歳代以上 (n= 23)	39.1	21.7	0.0	17.4	8.7	8.7	21.7	8.7	8.7	0.0	0.0	0.0	13.0	17.4	8.7
地域別	北東部地域 (n= 160)	41.3	20.0	12.5	19.4	15.0	18.1	10.0	7.5	5.6	8.1	3.1	3.1	3.8	21.3	5.0	
	中部地域 (n= 141)	48.9	17.7	23.4	10.6	16.3	9.2	7.1	5.7	7.1	3.5	4.3	2.8	1.4	21.3	7.1	
	西部地域 (n= 170)	48.8	17.1	18.2	18.2	10.0	12.4	7.1	4.7	8.8	6.5	7.6	2.4	3.5	21.2	4.7	
	南部地域 (n= 164)	44.5	16.5	12.2	11.0	5.5	4.9	5.5	7.3	4.3	3.7	3.7	3.0	2.4	23.2	6.7	

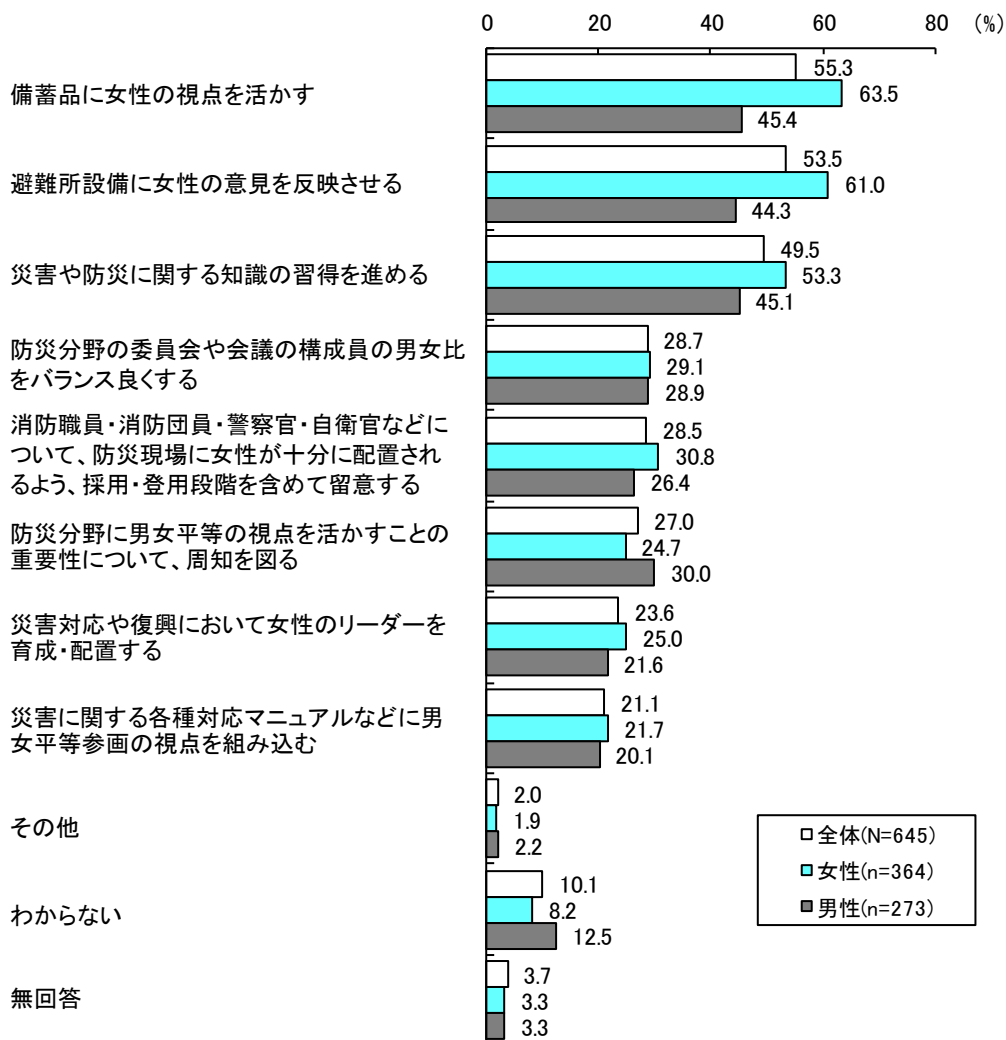
6-2 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと

問23 あなたは、防災分野で男女平等の視点を活かすためには、どのようなことが重要だと思いますか。(いくつでも〇)

全体では、「備蓄品に女性の視点を活かす(55.3%)」が最も多く、「避難所設備に女性の意見を反映させる(53.5%)」、「災害や防災に関する知識の習得を進める(49.5%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、女性は「備蓄品に女性の視点を活かす(女性：63.5%、男性：45.4%)」と「避難所設備に女性の意見を反映させる(女性：61.0%、男性：44.3%)」で男性をそれぞれ18.1ポイント、16.7ポイント上回っています。(図表6-2-①)

図表6-2-① 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと
(全体、性別：複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性は20歳代、30歳代、70歳代で「備蓄品に女性の視点を活かす」、40歳代は「災害や防災に関する知識の習得を進める」が最も多くなっています。50歳代、60歳代、80歳代以上は「避難所設備に女性の意見を反映させる」が最も多くなっており、とくに50歳代と60歳代は7割強となっています。男性は20歳代、50歳代、70歳代以上で「災害や防災に関する知識の習得を進める」が最も多くなっています。30歳代、40歳代、60歳代は「備蓄品に女性の視点を活かす」が最も多く、30歳代、40歳代は「避難所設備に女性の意見を反映させる」も同率で最も多くなっています。(図表6-2-②)

図表6-2-② 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと
(全体、性・年代別：複数回答)

		備蓄品に女性の視点を活かす	避難所設備に女性の意見を反映させる	災害や防災に関する知識の習得を進める	防災分野の委員会や会議の構成員の男女比をバランス良くする	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などによう、採用・登用段階に女性が十分に配置される	防災分野について、周知を図る	災害対応や復興において女性のリーダーを育成・配置する	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等の視点を組み込む	その他	わからない	無回答	
全 体 (N= 645)		55.3	53.5	49.5	28.7	28.5	27.0	23.6	21.1	2.0	10.1	3.7	
性・年代別	女	10 歳 代 (n= 6)	83.3	83.3	50.0	50.0	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	62.9	51.4	51.4	25.7	25.7	8.6	14.3	14.3	0.0	11.4	2.9
		30 歳 代 (n= 66)	69.7	62.1	47.0	31.8	19.7	28.8	24.2	18.2	3.0	6.1	0.0
		40 歳 代 (n= 71)	60.6	50.7	62.0	26.8	25.4	21.1	21.1	19.7	1.4	11.3	1.4
		50 歳 代 (n= 68)	63.2	72.1	60.3	36.8	39.7	27.9	32.4	30.9	1.5	2.9	1.5
		60 歳 代 (n= 53)	67.9	71.7	50.9	34.0	34.0	35.8	30.2	28.3	1.9	3.8	1.9
		70 歳 代 (n= 44)	59.1	54.5	45.5	20.5	38.6	25.0	25.0	18.2	2.3	13.6	13.6
		80 歳 代 以上 (n= 20)	50.0	55.0	50.0	10.0	30.0	10.0	10.0	10.0	5.0	15.0	10.0
	男	10 歳 代 (n= 4)	75.0	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	50.0	33.3	54.2	20.8	20.8	29.2	12.5	8.3	4.2	8.3	0.0
		30 歳 代 (n= 47)	48.9	48.9	46.8	25.5	23.4	36.2	21.3	23.4	2.1	17.0	0.0
		40 歳 代 (n= 48)	52.1	52.1	33.3	39.6	20.8	37.5	27.1	14.6	6.3	6.3	6.3
		50 歳 代 (n= 52)	42.3	44.2	46.2	30.8	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	17.3	3.8
		60 歳 代 (n= 45)	46.7	44.4	44.4	37.8	35.6	31.1	28.9	24.4	2.2	6.7	0.0
70 歳 代 (n= 30)		40.0	40.0	53.3	23.3	43.3	23.3	20.0	23.3	0.0	10.0	6.7	
80 歳 代 以上 (n= 23)		26.1	34.8	39.1	13.0	17.4	26.1	4.3	17.4	0.0	26.1	8.7	

7 人権

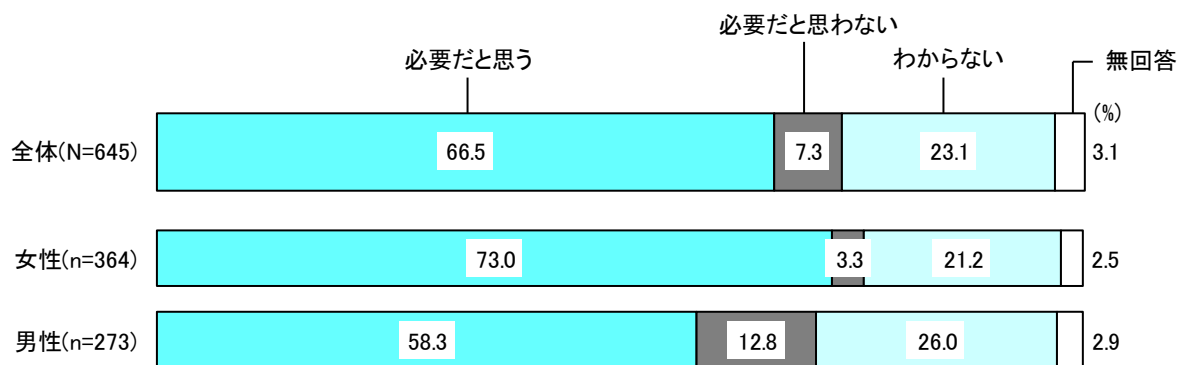
7-1 性的マイノリティへの取り組みについての考え方

問24 近年、性的マイノリティへの対応が求められており、取り組みが進められている自治体もみられます。あなたは、このような動きがあることについて、どう思いますか。(1つに〇)

全体では、「必要だと思う」が66.5%、「必要だとは思わない」が7.3%、「わからない」が23.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要だと思う(女性：73.0%、男性：58.3%)」が最も多くなっています。(図表7-1-①)

図表7-1-① 性的マイノリティへの取り組みについての考え方(全体、性別)



性・年代別にみると、女性は20歳代から60歳代で「必要だと思う」が7割を超えており、とくに30歳代で8割を超えています。70歳代、80歳代以上では、「必要だと思う」が4割半ばから5割となっています。男性は20歳代から60歳代で「必要だと思う」が6割弱から7割程度、70歳代、80歳代以上では、「必要だと思う」が3割程度から4割半ばとなっています。(図表7-1-②)

図表7-1-② 性的マイノリティへの取り組みについての考え方(全体、性・年代別)

		(%)				
		必要 だと思 う	必要 だとは 思わな い	わか らな い	無 回 答	
全 体 (N= 645)		66.5	7.3	23.1	3.1	
性・年代別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	83.3	0.0	16.7	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	77.2	5.7	17.1	0.0
		30 歳 代 (n= 66)	87.9	3.0	9.1	0.0
		40 歳 代 (n= 71)	71.9	4.2	23.9	0.0
		50 歳 代 (n= 68)	76.5	2.9	20.6	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	77.3	3.8	18.9	0.0
		70 歳 代 (n= 44)	50.0	2.3	34.1	13.6
		80 歳 代 以上 (n= 20)	45.0	0.0	40.0	15.0
	男 性	10 歳 代 (n= 4)	100.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	62.5	8.3	29.2	0.0
		30 歳 代 (n= 47)	59.6	14.9	25.5	0.0
		40 歳 代 (n= 48)	70.8	10.4	18.8	0.0
		50 歳 代 (n= 52)	57.7	11.5	30.8	0.0
		60 歳 代 (n= 45)	60.0	13.3	20.0	6.7
70 歳 代 (n= 30)		46.6	10.0	36.7	6.7	
80 歳 代 以上 (n= 23)		30.5	26.1	30.4	13.0	

7-2 性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策

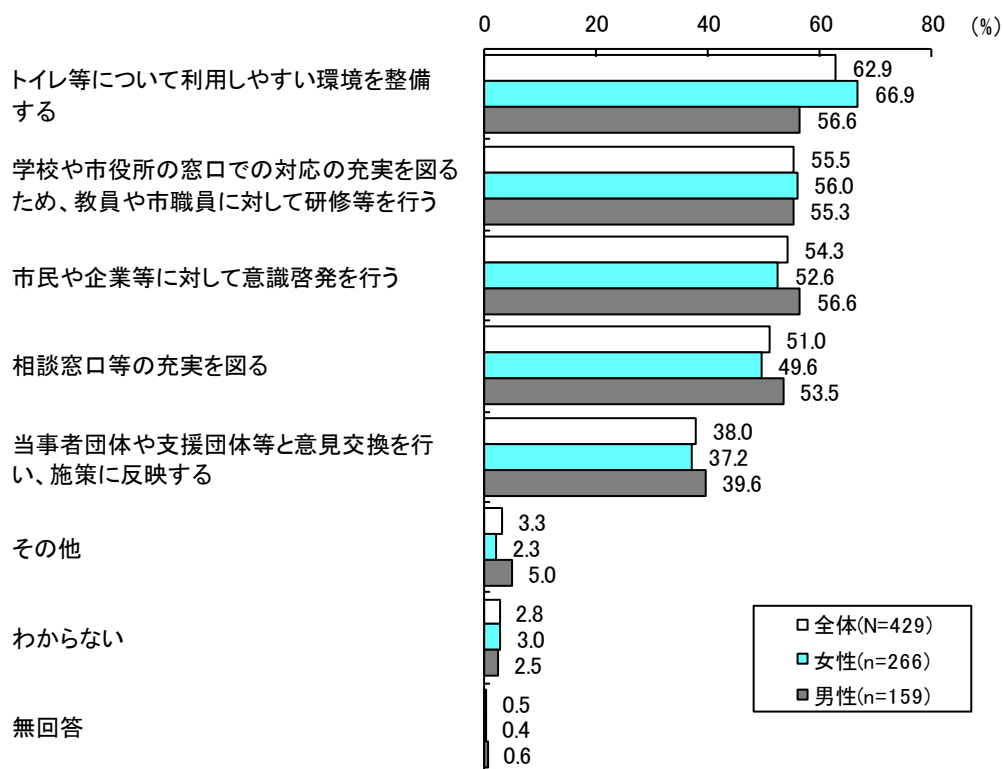
問24-1 問24で「1 必要だと思う」と答えた方におたずねします。
性的マイノリティの方々が生活しやすくするために、あなたは、自治体の取り組みとしてどのような対策が必要だと思いますか。(いくつでも〇)

問24で、「必要だと思う」と回答した人に、性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策をたずねました。

全体では、「トイレ等について利用しやすい環境を整備する(62.9%)」が最も多く、「学校や市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等を行う(55.5%)」、「市民や企業等に対して意識啓発を行う(54.3%)」続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、女性は「トイレ等について利用しやすい環境を整備する(女性：66.9%、男性：56.6%)」で男性を10.3ポイント上回っています。(図表7-2-①)

図表7-2-① 性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策
(全体、性別：複数回答)
<必要だと思う人>



性・年代別にみると、女性は20歳代から70歳代で「トイレ等について利用しやすい環境を整備する」が最も多くなっています。70歳代は「学校や市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等を行う」も同率で最も多くなっています。男性は30歳代、40歳代で「トイレ等について利用しやすい環境を整備する」、50歳代は「市民や企業等に対して意識啓発を行う」、60歳代は「相談窓口等の充実を図る」が最も多くなっています。(図表7-2-②)

図表7-2-② 性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策
(全体、性・年代別：複数回答)
<必要だと思う人>

		環境を 整備す る	学校や 市役所 の窓口 での対 応の充 実を図 るため 、教員 や市職 員の研 修等を行 う	市民や 企業等 に対し て意識 啓発を 行う	相談 窓口等 の充実 を図る	当事者 団体や 支援団 体等と 意見交 換を行 い、施 策に反 映する	その他	わから ない	無回 答	
全 体 (n= 429)		62.9	55.5	54.3	51.0	38.0	3.3	2.8	0.5	
性 ・ 年 代 別	女 性	10 歳 代 (n= 5)	80.0	60.0	80.0	60.0	60.0	0.0	20.0	0.0
		20 歳 代 (n= 27)	63.0	48.1	48.1	33.3	18.5	3.7	0.0	0.0
		30 歳 代 (n= 58)	69.0	48.3	58.6	41.4	25.9	1.7	5.2	0.0
		40 歳 代 (n= 51)	68.6	56.9	51.0	52.9	37.3	3.9	3.9	0.0
		50 歳 代 (n= 52)	65.4	55.8	53.8	51.9	42.3	1.9	3.8	0.0
		60 歳 代 (n= 41)	70.7	65.9	53.7	51.2	53.7	2.4	0.0	0.0
		70 歳 代 (n= 22)	68.2	68.2	31.8	63.6	40.9	0.0	0.0	4.5
		80 歳 代 以上 (n= 9)	33.3	44.4	55.6	77.8	33.3	0.0	0.0	0.0
男 性	10 歳 代 (n= 4)	0.0	0.0	50.0	25.0	75.0	25.0	0.0	0.0	
	20 歳 代 (n= 15)	53.3	53.3	73.3	46.7	13.3	6.7	6.7	0.0	
	30 歳 代 (n= 28)	75.0	60.7	39.3	50.0	42.9	3.6	0.0	0.0	
	40 歳 代 (n= 34)	70.6	58.8	58.8	50.0	47.1	8.8	0.0	2.9	
	50 歳 代 (n= 30)	56.7	53.3	66.7	46.7	26.7	3.3	0.0	0.0	
	60 歳 代 (n= 27)	44.4	51.9	55.6	66.7	51.9	0.0	0.0	0.0	
	70 歳 代 (n= 14)	50.0	78.6	71.4	71.4	50.0	7.1	0.0	0.0	
	80 歳 代 以上 (n= 7)	14.3	28.6	14.3	57.1	14.3	0.0	42.9	0.0	

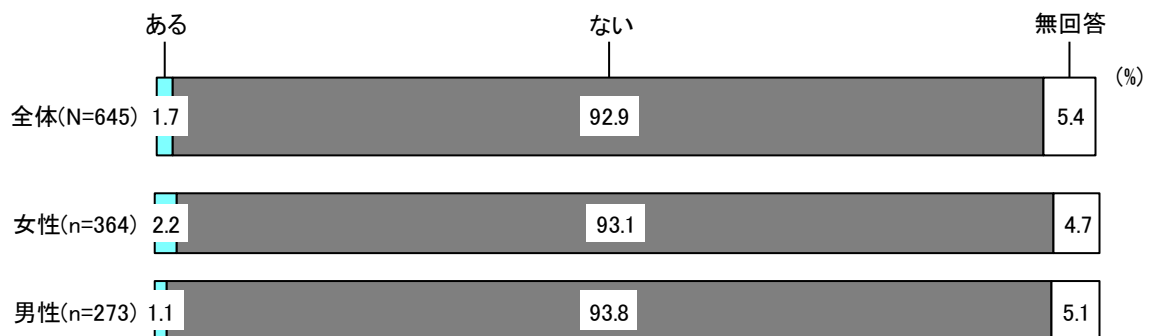
7-3 自分の性的指向や性自認に悩んだ経験

問25 あなたは、今まで自分の性的指向や性自認に悩んだことはありますか。(1つに○)

全体では、「ある」が1.7%、「ない」が92.9%となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、「ある」は、女性は2.2%、男性は1.1%、「ない」は、女性は93.1%、男性は93.8%となっています。(図表7-3-①)

図表7-3-① 自分の性的指向や性自認に悩んだ経験(全体、性別)



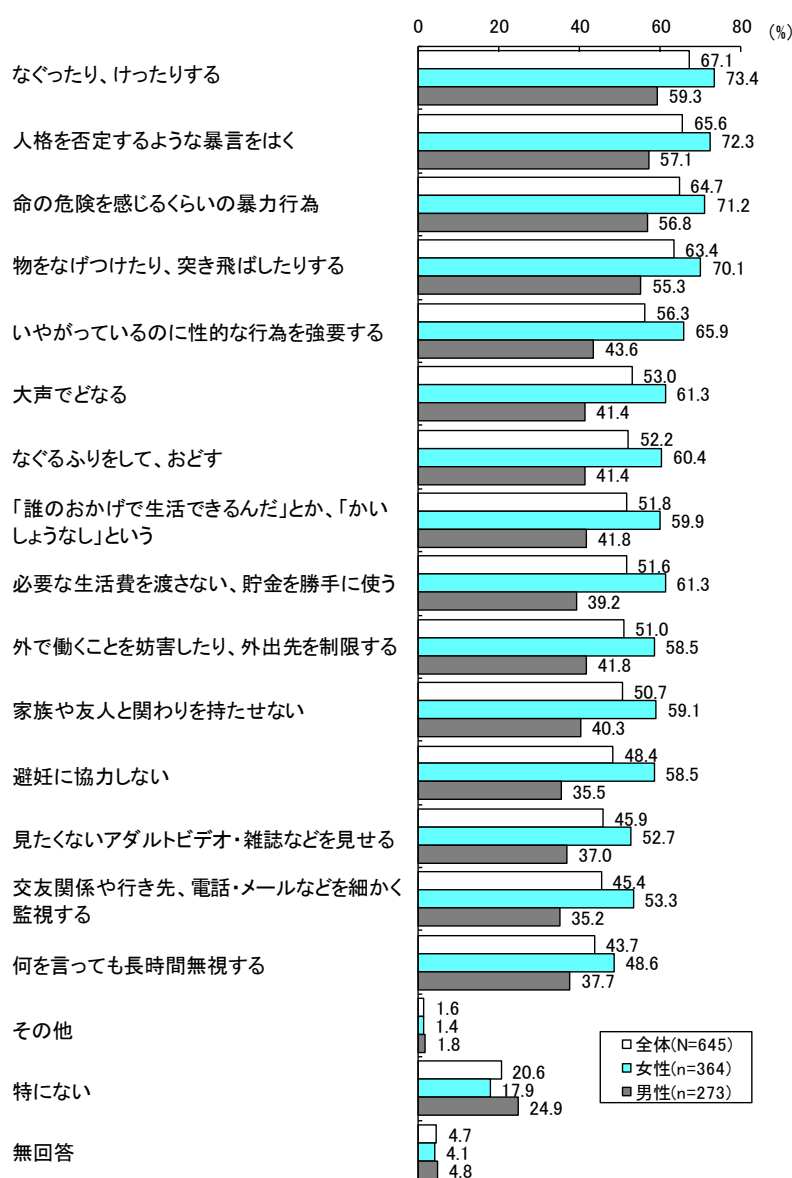
7-4 配偶者等からの暴力だと思ふもの

問 26 あなたが、パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力だと思ふものはどれですか。（いくつでも○）

全体では、「なぐったり、けったりする(67.1%)」が最も多く、「人格を否定するような暴言をはく(65.6%)」、「命の危険を感じるくらいの暴力行為(64.7%)」、「物をなげついたり、突き飛ばしたりする(63.4%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに上位3項目は全体と同じですが、男女ともに僅差で「物をなげついたり、突き飛ばしたりする(女性：70.1%、男性：55.3%)」が続いています。また、すべての項目で女性は男性を10ポイント～20ポイント程度上回っており、とくに「避妊に協力しない(女性:58.5%、男性：35.5%)」と「いやがっているのに性的な行為を強要する(女性：65.9%、男性：43.6%)」、「必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う(女性：61.3%、男性：39.2%)」で男性をそれぞれ23.0ポイント、22.3ポイント、22.1ポイント上回っています。(図表7-4-①)

図表7-4-① 配偶者等からの暴力だと思ふもの（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、女性は20歳代、30歳代で「その他」と「特になし」をのぞくすべての項目で全体を10ポイント以上上回っており、40歳代、50歳代でも多くの項目で全体を10ポイント以上上回っています。70歳代、80歳代以上では、「その他」と「特になし」をのぞくすべての項目で全体を10ポイント以上下回っています。男性は20歳代で多くの項目で全体を10ポイント以上上回っていますが、60歳代以上は「特になし」が3割を超えており、特に70歳代で5割台となっています。また、30歳代は「人格を否定するような暴言をばく」、「避妊に協力しない」、「見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せる」、40歳代は「何を言っても長時間無視する」が全体を10ポイント以上上回っています。(図表7-4-②)

図表7-4-② 配偶者等からの暴力だと思ふもの(全体、性・年代別：複数回答)

		なぐったり、けつたりする	人格を否定するような暴言をばく	命の危険を感じるくらいに暴力行使する	物をなげつけたり、突き飛ばしたりする	強要する	いやがっているのに性的な行為を強要する	大声でどなる	なぐるふりをして、おどす	「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」という勝手に使う	必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う	外で働くことを妨害したり、外出先を制限する	家族や友人と関わりを持たせない	避妊に協力しない	見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せる	交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	何を言っても長時間無視する	その他	特になし	無回答
全体 (N= 645)		67.1	65.6	64.7	63.4	56.3	53.0	52.2	51.8	51.6	51.0	50.7	48.4	45.9	45.4	43.7	1.6	20.6	4.7	
女性	10歳代 (n= 6)	83.3	83.3	83.3	83.3	83.3	83.3	83.3	83.3	66.7	83.3	83.3	83.3	83.3	83.3	50.0	0.0	16.7	0.0	
	20歳代 (n= 35)	94.3	88.6	94.3	85.7	82.9	80.0	80.0	82.9	71.4	88.6	74.3	80.0	62.9	60.0	60.0	0.0	5.7	0.0	
	30歳代 (n= 66)	89.4	89.4	86.4	89.4	84.8	75.8	83.3	78.8	72.7	72.7	72.7	80.3	71.2	62.1	66.7	0.0	7.6	0.0	
	40歳代 (n= 71)	73.2	71.8	76.1	74.6	71.8	63.4	63.4	59.2	67.6	57.7	64.8	63.4	50.7	52.1	53.5	2.8	15.5	1.4	
	50歳代 (n= 68)	77.9	79.4	72.1	72.1	67.6	63.2	60.3	66.2	64.7	61.8	58.8	58.8	58.8	60.3	54.4	2.9	16.2	1.5	
	60歳代 (n= 53)	66.0	62.3	62.3	60.4	52.8	62.3	54.7	52.8	54.7	50.9	49.1	50.9	45.3	50.9	37.7	1.9	28.3	1.9	
	70歳代 (n= 44)	52.3	52.3	47.7	45.5	43.2	31.8	27.3	31.8	40.9	27.3	38.6	25.0	27.3	31.8	22.7	0.0	29.5	15.9	
	80歳代以上 (n= 20)	30.0	30.0	30.0	30.0	25.0	20.0	20.0	10.0	30.0	30.0	30.0	15.0	25.0	35.0	15.0	0.0	35.0	25.0	
男性	10歳代 (n= 4)	100.0	75.0	100.0	100.0	100.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	
	20歳代 (n= 24)	83.3	75.0	79.2	79.2	70.8	66.7	66.7	70.8	62.5	75.0	70.8	66.7	54.2	58.3	45.8	8.3	4.2	0.0	
	30歳代 (n= 47)	74.5	76.6	70.2	68.1	59.6	59.6	51.1	61.7	57.4	59.6	57.4	59.6	57.4	51.1	53.2	0.0	17.0	0.0	
	40歳代 (n= 48)	68.8	70.8	68.8	62.5	54.2	52.1	54.2	52.1	56.3	50.0	54.2	45.8	47.9	47.9	56.3	4.2	18.8	2.1	
	50歳代 (n= 52)	65.4	57.7	65.4	59.6	44.2	42.3	42.3	44.2	34.6	40.4	32.7	30.8	34.6	30.8	36.5	0.0	19.2	0.0	
	60歳代 (n= 45)	46.7	46.7	40.0	48.9	26.7	22.2	28.9	24.4	22.2	26.7	28.9	17.8	28.9	24.4	22.2	2.2	31.1	11.1	
	70歳代 (n= 30)	26.7	16.7	23.3	23.3	13.3	20.0	16.7	10.0	13.3	13.3	10.0	10.0	10.0	10.0	13.3	0.0	56.7	13.3	
	80歳代以上 (n= 23)	30.4	39.1	30.4	26.1	21.7	13.0	17.4	13.0	13.0	17.4	17.4	4.3	4.3	8.7	17.4	0.0	39.1	13.0	

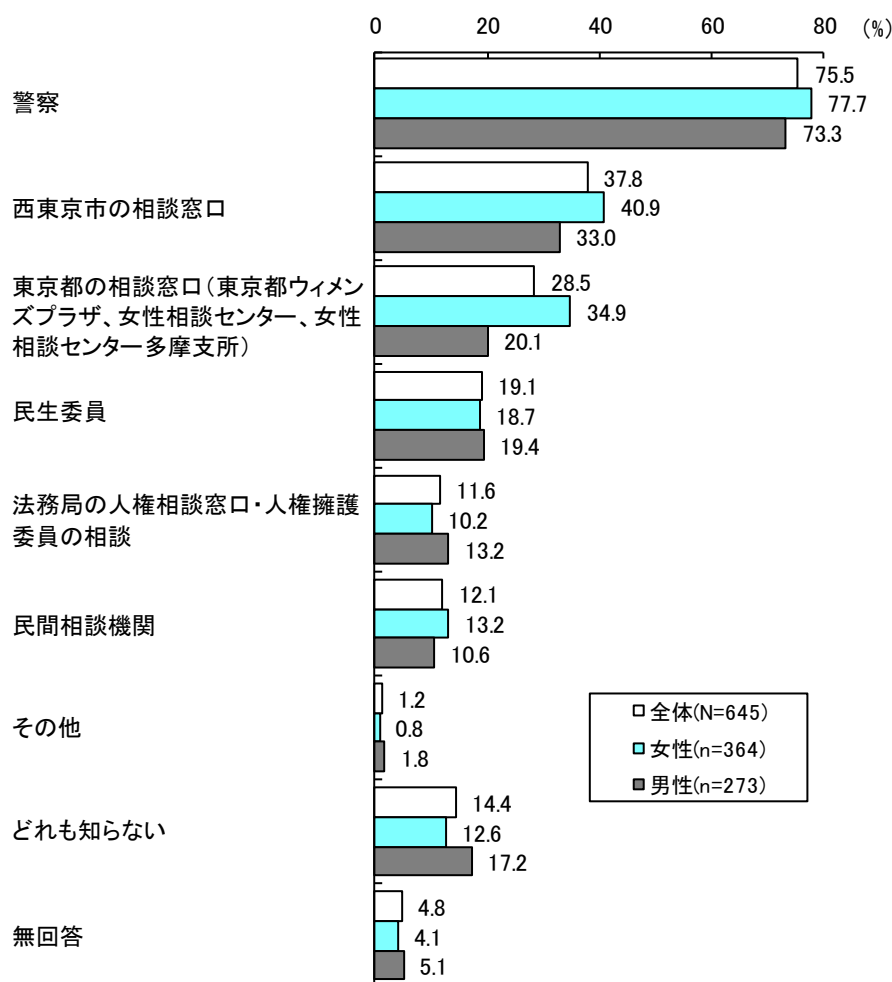
7-5 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度

問27 パートナー（配偶者や交際相手など）から暴力を受けた場合、相談ができる機関があります。あなたは、下記の相談機関を知っていますか。（いくつでも〇）

全体では、「警察(75.5%)」が最も多く、「西東京市の相談窓口(37.8%)」、「東京都の相談窓口（東京都ウィメンズプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所）(28.5%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに全体の上位3項目と同じですが、男性は僅差で「民生委員(19.4%)」が続いています。また、女性は「東京都の相談窓口（東京都ウィメンズプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所）(女性：34.9%、男性：20.1%)」で、男性を14.8ポイント上回っています。「どれも知らない」は、女性は12.6%、男性は17.2%となっています。（図表7-5-①）

図表7-5-① 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、女性はすべての年代で「警察」が最も多くなっており、とくに20歳代、30歳代、50歳代は8割を超えて多くなっています。50歳代、60歳代では「東京都の相談窓口（東京都ウィメンズプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所）」が4割を超え、全体を10から15ポイント程度上回っています。男性はすべての年代で「警察」が最も多くなっており、とくに20歳代は9割を超えて多くなっています。（図表7-5-②）

図表7-5-② 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度（全体、性・年代別：複数回答）

		(%)									
		警察	西 東 京 市 の 相 談 窓 口	性 都 東 京 の 相 談 窓 口 （ 東 京 都 ウ ィ メ ン ズ プ ラ ザ 、 女 性 相 談 セ ン タ ー 、 女 性 相 談 セ ン タ ー 多 摩 支 所 ）	民 生 委 員	民 間 相 談 機 関	法 務 局 の 人 権 相 談 窓 口 ・ 人 権 擁 護 委 員 の 相 談 窓 口	そ の 他	ど れ も 知 ら な い	無 回 答	
全 体 (N= 645)		75.5	37.8	28.5	19.1	12.1	11.6	1.2	14.4	4.8	
性 ・ 年 代 別	女 性	10 歳 代 (n= 6)	83.3	66.7	50.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	88.6	22.9	34.3	2.9	11.4	0.0	0.0	8.6	2.9
		30 歳 代 (n= 66)	84.8	36.4	28.8	10.6	10.6	10.6	1.5	9.1	1.5
		40 歳 代 (n= 71)	74.6	43.7	36.6	16.9	16.9	5.6	0.0	16.9	2.8
		50 歳 代 (n= 68)	80.9	47.1	41.2	26.5	20.6	14.7	1.5	11.8	0.0
		60 歳 代 (n= 53)	79.2	43.4	43.4	28.3	11.3	13.2	1.9	13.2	5.7
		70 歳 代 (n= 44)	63.6	47.7	29.5	25.0	4.5	13.6	0.0	13.6	9.1
		80 歳 代 以上 (n= 20)	60.0	25.0	10.0	20.0	5.0	10.0	0.0	20.0	20.0
男 性	10 歳 代 (n= 4)	100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20 歳 代 (n= 24)	91.7	37.5	20.8	12.5	16.7	4.2	0.0	8.3	0.0	
	30 歳 代 (n= 47)	74.5	34.0	21.3	12.8	14.9	14.9	2.1	23.4	0.0	
	40 歳 代 (n= 48)	77.1	25.0	18.8	14.6	12.5	14.6	4.2	20.8	0.0	
	50 歳 代 (n= 52)	78.8	36.5	26.9	23.1	15.4	17.3	0.0	15.4	3.8	
	60 歳 代 (n= 45)	75.6	35.6	22.2	28.9	6.7	15.6	2.2	4.4	13.3	
	70 歳 代 (n= 30)	63.3	36.7	20.0	16.7	0.0	10.0	3.3	23.3	6.7	
	80 歳 代 以上 (n= 23)	34.8	30.4	4.3	30.4	0.0	8.7	0.0	30.4	17.4	

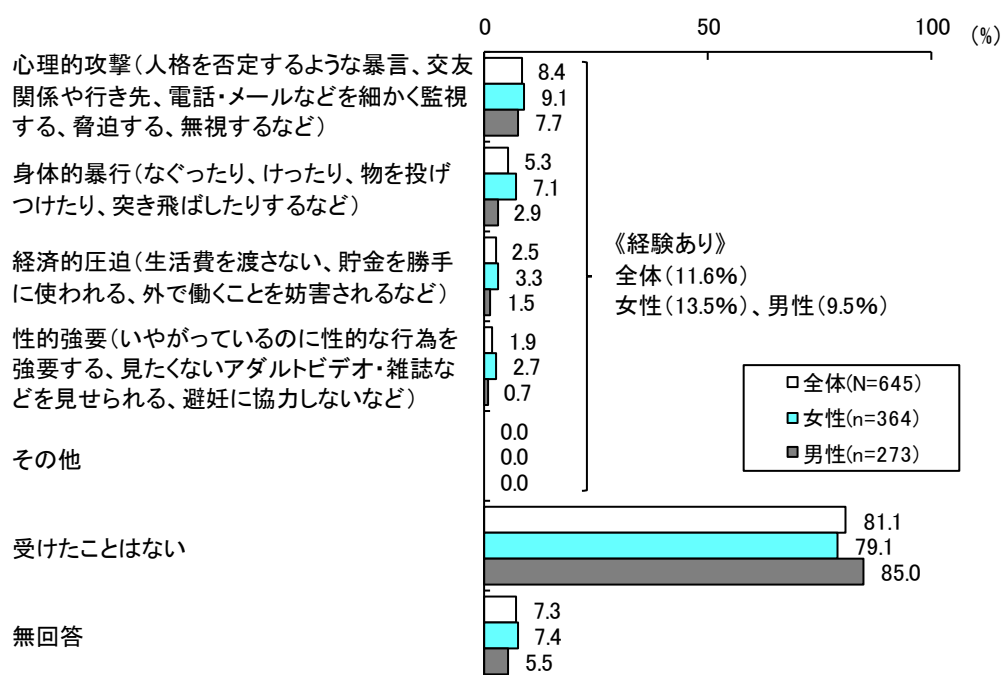
7-6 配偶者等から暴力を受けた経験

問28 配偶者や交際相手などの男女間で起こる暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）と言います。あなたは、配偶者や交際相手などから次のような暴力を受けたことがありますか。（いくつでも〇）

全体では、暴力を受けた経験がある割合は、「心理的攻撃(8.4%、54人)」が最も多く、「身体的暴行(5.3%、34人)」、「経済的圧迫(2.5%、16人)」、「性的強要(1.9%、12人)」が続いています。「受けたことはない」は、81.1%となっています。（図表7-6-①）

性別にみると、男女ともに全体の上位3項目と同じになっており、配偶者等から暴力を受けた《経験あり》は、女性は13.5%、男性は9.5%となっています。「受けたことはない」は、女性は79.1%、男性は85.0%となっています。

図表7-6-① 配偶者等から暴力を受けた経験（全体、性別：複数回答）



※《経験あり》は、「受けたことはない」と「無回答」を除いています。

性別にみると、暴力を受けた経験がある割合は、女性は20歳代、50歳代で「心理的攻撃」が、40歳代で「身体的暴行」が1割を超えています。男性は40歳代で「心理的攻撃」で1割半ばとなっています。(図表7-6-②)

図表7-6-② 配偶者等から暴力を受けた経験(全体、性・年代別:複数回答)

		すく先よ心理的 る監電う理的 視話な攻 すす・言撃 る、メー(人 脅ル友格を 迫すなを否 る、を定 無細行す 視かき	どりけ身)つた体的 突き暴 飛び行 ばし(な したりぐ つたり つけつ けた	ど外い経)で、貯的 働金圧 くこを迫 とを勝(生 を手に活 妨害に費 されるを渡 る、さ	協誌たに性的 力なく性的 しなな強 ないア行要 いせらト強 などる、ビ)見せられる、オ 避妊・雑	その他	受けたことはない	無回答	
全	体 (N= 645)	8.4	5.3	2.5	1.9	0.0	81.1	7.3	
性・年代別	女	10歳代 (n= 6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20歳代 (n= 35)	11.4	2.9	0.0	2.9	0.0	82.9	2.9
		30歳代 (n= 66)	7.6	6.1	3.0	1.5	0.0	87.9	1.5
		40歳代 (n= 71)	7.0	11.3	1.4	4.2	0.0	80.3	4.2
		50歳代 (n= 68)	16.2	7.4	5.9	2.9	0.0	79.4	4.4
		60歳代 (n= 53)	7.5	7.5	3.8	1.9	0.0	79.2	9.4
		70歳代 (n= 44)	6.8	6.8	6.8	2.3	0.0	61.4	20.5
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	男	10歳代 (n= 4)	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	8.3	0.0	0.0	4.2	0.0	91.7	0.0
		30歳代 (n= 47)	8.5	4.3	0.0	0.0	0.0	91.5	0.0
		40歳代 (n= 48)	14.6	4.2	2.1	2.1	0.0	79.2	2.1
		50歳代 (n= 52)	7.7	1.9	1.9	0.0	0.0	90.4	0.0
		60歳代 (n= 45)	4.4	0.0	2.2	0.0	0.0	88.9	6.7
70歳代 (n= 30)		6.7	3.3	0.0	0.0	0.0	76.7	16.7	
80歳代以上 (n= 23)		0.0	4.3	4.3	0.0	0.0	69.6	26.1	

7-7 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験

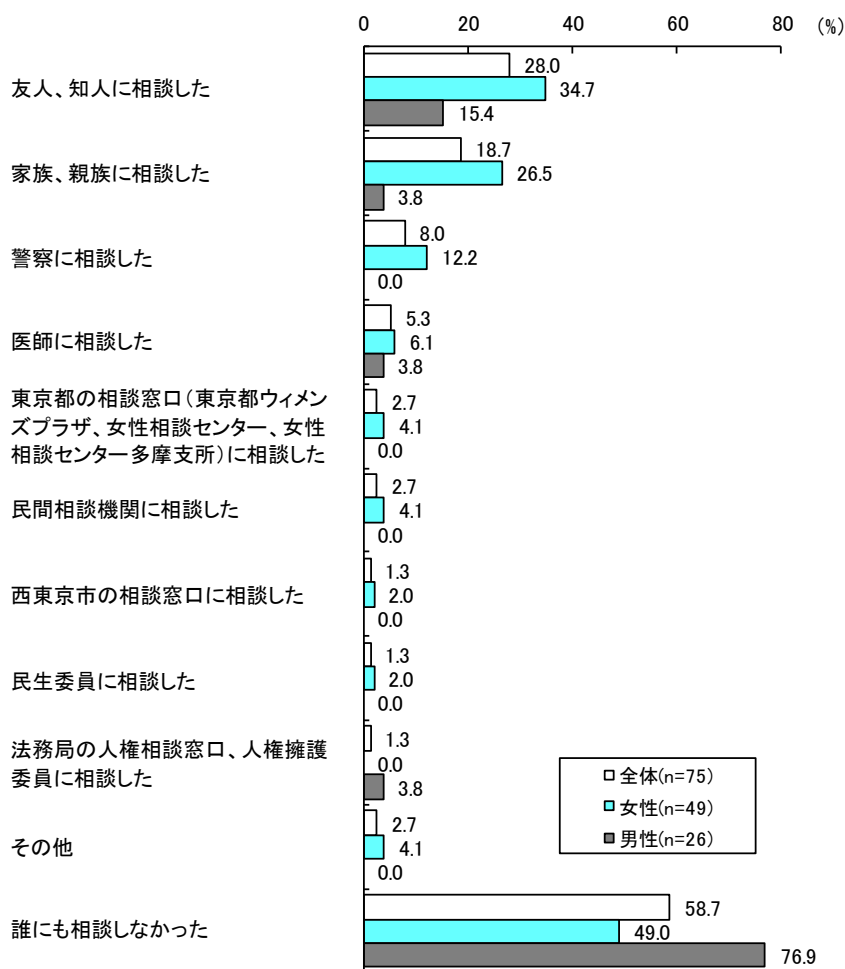
問28-1 問28で「1」～「5」に1つでも○をつけた方におたずねします。
あなたが受けた暴力について、相談した方はどなたですか。(いくつでも○)

問28のいずれかの項目で暴力を受けたことがあると回答した人に、相談先をたずねました。全体では、「誰にも相談しなかった(58.7%)」が最も多くなっています。相談した人の相談先は「友人、知人に相談した(28.0%)」が最も多く、「家族、親族に相談した(18.7%)」、「警察に相談した(8.0%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「誰にも相談しなかった(女性：49.0%、男性：76.9%)」が最も多くなっています。相談した人の相談先は、男女ともに「友人、知人に相談した(女性：34.7%、男性15.4%)」が最も多く、女性は「家族、親族に相談した(26.5%)」、「警察に相談した(12.2%)」が続いています。

男女の違いをみると、「誰にも相談していなかった」は、全体と比べ女性は9.7ポイント下回り、男性は18.2ポイント上回っており、男女間で差が大きくなっています。(図表7-7-①)

図表7-7-① 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験 (全体、性別：複数回答)
＜暴力を受けた経験がある人＞



7-8 誰にも相談しなかった理由

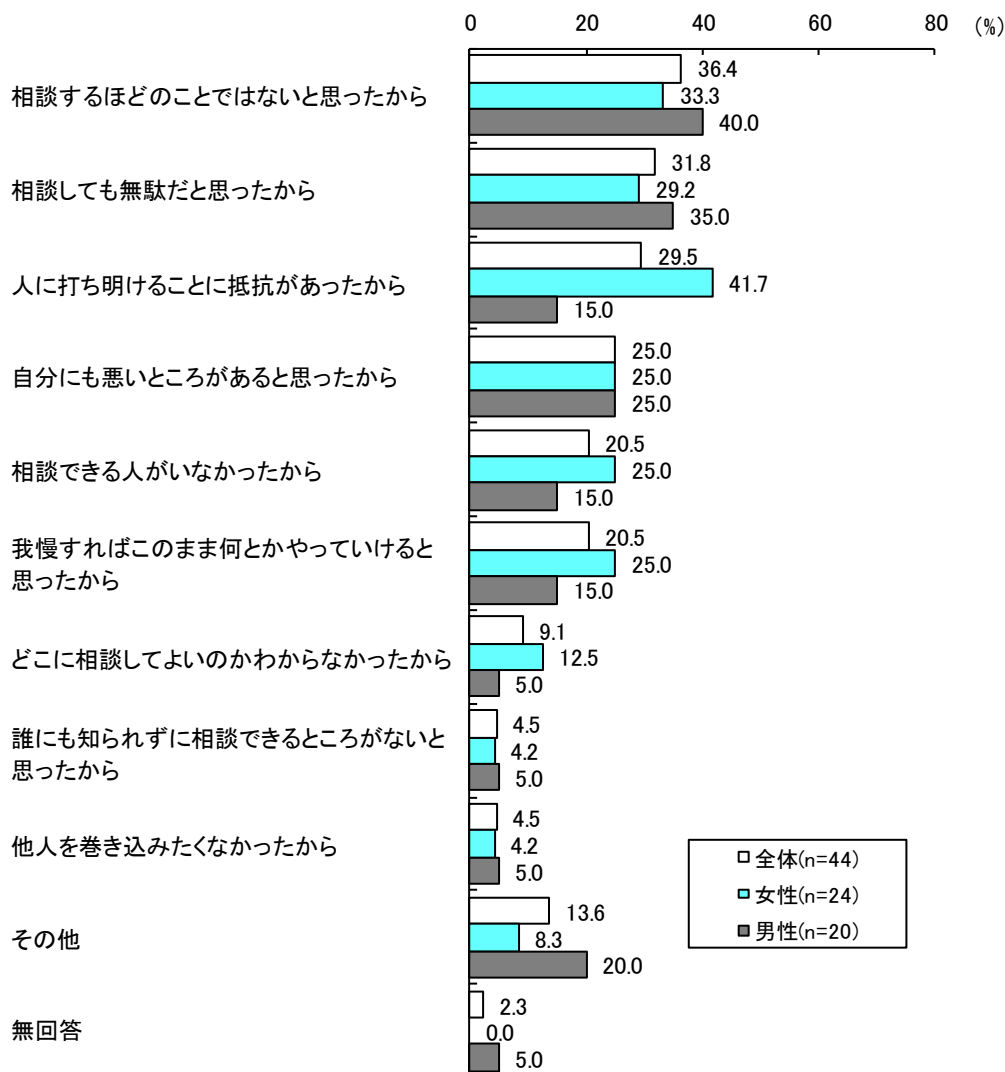
問28-2 問28-1で「11 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
誰にも相談しなかった理由は何ですか。(いくつでも〇)

問28-1で、「誰にも相談しなかった」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから(36.4%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから(31.8%)」、「人に打ち明けることに抵抗があったから(29.5%)」が続いています。

性別にみると、女性は順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、女性は「人に打ち明けることに抵抗があったから(女性：41.7%、男性：15.0%)」で男性を26.7ポイント上回っています。男性の上位2位は全体と同じですが、3位に「自分にも悪いところがあると思ったから(25.0%)」が続いています。(図表7-8-①)

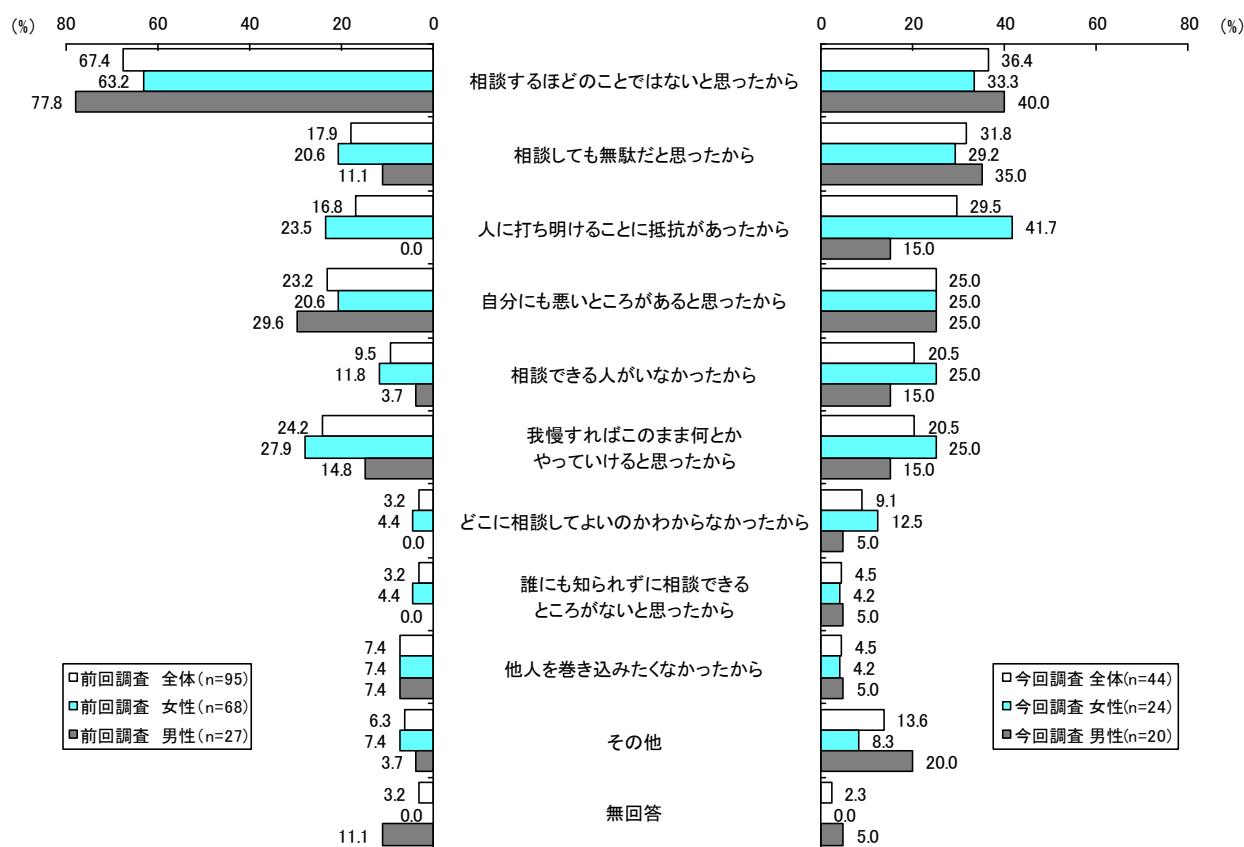
図表7-8-① 誰にも相談しなかった理由(全体、性別：複数回答)
＜誰にも相談しなかった人＞



『前回調査(平成 24 年調査)との比較』

誰にも相談しなかった理由について、今回調査と前回調査を比較すると、前回調査を「相談するほどのことではないと思ったから」が女性は 29.9 ポイント、男性は 37.8 ポイント下回り、「相談しても無駄だと思ったから」が女性は 8.6 ポイント、男性は 23.9 ポイント、「相談できる人がいなかったから」が女性は 13.2 ポイント、男性は 11.3 ポイント上回っています。(図表 7-8-②)

図表 7-8-② 誰にも相談しなかった理由 (全体、性別：複数回答)
 <誰にも相談しなかった人>
 【前回比較】



※前回調査は対象者の年齢が 18 歳以上 70 歳未満、今回調査は対象者の年齢が異なります。

8 男女平等参画を進めるために必要な施策

8-1 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度

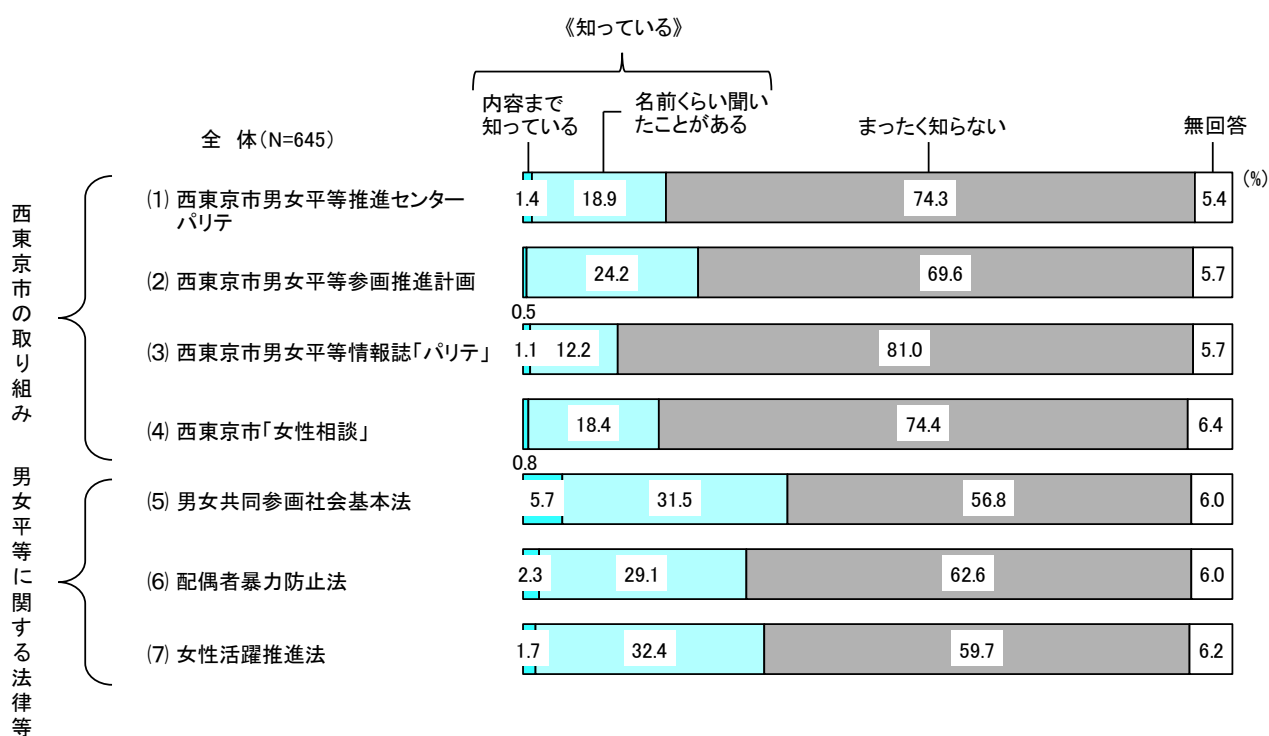
問29 あなたは、以下のことがらを知っていますか。(1)から(7)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに〇)

ここでは、「内容まで知っている」と「名前くらい聞いたことがある」の合計を《知っている》としています。

西東京市の取り組みに関しては、《知っている》は、『西東京市男女平等推進センター パリテ』は20.3%、『西東京市男女平等参画推進計画』は24.7%、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』は13.3%、『西東京市「女性相談」』は19.2%となっています。

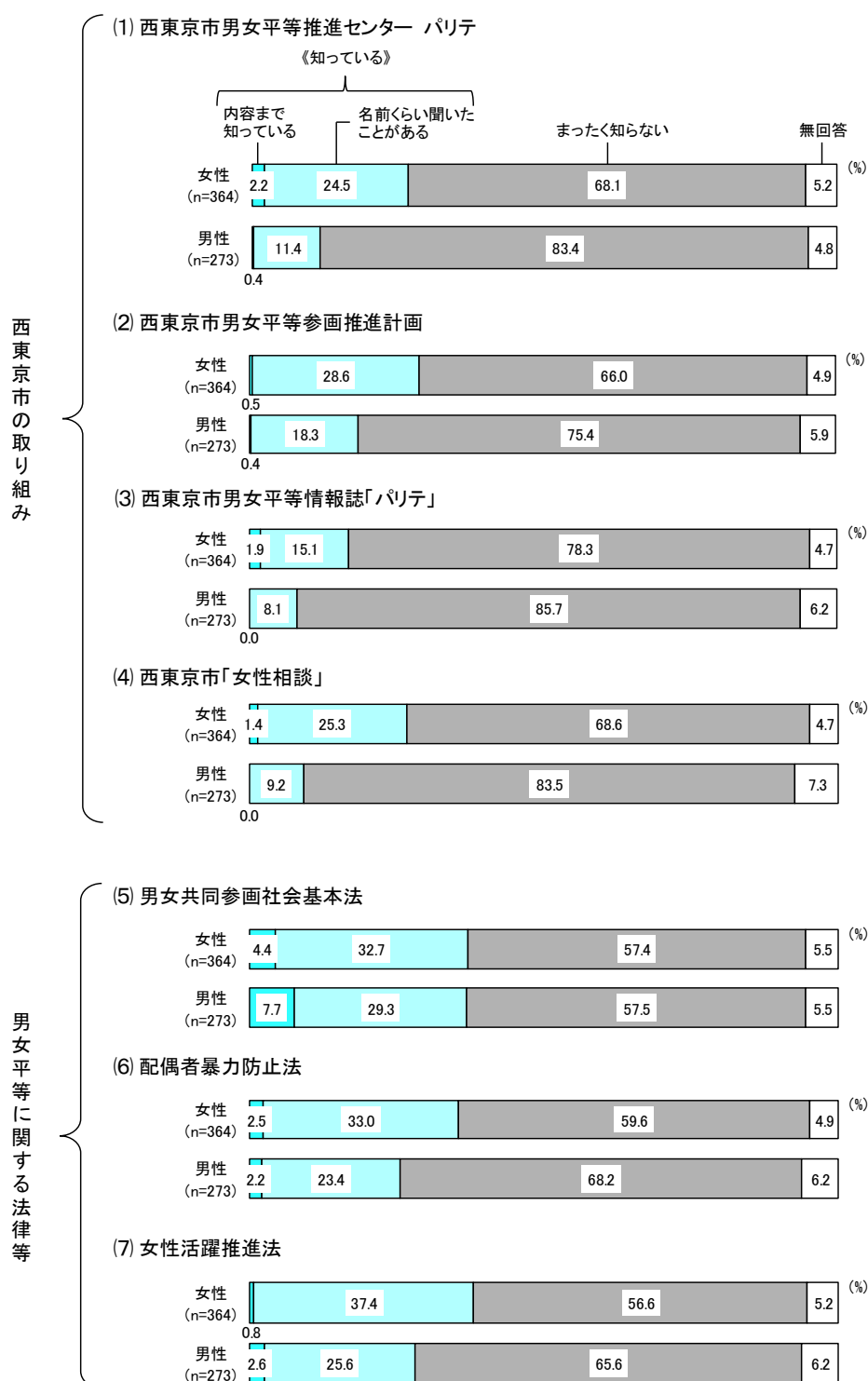
男女平等に関する法律等に関して《知っている》は、『男女共同参画社会基本法』は37.2%、『配偶者暴力防止法』は31.4%、『女性活躍推進法』は34.1%となっています。(図表8-1-①)

図表8-1-① 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度 (全体)



性別にみると、西東京市の取り組みに関して《知っている》は、すべての項目で女性が男性よりも高くなっており、『西東京市男女平等推進センター パリテ(女性：26.7%、男性：11.8%)』、『西東京市男女平等参画推進計画(女性：29.1%、男性：18.7%)』、『西東京市「女性相談」(女性：26.7%、男性：9.2%)』は10から15ポイント以上上回っています。男女平等に関する法律等に関して《知っている》は、女性は男性を『女性活躍推進法(女性：38.2%、男性：28.2%)』、『配偶者暴力防止法(女性：35.5%、男性：25.6%)』で10ポイント程度上回っています。(図表8-1-②)

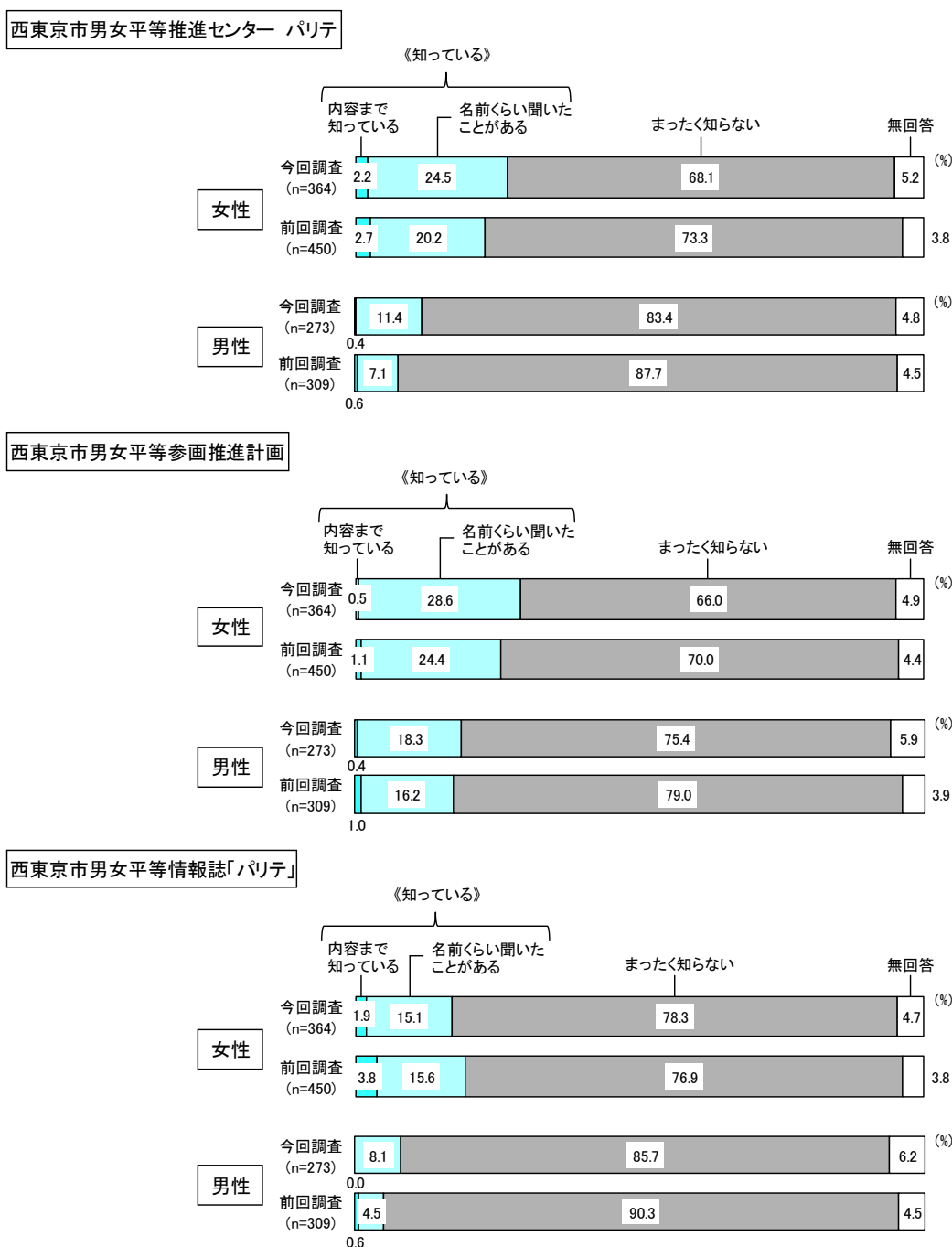
図表8-1-② 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度(性別)



『前回調査(平成 24 年調査)との比較』

『西東京市男女平等推進センター パリテ』、『西東京市男女平等参画推進計画』、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』、『西東京市「女性相談」』、『男女共同参画基本法』、『配偶者暴力防止法』の6項目の認知度について前回調査と比較すると、今回調査は『西東京市男女平等推進センター パリテ』、『西東京市男女平等参画推進計画』の2項目で女性と男性の《知っている》の割合が前回調査よりそれぞれ高くなっています。(図表8-1-③)

図表8-1-③ 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度(性別)
【前回比較】

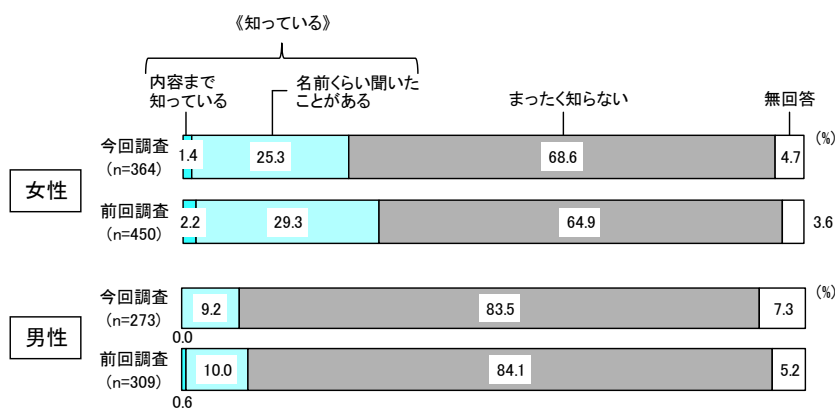


※前回調査の結果は、対象者の年齢が18歳以上70歳未満となっており、今回調査と対象者の年齢が異なります。

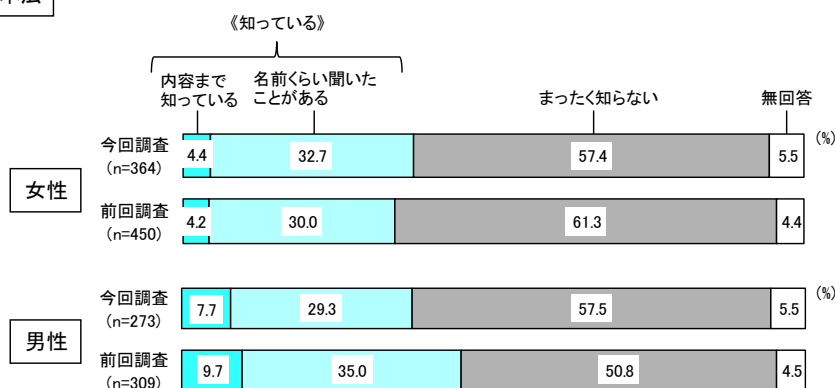
『前回調査(平成 24 年調査)との比較』(つづき)

図表 8-1-③ 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度(性別)
【前回比較】

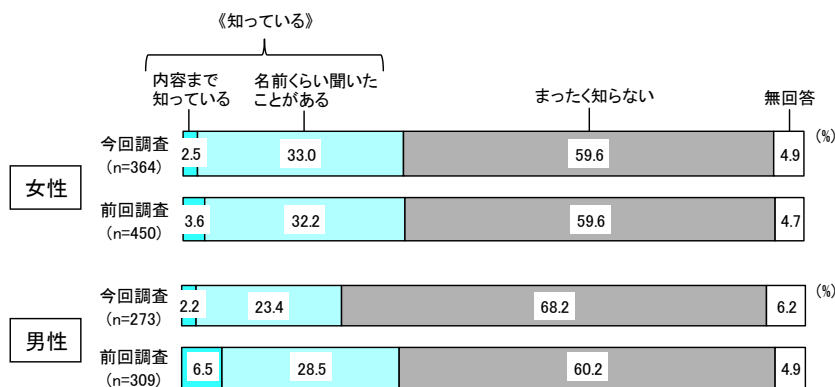
西東京市「女性相談」



男女共同参画社会基本法



配偶者暴力防止法



西東京市の取り組みに関する4つの項目について性・年代別にみると、『西東京市男女平等推進センター パリテ』は、女性は30歳代以上で《知っている》が2割を超えており、とくに40歳代、70歳代で3割を超えています。男性は30歳代と60歳代以上で《知っている》が1割を超えており、とくに70歳代で2割台となっていますが、20歳代、40歳代、50歳代で《知っている》が1割未満となっています。

『西東京市男女参画推進計画』は、女性は20歳代から70歳代で《知っている》が2割を超えており、とくに70歳代で3割台となっています。男性は30歳代から50歳代、80歳代以上で《知っている》が1割台、60歳代、70歳代で2割台、20歳代で3割台となっています。

『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』は、女性は40歳代から70歳代で《知っている》が2割台であり、とくに70歳代で2割半ばとなっています。男性は20歳代から60歳代で「まったく知らない」が8割を超えており、とくに20歳代で100.0%となっています。

『西東京市「女性相談」』は、女性は50歳代から70歳代で《知っている》が3割を超え、全体を10から15ポイント以上上回っています。男性は年代があがるにつれ「まったく知らない」の割合が低くなっていますが、20歳代から40歳代で「まったく知らない」が9割を超えており、とくに20歳代で100.0%となっています。（図表8-1-④）

図表8-1-④ 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度（全体、性・年代別）

西東京市の取り組み

(1) 西東京市男女平等推進センター パリテ

(2) 西東京市男女平等参画推進計画

		西東京市男女平等推進センター パリテ (%)						西東京市男女平等参画推進計画 (%)						
		い 内容 まで 知 つ て	た 名 前 と く ら あ い 聞 い	い ま つ た く 知 ら な	無 回 答	再 掲 る		い 内 容 まで 知 つ て	た 名 前 と く ら あ い 聞 い	い ま つ た く 知 ら な	無 回 答	再 掲 る		
						《 知 つ て い	な ま つ た く 知 ら					《 知 つ て い	な ま つ た く 知 ら	
全 体 (N= 645)		1.4	18.9	74.3	5.4	20.3	74.3	0.5	24.2	69.6	5.7	24.7	69.6	
性 ・ 年 代 別	女 性	10 歳代 (n= 6)	0.0	16.7	83.3	0.0	16.7	83.3	0.0	16.7	83.3	0.0	16.7	83.3
		20 歳代 (n= 35)	2.9	8.6	85.6	2.9	11.5	85.6	0.0	28.6	68.5	2.9	28.6	68.5
		30 歳代 (n= 66)	0.0	28.8	71.2	0.0	28.8	71.2	0.0	25.8	74.2	0.0	25.8	74.2
		40 歳代 (n= 71)	2.8	28.2	67.6	1.4	31.0	67.6	0.0	29.6	67.6	2.8	29.6	67.6
		50 歳代 (n= 68)	1.5	25.0	70.6	2.9	26.5	70.6	0.0	29.4	67.7	2.9	29.4	67.7
		60 歳代 (n= 53)	3.8	24.5	62.3	9.4	28.3	62.3	0.0	32.1	60.4	7.5	32.1	60.4
		70 歳代 (n= 44)	4.5	27.3	52.3	15.9	31.8	52.3	11.4	34.1	50.0	11.4	38.6	50.0
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	20.0	65.0	15.0	20.0	65.0	20.0	15.0	65.0	20.0	15.0	65.0
性 ・ 年 代 別	男 性	10 歳代 (n= 4)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	25.0	75.0	0.0	25.0	75.0
		20 歳代 (n= 24)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	37.5	62.5	0.0	37.5	62.5
		30 歳代 (n= 47)	0.0	12.8	87.2	0.0	12.8	87.2	0.0	17.0	83.0	0.0	17.0	83.0
		40 歳代 (n= 48)	0.0	8.3	89.6	2.1	8.3	89.6	2.1	10.4	87.5	2.1	10.4	87.5
		50 歳代 (n= 52)	0.0	9.6	84.6	5.8	9.6	84.6	5.8	13.5	80.7	5.8	13.5	80.7
		60 歳代 (n= 45)	0.0	15.6	82.2	2.2	15.6	82.2	2.2	24.4	73.4	2.2	24.4	73.4
		70 歳代 (n= 30)	3.3	20.0	70.0	6.7	23.3	70.0	10.0	23.3	66.7	10.0	23.3	66.7
		80歳代以上 (n= 23)	0.0	13.0	60.9	26.1	13.0	60.9	34.8	8.7	52.2	34.8	13.0	52.2

(3) 西東京市男女平等情報誌「パリテ」

(4) 西東京市「女性相談」

		西東京市男女平等情報誌「パリテ」 (%)						西東京市「女性相談」 (%)						
		内容まで知って	名前くらい聞いて	まったく知らない	無回答	再掲 《知っている》	まったく知らない	内容まで知って	名前くらい聞いて	まったく知らない	無回答	再掲 《知っている》	まったく知らない	
全	体 (N= 645)	1.1	12.2	81.0	5.7	13.3	81.0	0.8	18.4	74.4	6.4	19.2	74.4	
性・年代別	女性	10 歳代 (n= 6)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	16.7	83.3	0.0	16.7	83.3
		20 歳代 (n= 35)	2.9	2.9	91.3	2.9	5.8	91.3	0.0	8.6	88.5	2.9	8.6	88.5
		30 歳代 (n= 66)	0.0	13.6	86.4	0.0	13.6	86.4	0.0	19.7	80.3	0.0	19.7	80.3
		40 歳代 (n= 71)	2.8	18.3	77.5	1.4	21.1	77.5	2.8	25.4	70.4	1.4	28.2	70.4
		50 歳代 (n= 68)	1.5	19.1	76.5	2.9	20.6	76.5	1.5	33.8	61.8	2.9	35.3	61.8
		60 歳代 (n= 53)	1.9	18.9	73.5	5.7	20.8	73.5	1.9	34.0	56.6	7.5	35.9	56.6
		70 歳代 (n= 44)	4.5	20.5	61.4	13.6	25.0	61.4	2.3	29.5	56.8	11.4	31.8	56.8
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	80.0	0.0	10.0	70.0	20.0	10.0	70.0
性・年代別	男性	10 歳代 (n= 4)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
		20 歳代 (n= 24)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
		30 歳代 (n= 47)	0.0	6.4	93.6	0.0	6.4	93.6	0.0	4.3	95.7	0.0	4.3	95.7
		40 歳代 (n= 48)	0.0	4.2	93.7	2.1	4.2	93.7	0.0	4.2	93.7	2.1	4.2	93.7
		50 歳代 (n= 52)	0.0	7.7	86.5	5.8	7.7	86.5	0.0	5.8	86.5	7.7	5.8	86.5
		60 歳代 (n= 45)	0.0	13.3	82.3	4.4	13.3	82.3	0.0	15.6	80.0	4.4	15.6	80.0
		70 歳代 (n= 30)	0.0	16.7	73.3	10.0	16.7	73.3	0.0	20.0	66.7	13.3	20.0	66.7
		80歳代以上 (n= 23)	0.0	8.7	56.5	34.8	8.7	56.5	0.0	21.7	39.2	39.1	21.7	39.2

男女平等に関する法律等に関する3つの項目について、性・年代別にみると、『男女共同参画社会基本法』は、女性は20歳代で《知っている》が6割、30歳代で4割台、40歳代から60歳代で3割台、70歳代で2割台、80歳代以上で1割半ばとなっています。男性は20歳代から70歳代で「まったく知らない」が5割を超えており、とくに40歳代で6割を超えています。

『配偶者暴力防止法』は、女性は40歳代、50歳代で《知っている》が4割を超え、全体を10ポイント以上上回っています。男性は20歳代から70歳代で「まったく知らない」が6割を超えており、とくに20歳代、40歳代、70歳代で7割を超えています。

『女性活躍推進法』は、女性は20歳代から60歳代で《知っている》が3割を超えており、とくに20歳代、30歳代、60歳代で4割を超えています。男性は20歳代から70歳代で「まったく知らない」が6割を超えており、とくに70歳代で7割半ばとなっています。

男女平等に関する法律等

(5) 男女共同参画社会基本法

(6) 配偶者暴力防止法

(%)

		内容まで知って	名前が聞いている	まったく知らない	無回答	再掲		
						《知っている》	《まったく知らない》	
全	体 (N= 645)	5.7	31.5	56.8	6.0	37.2	56.8	
性・年代別	女性	10 歳代 (n= 6)	50.0	16.7	33.3	0.0	66.7	33.3
		20 歳代 (n= 35)	25.7	34.3	37.1	2.9	60.0	37.1
		30 歳代 (n= 66)	3.0	39.4	57.6	0.0	42.4	57.6
		40 歳代 (n= 71)	0.0	31.0	67.6	1.4	31.0	67.6
		50 歳代 (n= 68)	1.5	35.3	58.8	4.4	36.8	58.8
		60 歳代 (n= 53)	0.0	37.7	56.6	5.7	37.7	56.6
		70 歳代 (n= 44)	2.3	25.0	54.5	18.2	27.3	54.5
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	15.0	65.0	20.0	15.0	65.0
	男性	10 歳代 (n= 4)	0.0	25.0	75.0	0.0	25.0	75.0
		20 歳代 (n= 24)	29.2	16.7	54.1	0.0	45.9	54.1
		30 歳代 (n= 47)	8.5	29.8	61.7	0.0	38.3	61.7
		40 歳代 (n= 48)	6.3	29.2	62.4	2.1	35.5	62.4
		50 歳代 (n= 52)	7.7	32.7	55.8	3.8	40.4	55.8
		60 歳代 (n= 45)	2.2	37.8	57.8	2.2	40.0	57.8
		70 歳代 (n= 30)	3.3	30.0	56.7	10.0	33.3	56.7
		80歳代以上 (n= 23)	4.3	17.4	43.5	34.8	21.7	43.5

(%)

		内容まで知って	名前が聞いている	まったく知らない	無回答	再掲		
						《知っている》	《まったく知らない》	
全	体 (N= 645)	2.3	29.1	62.6	6.0	31.4	62.6	
性・年代別	女性	10 歳代 (n= 6)	33.4	33.3	33.3	0.0	66.7	33.3
		20 歳代 (n= 35)	2.9	20.0	74.2	2.9	22.9	74.2
		30 歳代 (n= 66)	3.0	30.3	66.7	0.0	33.3	66.7
		40 歳代 (n= 71)	2.8	35.2	60.6	1.4	38.0	60.6
		50 歳代 (n= 68)	0.0	42.6	53.0	4.4	42.6	53.0
		60 歳代 (n= 53)	1.9	39.6	54.7	3.8	41.5	54.7
		70 歳代 (n= 44)	2.3	27.3	54.5	15.9	29.6	54.5
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	15.0	65.0	20.0	15.0	65.0
	男性	10 歳代 (n= 4)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
		20 歳代 (n= 24)	0.0	25.0	75.0	0.0	25.0	75.0
		30 歳代 (n= 47)	4.3	27.7	68.0	0.0	32.0	68.0
		40 歳代 (n= 48)	4.2	20.8	72.9	2.1	25.0	72.9
		50 歳代 (n= 52)	3.8	23.1	67.3	5.8	26.9	67.3
		60 歳代 (n= 45)	0.0	28.9	68.9	2.2	28.9	68.9
		70 歳代 (n= 30)	0.0	16.7	73.3	10.0	16.7	73.3
		80歳代以上 (n= 23)	0.0	21.7	39.2	39.1	21.7	39.2

(7) 女性活躍推進法

(%)

		内容まで知って	名前が聞いている	まったく知らない	無回答	再掲		
						《知っている》	《まったく知らない》	
全	体 (N= 645)	1.7	32.4	59.7	6.2	34.1	59.7	
性・年代別	女性	10 歳代 (n= 6)	0.0	83.3	16.7	0.0	83.3	16.7
		20 歳代 (n= 35)	5.7	40.0	51.4	2.9	45.7	51.4
		30 歳代 (n= 66)	1.5	40.9	57.6	0.0	42.4	57.6
		40 歳代 (n= 71)	0.0	35.2	63.4	1.4	35.2	63.4
		50 歳代 (n= 68)	0.0	38.2	58.9	2.9	38.2	58.9
		60 歳代 (n= 53)	0.0	43.4	49.1	7.5	43.4	49.1
		70 歳代 (n= 44)	0.0	29.5	54.6	15.9	29.5	54.6
		80歳代以上 (n= 20)	0.0	15.0	65.0	20.0	15.0	65.0
	男性	10 歳代 (n= 4)	25.0	25.0	50.0	0.0	50.0	50.0
		20 歳代 (n= 24)	4.2	33.3	62.5	0.0	37.5	62.5
		30 歳代 (n= 47)	2.1	29.8	68.1	0.0	31.9	68.1
		40 歳代 (n= 48)	6.3	29.2	62.4	2.1	35.5	62.4
		50 歳代 (n= 52)	1.9	23.1	69.2	5.8	25.0	69.2
		60 歳代 (n= 45)	0.0	28.9	68.9	2.2	28.9	68.9
		70 歳代 (n= 30)	0.0	13.3	76.7	10.0	13.3	76.7
		80歳代以上 (n= 23)	0.0	17.4	43.5	39.1	17.4	43.5

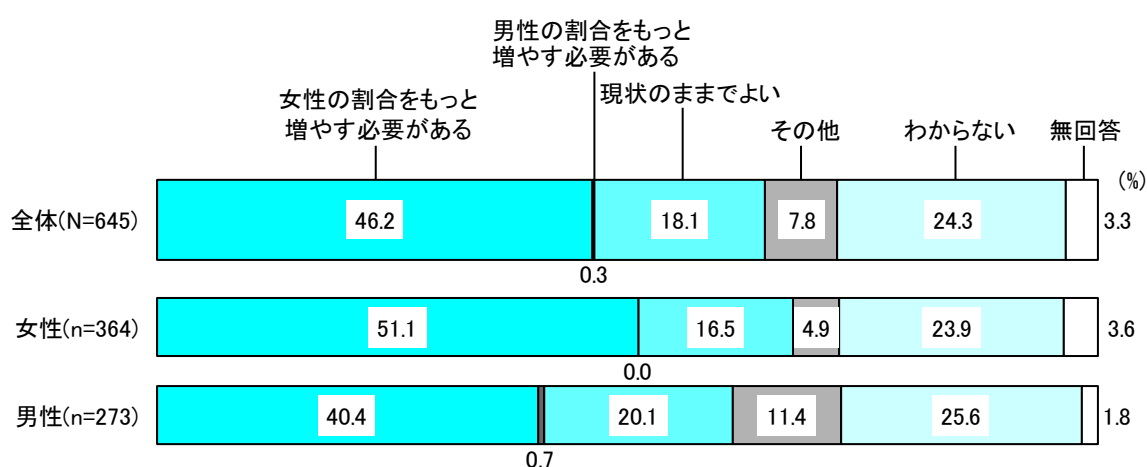
8-2 市の審議会と市議会における女性の割合への考え

問30 西東京市では、市の審議会における女性委員の割合は34.9%（平成29年4月1日現在）、市議会における女性議員の割合は25.9%（平成29年7月1日現在）となっています。
あなたはこの数字をどのように思いますか。（1つに〇）

全体では、「女性の割合をもっと増やす必要がある」が46.2%、「男性の割合をもっと増やす必要がある」が0.3%、「現状のままでよい」が18.1%となっています。

性別にみると、「女性の割合をもっと増やす必要がある（女性：51.1%、男性：40.4%）」が最も多く、女性は5割、男性は4割を超えています。（図表8-2-①）

図表8-2-① 市の審議会と市議会における女性の割合への考え（全体、性別）



性・年代別にみると、女性はすべての年代で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が最も多く、とくに60歳代と70歳代で6割から7割を超え、全体を15から25ポイント程度上回っています。男性の20歳代は「現状のままでよい」が3割程度で最も多くなっていますが、「その他」も3割程度となっています。具体的には〔女性、男性にかかわらず優秀な人が増えればよい。〕、〔割合ではなく、魅力的な人に集まってほしい。その結果どちらかに偏っても致し方ない。〕といった意見があがっています。30歳代は「わからない」、40歳代から80歳代以上で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が最も多く、60歳代と70歳代で5割程度となっています。(図表8-2-②)

図表8-2-② 市の審議会と市議会における女性の割合への考え（全体、性・年代別）

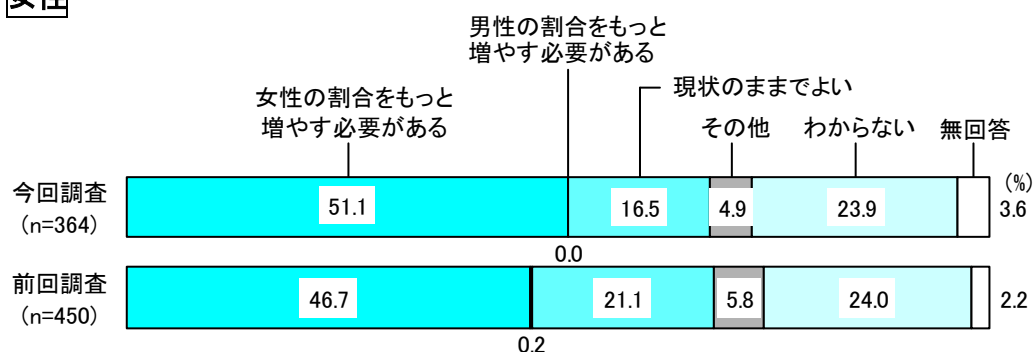
		(%)						
		増 女 性 の 割 合 を も っ と	増 男 性 の 割 合 を も っ と	現 状 の ま ま で よ い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
全 体 (N= 645)		46.2	0.3	18.1	7.8	24.3	3.3	
性・年代別	女	10 歳 代 (n= 6)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20 歳 代 (n= 35)	40.0	0.0	25.7	11.4	20.0	2.9
		30 歳 代 (n= 66)	47.0	0.0	19.7	10.6	22.7	0.0
		40 歳 代 (n= 71)	39.5	0.0	22.5	4.2	33.8	0.0
		50 歳 代 (n= 68)	48.5	0.0	10.3	5.9	30.9	4.4
		60 歳 代 (n= 53)	71.7	0.0	9.4	0.0	15.1	3.8
		70 歳 代 (n= 44)	63.6	0.0	6.8	0.0	18.2	11.4
		80 歳 代 以上 (n= 20)	35.0	0.0	35.0	0.0	20.0	10.0
	男	10 歳 代 (n= 4)	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
		20 歳 代 (n= 24)	20.8	0.0	29.2	29.2	20.8	0.0
		30 歳 代 (n= 47)	31.9	0.0	14.9	12.8	40.4	0.0
		40 歳 代 (n= 48)	37.5	2.1	22.9	14.6	20.8	2.1
		50 歳 代 (n= 52)	46.2	0.0	15.4	9.6	28.8	0.0
		60 歳 代 (n= 45)	51.2	2.2	20.0	4.4	22.2	0.0
70 歳 代 (n= 30)		50.0	0.0	16.7	6.7	23.3	3.3	
80 歳 代 以上 (n= 23)		34.9	0.0	34.8	4.3	13.0	13.0	

『前回調査(平成 24 年調査)との比較』

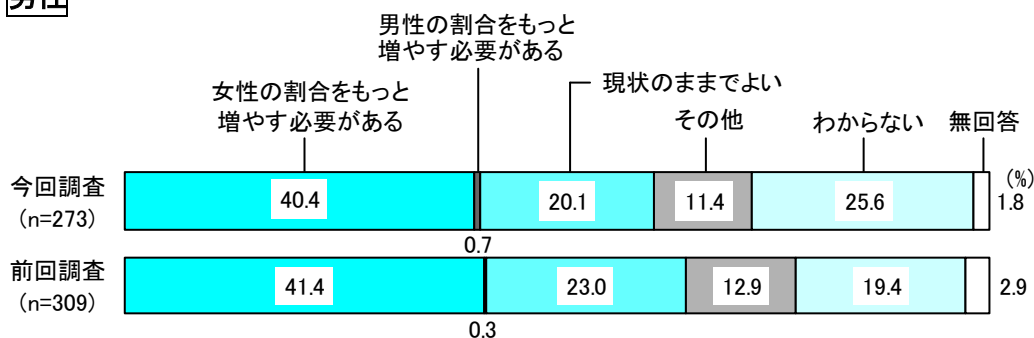
市の審議会と市議会における女性の割合への考えについて、今回調査と前回調査を比較すると、女性は「女性の割合をもっと増やす必要がある」が 4.4 ポイント前回調査を上回っています。男性は「わからない」が 6.2 ポイント前回調査を上回っています。(図表 8-2-③)

図表 8-2-③ 市の審議会と市議会における女性の割合への考え(性別)
【前回比較】

女性



男性



※前回調査は対象者の年齢が 18 歳以上 70 歳未満、今回調査は対象者の年齢が異なります。

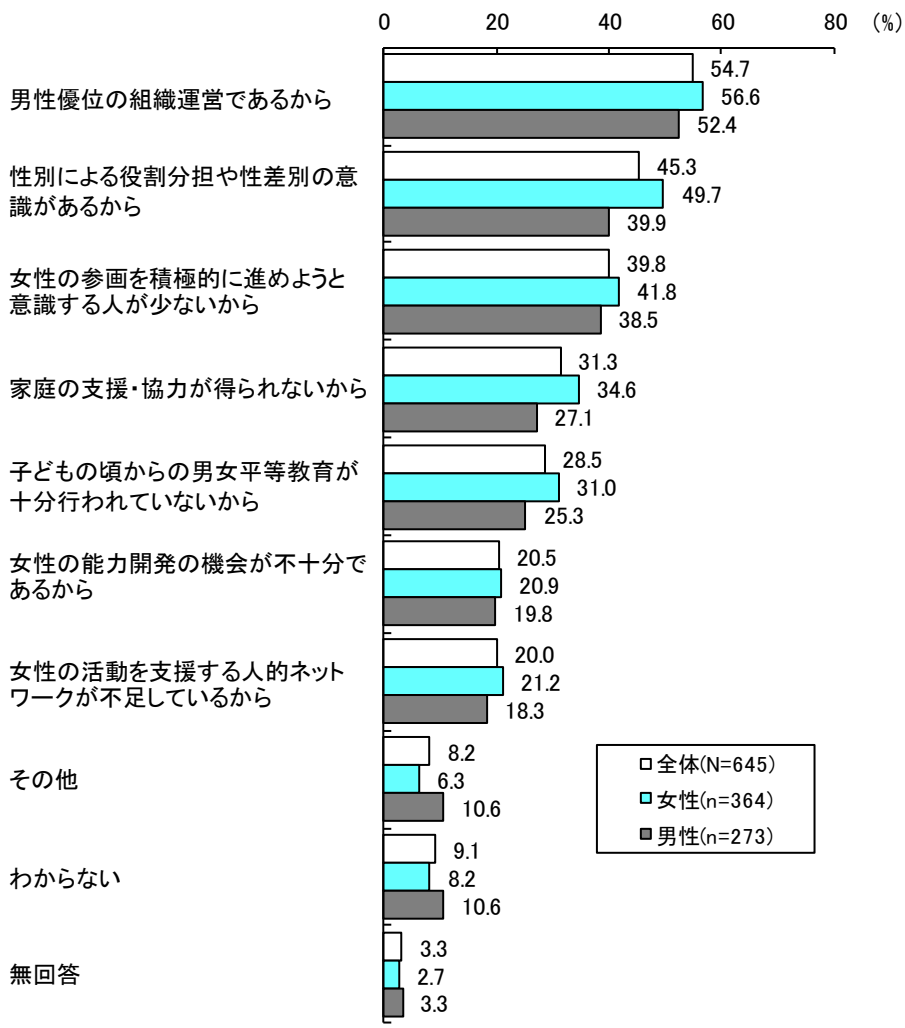
8-3 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由

問31 一般的には政治や企業・地域活動など、あらゆる分野において政策や方針決定過程への女性の参画が少ない状況です。その理由は何だと思えますか。(いくつでも○)

全体では、「男性優位の組織運営であるから(54.7%)」が最も多く、「性別による役割分担や性差別の意識があるから(45.3%)」、「女性の参画を積極的に進めようと意識する人が少ないから(39.8%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに上位3項目は全体と同じですが、「性別による役割分担や性差別の意識があるから(女性：49.7%、男性：39.9%)」は、女性が男性を9.8ポイント上回っています。また、「家庭の支援・協力が得られないから(女性：34.6%、男性：27.1%)」、「子どもの頃からの男女平等教育が十分行われていないから(女性：31.0%、男性：25.3%)」は、女性が男性を5ポイント以上上回っています。(図表8-3-①)

図表8-3-① 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由(全体、性別：複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性は30歳代と70歳代をのぞくすべての年代で「男性優位の組織運営であるから」が最も多くなっています。30歳代は「性別による役割分担や性差別の意識があるから」、70歳代は「女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから」が最も多くなっています。

男性はすべての年代で「男性優位の組織運営であるから」が最も多くなっています。20歳代は「性別による役割分担や性差別の意識があるから」も同率で最も多くなっています。(図表8-3-②)

図表8-3-② 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由(全体、性・年代別：複数回答)

		(%)										
		男性優位の組織運営であるから	意識があるから	女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから	子どもの頃から男女平等教育が得られない	家庭の支援・協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動が不足しているから	ネットワークが不足しているから	その他	わからない	無回答
全体 (N= 645)		54.7	45.3	39.8	28.5	31.3	20.5	20.0	8.2	9.1	3.3	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 6)	83.3	83.3	33.3	0.0	66.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0
		20歳代 (n= 35)	65.7	40.0	40.0	20.0	34.3	20.0	22.9	11.4	11.4	2.9
		30歳代 (n= 66)	62.1	65.2	36.4	34.8	37.9	16.7	15.2	7.6	3.0	0.0
		40歳代 (n= 71)	53.5	43.7	38.0	32.4	29.6	19.7	18.3	7.0	11.3	0.0
		50歳代 (n= 68)	57.4	51.5	42.6	29.4	39.7	22.1	17.6	10.3	5.9	2.9
		60歳代 (n= 53)	62.3	60.4	54.7	41.5	43.4	26.4	24.5	0.0	7.5	0.0
		70歳代 (n= 44)	43.2	36.4	47.7	25.0	15.9	27.3	31.8	2.3	15.9	9.1
		80歳代以上 (n= 20)	35.0	20.0	25.0	35.0	30.0	10.0	25.0	0.0	5.0	15.0
性・年代別	男性	10歳代 (n= 4)	50.0	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	45.8	45.8	33.3	20.8	12.5	16.7	25.0	25.0	12.5	0.0
		30歳代 (n= 47)	57.4	46.8	40.4	23.4	40.4	17.0	17.0	8.5	6.4	0.0
		40歳代 (n= 48)	58.3	45.8	37.5	25.0	25.0	16.7	8.3	12.5	8.3	2.1
		50歳代 (n= 52)	53.8	30.8	44.2	19.2	25.0	13.5	15.4	13.5	7.7	3.8
		60歳代 (n= 45)	53.3	46.7	37.8	24.4	28.9	20.0	26.7	4.4	13.3	0.0
		70歳代 (n= 30)	53.3	36.7	43.3	43.3	30.0	40.0	30.0	10.0	13.3	3.3
		80歳代以上 (n= 23)	30.4	13.0	26.1	26.1	17.4	21.7	13.0	4.3	21.7	21.7

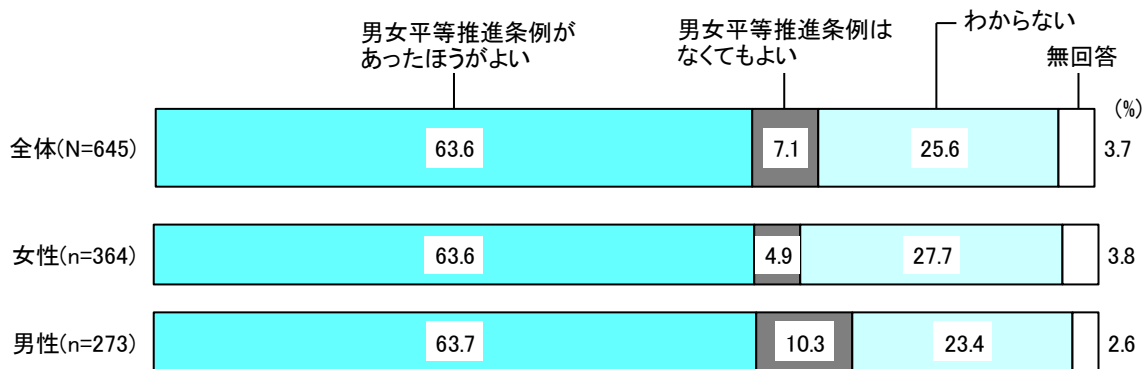
8-4 男女平等推進条例制定についての意向

問32 国が男女共同参画社会基本法を制定した後、多くの自治体では男女共同参画条例（地方自治体が定める法）を制定し、各々独自の男女平等参画社会のしくみづくりを進めています。現在西東京市には、「男女平等参画条例」（男女平等参画社会の実現を図ることを目的に、基本理念や市民・事業主の責務、施策の基本的事項を定めたもの。）がありません。あなたは条例の制定についてどのように思いますか。（1つに〇）

全体では、「男女平等推進条例があったほうがよい」が63.6%、「男女平等推進条例はなくてもよい」が7.1%、「わからない」が25.6%となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、「男女平等推進条例があったほうがよい（女性：63.6%、男性：63.7%）」は6割を超えています。（図表8-4-①）

図表8-4-① 男女平等推進条例制定についての意向（全体、性別）



性・年代別にみると、女性は20歳代から70歳代で「男女平等推進条例があったほうがよい」が最も多く、5割から6割台となっています。男性はすべての年代で「男女平等推進条例があったほうがよい」が最も多く、とくに70歳代で7割半ばとなっています。また、50歳代で「男女平等推進条例はなくてもよい」が全体を10ポイント程度上回っています。(図表8-4-②)

図表8-4-② 男女平等推進条例制定についての意向(全体、性・年代別)

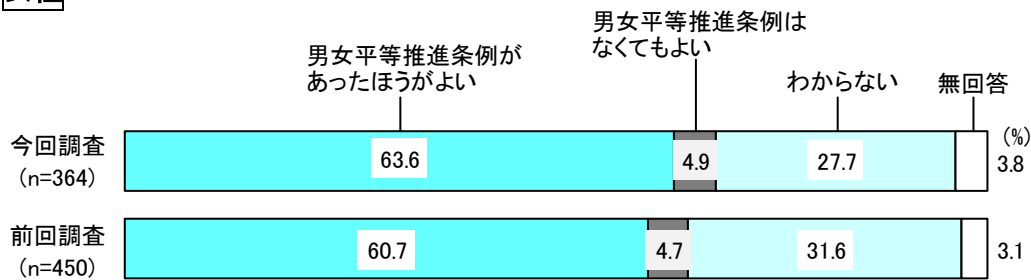
		(%)				
		あつたほう がよい	ななくて もよい	わからない	無回答	
全体 (N= 645)		63.6	7.1	25.6	3.7	
性・年代別	女性	10歳代 (n= 6)	100.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 35)	59.9	8.6	28.6	2.9
		30歳代 (n= 66)	66.6	7.6	25.8	0.0
		40歳代 (n= 71)	66.2	2.8	31.0	0.0
		50歳代 (n= 68)	66.2	4.4	27.9	1.5
		60歳代 (n= 53)	67.9	5.7	26.4	0.0
		70歳代 (n= 44)	56.9	4.5	22.7	15.9
		80歳代以上 (n= 20)	30.0	0.0	45.0	25.0
	男性	10歳代 (n= 4)	75.0	0.0	25.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	58.4	8.3	33.3	0.0
		30歳代 (n= 47)	66.0	6.4	25.5	2.1
		40歳代 (n= 48)	62.4	16.7	18.8	2.1
		50歳代 (n= 52)	57.7	17.3	23.1	1.9
		60歳代 (n= 45)	68.9	8.9	20.0	2.2
70歳代 (n= 30)		76.7	3.3	16.7	3.3	
80歳代以上 (n= 23)		52.2	4.3	34.8	8.7	

『前回調査(平成 24 年調査)との比較』

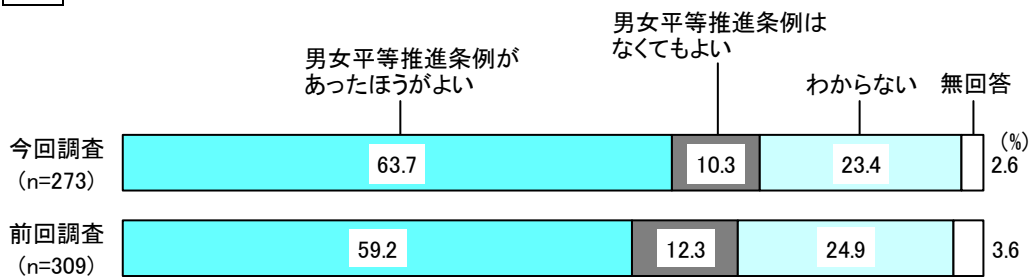
男女平等推進条例制定についての意向について、今回調査と前回調査を比較すると、「男女平等推進条例があったほうがよい」が女性は 2.9 ポイント、男性は 4.5 ポイント前回調査を上回っています。(図表 8-4-③)

図表 8-4-③ 男女平等推進条例制定についての意向 (性別)
【前回比較】

女性



男性



※前回調査は対象者の年齢が 18 歳以上 70 歳未満、今回調査は対象者の年齢が異なります。

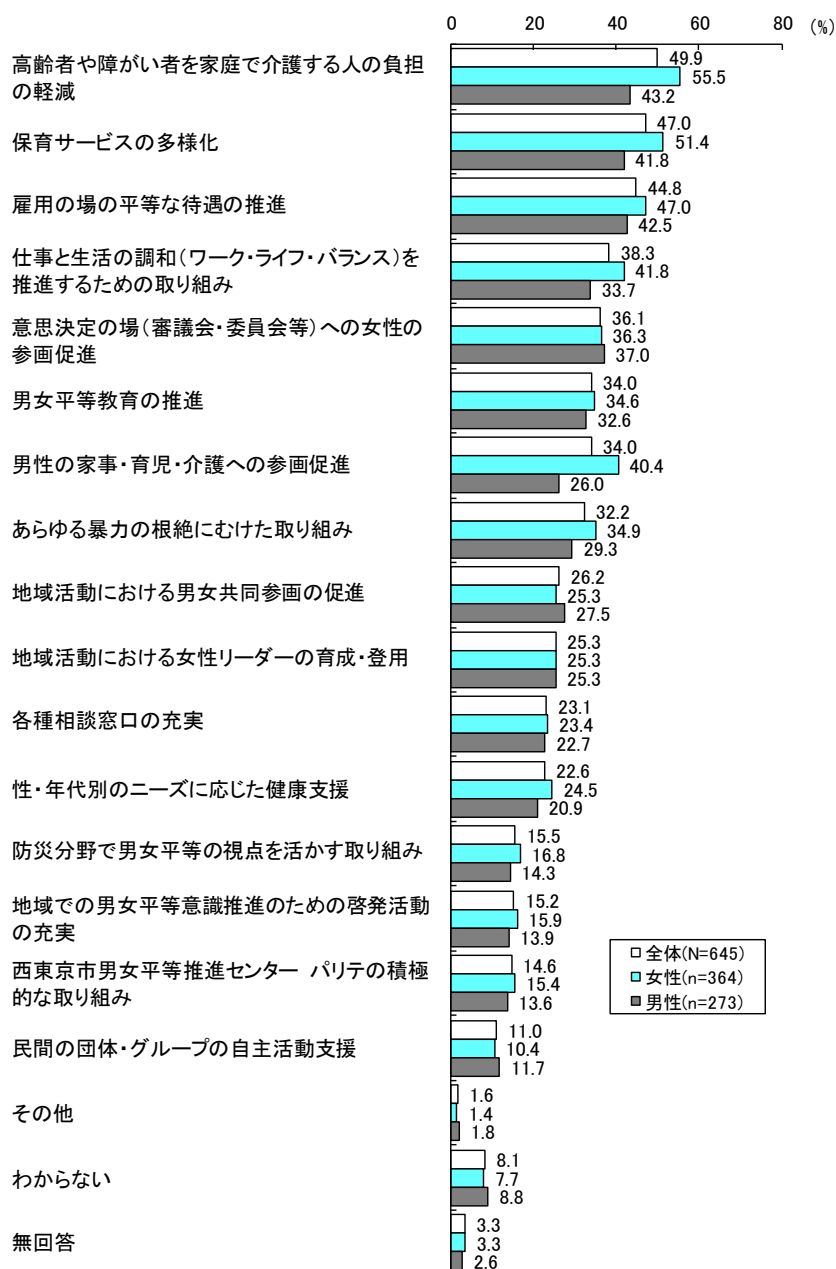
8-5 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策

問33 男女平等をめざした以下の取り組みのうち、西東京市が特に力を入れていくべきだと思うものはどれですか。(いくつでも○)

全体では、「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(49.9%)」が最も多く、「保育サービスの多様化(47.0%)」、「雇用の場の平等な待遇の推進(44.8%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、女性は男性を「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(女性：55.5%、男性：43.2%)」と「保育サービスの多様化(女性：51.4%、男性：41.8%)」でそれぞれ12.3ポイント、9.6ポイント上回っています。また、「男性の家事・育児・介護への参画促進(女性：40.4%、男性：26.0%)」も女性が男性を14.4ポイント上回っています。(図表8-5-①)

図表8-5-① 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策
(全体、性別：複数回答)



性・年代別にみると、女性は20歳代、30歳代で「保育サービスの多様化」、40歳代以上は「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」が最も多くなっています。男性は20歳代、30歳代で「保育サービスの多様化」が最も多くなっており、20歳代は「男女平等教育の推進」、「あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み」も同率で最も多くなっています。40歳代、50歳代、70歳代、80歳代以上は「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」が最も多くなっており、70歳代は「男女平等教育の推進」、「雇用の場の平等な待遇の推進」、80歳代以上は「地域活動における男女共同参画の促進」、「男性の家事・育児・介護への参画促進」も同率で最も多くなっています。60歳代は「雇用の場の平等な待遇の推進」が最も多くなっています。(図表8-5-②)

図表8-5-② 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策
(全体、性・年代別：複数回答)

		高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減	保育サービスの多様化	雇用の場の平等な待遇の推進	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を推進するための取り組み	意思決定の場(審議会・委員会等)への女性の参画促進	男女平等教育の推進	男性の家事・育児・介護への参画促進	あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み	地域活動における男女共同参画の促進	成・登用	地域活動における女性リーダーの育成	各種相談窓口の充実	性・年代別のニーズに応じた健康支援	防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み	地域での男女平等意識推進のための啓発活動の充実	西東京市男女平等推進センターの積極的な取り組み	民間の団体・グループの自主活動支援	その他	わからない	無回答
全	体 (N= 645)	49.9	47.0	44.8	38.3	36.1	34.0	34.0	32.2	26.2	25.3	23.1	22.6	15.5	15.2	14.6	11.0	1.6	8.1	3.3	
性・年代別	女	10歳代 (n= 6)	50.0	50.0	50.0	33.3	50.0	50.0	16.7	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 35)	28.6	71.4	45.7	60.0	34.3	28.6	45.7	34.3	22.9	20.0	14.3	25.7	11.4	2.9	8.6	5.7	2.9	8.6	0.0
		30歳代 (n= 66)	42.4	69.7	42.4	54.5	43.9	36.4	56.1	34.8	16.7	19.7	10.6	27.3	9.1	13.6	4.5	3.0	1.5	3.0	1.5
		40歳代 (n= 71)	56.3	49.3	47.9	38.0	26.8	26.8	42.3	36.6	22.5	19.7	22.5	19.7	8.5	14.1	12.7	12.7	4.2	7.0	4.2
		50歳代 (n= 68)	73.5	51.5	54.4	45.6	36.8	42.6	36.8	42.6	32.4	32.4	33.8	27.9	25.0	22.1	20.6	14.7	0.0	7.4	0.0
		60歳代 (n= 53)	62.3	52.8	60.4	34.0	45.3	39.6	34.0	30.2	28.3	24.5	35.8	22.6	30.2	24.5	18.9	13.2	0.0	9.4	0.0
		70歳代 (n= 44)	61.4	25.0	43.2	29.5	40.9	40.9	40.9	36.4	34.1	29.5	27.3	25.0	20.5	18.2	29.5	11.4	0.0	15.9	6.8
		80歳代以上 (n= 20)	55.0	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0	10.0	15.0	15.0	30.0	5.0	20.0	15.0	5.0	15.0	10.0	0.0	5.0	25.0
	男	10歳代 (n= 4)	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n= 24)	29.2	37.5	33.3	33.3	25.0	37.5	25.0	37.5	12.5	20.8	12.5	20.8	4.2	0.0	4.2	0.0	0.0	16.7	0.0
		30歳代 (n= 47)	40.4	57.4	42.6	36.2	34.0	31.9	29.8	40.4	27.7	25.5	21.3	34.0	19.1	14.9	8.5	14.9	2.1	6.4	0.0
		40歳代 (n= 48)	54.2	50.0	43.8	43.8	39.6	29.2	25.0	25.0	27.1	27.1	20.8	16.7	14.6	10.4	10.4	10.4	4.2	4.2	2.1
		50歳代 (n= 52)	46.2	40.4	38.5	36.5	36.5	25.0	21.2	30.8	23.1	28.8	25.0	15.4	17.3	15.4	11.5	11.5	1.9	11.5	1.9
		60歳代 (n= 45)	37.8	37.8	51.1	26.7	40.0	35.6	17.8	17.8	26.7	20.0	26.7	17.8	8.9	11.1	11.1	11.1	0.0	6.7	2.2
70歳代 (n= 30)	50.0	40.0	50.0	33.3	46.7	50.0	33.3	26.7	40.0	33.3	33.3	23.3	13.3	26.7	30.0	23.3	3.3	10.0	0.0		
80歳代以上 (n= 23)	39.1	13.0	34.8	17.4	34.8	26.1	39.1	30.4	39.1	17.4	17.4	17.4	21.7	21.7	26.1	8.7	0.0	13.0	17.4		

9 自由回答

問 34 において、西東京市の男女平等に向けての取り組みについて意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、115 件の回答をいただきました。いただいた回答の中からアンケート調査の大項目に沿って分類し、件数とともにまとめています。

分類	内容	件数	
男女平等参画の意識	男女平等参画の意識について（必要である）	9 件	36 件
	男女平等参画の意識について（疑問である）	14 件	
	個性や能力の尊重について	13 件	
日ごろの生活	－	0 件	0 件
仕事	企業のとりくみについて	6 件	6 件
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	ワーク・ライフ・バランスについて	3 件	3 件
地域・防災	地域活動について	3 件	3 件
人権	性的マイノリティへの支援について	1 件	3 件
	暴力について	2 件	
男女平等参画を進めるために必要な施策	周知・啓発について	7 件	37 件
	再就職・職場への復職等に関する支援について	4 件	
	家事・育児・介護への支援について	3 件	
	ひとり親家庭への支援について	1 件	
	健康に関する支援について	1 件	
	市の男女平等参画施策の展開について	21 件	
その他	アンケートについて	13 件	27 件
	市政全般について	3 件	
	その他	11 件	
計			115 件

以下、寄せられた回答の中から、代表的な意見を抜粋しました。

(1) 男女平等参画の意識について (36 件)

<男女平等参画の意識について (必要である)> (9 件)

- ・ 70 歳以上の世代は男性社会優先での生活でした。近年の若手層の方々にとって社会進出、家庭内での女性の負担など、役割分担の変化が感じられます。徐々に男女平等社会に変わっていくでしょう。一人一人が平等意識をすすめるとともに、地域、社会全体で取り組みを充実させ、早い実現を望みます。(女性、70 歳代)
- ・ 機会は公平に与えられるべきだと思います。男性優位の時代から少しずつ変わりつつあると思いますが、欧米諸国に比べるとまだまだだと思います。一人一人の意識を変えていくよう強く希望します。(男性、50 歳代)

<男女平等参画の意識について (疑問である)> (14 件)

- ・ すべてが平等である必要はないと考える。男性特有の問題（育児参加等）や女性特有の問題（月経や出産等）に対して、社会がどれだけ協力的になるかが 1 番必要なのでは。(女性、30 歳代)
- ・ 現状男女不平等を感じたことはない。むしろ昨今過剰な女性優遇も目立つ。何事もバランスかと。(男性、20 歳代)
- ・ 男と女は体質的な相違もあり、行動が必ずしも同一が平等とはいえない。幼児の成長に大切なものは母親の愛情（理屈ではなく）であり、これも大切な仕事。平等とは人権の問題であり、男女共に同じことをすることではないと思う。(男性、80 歳代以上)

<個性や能力の尊重について> (13 件)

- ・ 男女問わず、すべての人が意見を話しやすい環境が必要だと思います。(女性、40 歳代)
- ・ 男女同権、平等であることはいいこととして、それとともに男女は同質ではなく、体力差もあるし全く対等とも思えないので、互いを認めつつ協力し合うことこそが一番美しい理想の姿であると、公教育の中でも示していただけたら嬉しいです。(女性、60 歳代)
- ・ 「平等」に固執せず、男性らしく女性らしく各々の強みを活かせる発想になればと願っています。完全なるイーブンは平等でないと思っています。(男性、30 歳代)
- ・ 社会活動においては初めから男女の意識をしないで行動することから始めては…。男女相互は不得手なことに援助をする。(男性、60 歳代)

(2) 仕事について (6 件)

<企業の取り組みについて> (6 件)

- ・ とにかく長時間労働を改善しない限り、何も始まらない（良くならない）と思います（男女平等も少子化問題も介護の問題など）。(女性、50 歳代)
- ・ 結婚をしていない娘は派遣社員です。娘の将来が心配です。やはり派遣社員は女性の方

が多いのかなと感じます。(女性、70 歳代)

(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について（3件）

<ワーク・ライフ・バランスについて>（3件）

- ・ 職場や家庭、友人など、周りの環境が理解を示せば、育児休業など様々な本人の抵抗感は自然と減少していくと思う。(男性、30 歳代)
- ・ 男性を家事、育児、介護の場に引きずり出すことが男女平等とは思えない。今のままで無理やり「男女共同参画」をしようものなら、男性は過労死すると思います。制度環境を整えることがまず必要だと思う。(男性、30 歳代)

(4) 地域・防災について（3件）

<地域活動について>（3件）

- ・ 市ではなく町単位のコミュニティサイトを立ち上げて求人やボランティアコーナーをつくって、働きたい人、働いてほしい人の交流の場があると、ちょっとした時間（例えば、見送り、勉強のお手伝い、etc）を活用していけるのではないかと思います。<中略>小さなコミュニティがあると防災にも役立つと思うのですが…。(女性、60 歳代)

(5) 人権について（3件）

<性的マイノリティへの支援について>（1件）

- ・ 「男女平等」だけではLGBTに対応できないので、それらも対応できるように柔軟な施策を求めます。(男性、30 歳代)

<暴力について>（2件）

- ・ 「女性に対する暴力をなくす運動」にしても、男性に対してはよいのか、ということになる。単に暴力をなくす運動でよいのでは。(男性、30 歳代)

(6) 男女平等参画を進めるために必要な施策について（37件）

<周知・啓発について>（7件）

- ・ 男性や高齢者（子育て終了世代）への周知や教育に力を入れてほしいです（女性への活動ではなく）。家事や育児を少し手伝っただけで「イクメン」と言って褒められる状況がおかしいです（褒める側がいることも問題。当たり前という風潮が必要です）。(女性、30 歳代)
- ・ 職場での意識改革より、家庭へ戻った女性へ社会進出をするように働きかける活動をしてほしい。(男性、20 歳代)

<再就職・職場への復職等に関する支援について> (4件)

- ・ 女性が実力をつけられる制度がほしいです。女性も社会や国に貢献したいと思っています。(女性、20歳代)
- ・ 現在育休中ですが、子どもが保育園に入園できず、復職の見込みがありません。育休が終了し、給付金がなくなったら完全に生活できず、困っています。保育士として働いていたのですが、子が入園できないと働けず…。保育士不足と言われているのに、働きたくても働けない。(女性、30歳代)

<家事・育児・介護への支援について> (3件)

- ・ 出産前、パパ学級があったが、出産後のパパ学級の方が必要だと思う。子どもの世話の仕方はもちろんだけど、パパが作れるご飯の作り方とか、手伝える家事を考える時間など持てる場、パパ同士話し合える場がほしい。家にいるママは1日人と話さない。一人で家事が大変なことを話し合ってほしいし、パパを叱ってほしい。(女性、30歳代)
- ・ 一般的にいえることだが、目先の少子化対策といえる保育サービスばかり充実させている(保育園、保育所の設置など目立つこと)。今後、長い目で見れば一番不要となる。将来的な展望を持って考えた場合、高齢施設をもっと充実させるべきと思っている。(男性、40歳代)

<ひとり親家庭への支援について> (1件)

- ・ 男女平等も大事だが、母子家庭(父子家庭)の支援、特に貧困の支援が大事だと思う。非正規雇用者の待遇、給与を改善し、子育て支援を強化すべき。(男性、40歳代)

<健康に関する支援について> (1件)

- ・ 女性をもっとトレーニング、運動しやすい環境を作る。体が健康であれば男性にも負けない力を持っているので。(男性、30歳代)

<市の男女平等参画施策の展開について> (21件)

- ・ 世代やその人がおかれている立場などにより、「平等」という感覚も違うと思います。一番多い問題から少しずつ改善して、社会の流れを変化させていけるといいです。(女性、30歳代)
- ・ 他の自治体の後追いではなく、先鞭をつけるような取り組みを期待する。取り組み実施により、西東京市の魅力を高め、広く知らしめるとともに、市民の男女平等を達成、さらに外から人をひきつけるような市政を実施してほしい。(男性、40歳代)
- ・ 男女間の平等だけの取り組みにしないでほしい。あらゆる区分について平等となるよう取り組まないと、区分間の不平等になると思う。(男性、40歳代)

参考資料 調査票及び集計結果

あなたの声を 西東京市の男女平等参画まちづくりへ！

—調査協力のお願—

西東京市では、「一人ひとりが自分らしく自立し、いきいきと個性と能力を発揮できる社会をめざす」を基本理念に掲げ、男女平等参画のまちづくりを推進しています。めざしている社会の実現には、市民の皆様をはじめ、企業や市民団体、行政が一体となって取り組むことが必要です。

その取り組みの中で、来年度「第4次男女平等参画推進計画」を策定することとなりました。計画策定にあたっては、裏ページの計画策定までのスケジュールに沿って市民や団体の皆さんからもご意見を伺う予定です。その一環として本調査では満18歳以上の2,000人の方を対象に意識と実態を伺わせていただきます。

調査対象者は無作為抽出で選ばせていただき、ご回答いただいた結果は統計的にまとめるため、無記名での回答であり、皆様の個人情報やプライバシーを侵害することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどお願い申し上げます。

平成29(2017)年10月

西東京市長 丸山 浩一

《ご記入にあたってのお願い》

1. 調査票及び返信用封筒に、あなたの住所・お名前などを記入する必要はありません。
2. 質問中の「あなた」とは、あて名のご本人を指しています。あて名のご本人の方についてご回答をお願いします。
3. お答えは、あてはまる番号に○印を付けてください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入が終わりましたら、返信用封筒にこの調査票を入れて、10月20日(金)までにご投函ください。なお、封筒には切手を貼っていただく必要はありません。

この調査について、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。なお、裏ページには計画策定までのスケジュールを掲載しましたので、ご覧ください。

＜お問い合わせ先＞

西東京市 生活文化スポーツ部
協働コミュニティ課 男女平等推進係

住 所：〒202-0005 西東京市住吉町6-15-6 住吉会館内
男女平等推進センター パリテ

T E L : 042-439-0075 F A X : 042-422-5375 (共通)

E-MAIL : kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp



この調査の結果については、市報、市のホームページ、男女平等情報誌「パリテ」等でお知らせします。-----是非ご覧ください！

西東京市第4次男女平等参画推進計画策定までのスケジュール

- 平成29年 10月 団体へのグループインタビューを実施します
市民意識・実態調査、職員意識・実態調査を実施します
- 平成30年 10月 パブリックコメント、市民説明会を実施します
ここでいただいたご意見をもとに計画を再調整します
- 平成31年 3月 西東京市第4次男女平等参画推進計画を策定します

第10回 パリテまつりを開催します

西東京市男女平等推進センター パリテの愛称の「パリテ」はフランス語で“平等な”という意味です。

パリテでは、女性も男性もすべての人がいきいきと自立して元気に学び合えるよう市民の方と協働で毎年「パリテまつり」を開催しています。

今年は次のように開催します。ご来場をお待ちしています。

～女と男 一緒につくろう平和な未来～

会 場：住吉会館 ルピナス

【パネル展示】

内容：男女平等推進に関連するパネル

日時：平成30年1月29日（月）～2月9日（金）

【その他】

講演会、各講座、喫茶、軽食、雑貨販売

日時：平成30年2月3日（土）・4日（日）

※詳細につきましては市報、市のホームページ、男女平等情報誌「パリテ」等でお知らせします

あなたについておたずねします

問1 あなたの性別は。(1つに〇)

全体(N=645)						(%)					
1	女性	56.5	2	男性	42.3	3	1・2以外	0.0		無回答	1.2

問2 あなたの年齢は。(1つに〇)

全体(N=645)		女性(n=364)		男性(n=273)				(%)	
		全体	女性	男性			全体	女性	男性
1	10歳代	1.6	1.6	1.5	5	50歳代	18.8	18.7	19.0
2	20歳代	9.1	9.6	8.8	6	60歳代	15.3	14.6	16.5
3	30歳代	17.7	18.1	17.2	7	70歳代	11.5	12.1	11.0
4	40歳代	18.4	19.5	17.6	8	80歳代以上	7.1	5.5	8.4
					無回答		0.5	0.3	0.0

問3 あなたのご家族の構成は次のどれにあたりますか。(1つに〇)

全体(N=645)		女性(n=364)		男性(n=273)				(%)	
		全体	女性	男性			全体	女性	男性
1	単身 (一人世帯)	11.0	9.6	12.8	5	三世代世帯 (自分と子どもと孫)	2.0	2.7	1.1
2	夫婦のみ	26.5	26.4	27.1	6	三世代世帯 (親と自分と子ども)	4.2	2.7	6.2
3	二世代世帯 (自分と親)	15.3	14.6	16.5	7	三世代世帯 (祖父母と親と自分)	1.2	1.6	0.7
4	二世代世帯 (自分と子ども)	37.7	40.5	33.7	8	その他 〔具体的に： 〕	1.6	1.6	1.5
					無回答		0.5	0.3	0.4

問4 あなたには、配偶者・パートナーがいますか。(婚姻届を出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある人を含みます)(1つに〇)

全体(N=645)		女性(n=364)		男性(n=273)		(%)	
		全体	女性	男性			
1	いる	69.3	69.3	69.6	→ 問4-1にもお答えください		
2	いない	30.2	30.2	30.4	→ 問5へお進みください		
無回答		0.5	0.5	0.0			

問4-1 問4で「1 いる」と答えた方におたずねします。

おふたりは共働きですか。(パート等も含みます)(1つに〇)

全体(n=447)		女性(n=252)		男性(n=190)		(%)	
		全体	女性	男性			
1	自分も配偶者・パートナーも働いている	50.5	55.5	44.3			
2	自分のみ働いている	15.0	3.6	30.5			
3	配偶者・パートナーのみ働いている	16.6	25.8	4.7			
4	自分も配偶者・パートナーも働いていない	17.7	15.1	20.5			
無回答		0.2	0.0	0.0			

問5 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(1から4の1つに〇)

全体(N=645)		女性(n=364)		男性(n=273)		(%)	
		全体	女性	男性			
1	北東部地域(富士町、ひばりが丘北、中町、栄町、東町、北町、下保谷)	24.8	23.6	26.3			
2	中部地域(田無町、泉町、住吉町、北原町、保谷町)	21.9	22.0	20.9			
3	西部地域(芝久保町、西原町、緑町、谷戸町、ひばりが丘)	26.3	27.8	24.9			
4	南部地域(向台町、南町、新町、柳沢、東伏見)	25.4	26.1	25.3			
無回答		1.6	0.5	2.6			

日ごろからの男女平等参画の意識についておたずねします

問6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別によって役割を固定する考え方を「固定的性別役割分担意識」と言います。男女平等を実現するためには、固定的性別役割分担意識を解消する必要がありますが、あなたは、固定的性別役割分担意識は解消していると思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。(1つに〇)

		全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)				
		全体	女性	男性		全体	女性	男性	
1	解消されている	22.0	15.7	30.0	3	あまり解消されていない	25.4	29.7	20.5
2	やや解消されている	41.4	42.2	40.7	4	解消されていない	7.6	8.0	7.0
						無回答	3.6	4.4	1.8

問7 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)から(8)までのそれぞれについて、お答えください。

(それぞれについて、1つに〇)

全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)		(%)					
		優遇されている 男性の方が非常に	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	男女の地位は平等 になっている	どちらかといえ ば女性の方が優遇さ れている	どちらかといえ ば女性の方が非常 に優遇されている	無回答
(1) 家庭生活の場で	全体	8.1	43.7	34.3	10.1	1.2	2.6
	女性	11.8	53.3	26.4	5.8	0.5	2.2
	男性	3.3	31.5	44.3	16.1	2.2	2.6
(2) 職場で	全体	15.0	44.2	26.2	7.0	1.1	6.5
	女性	19.5	46.2	24.2	2.7	0.5	6.9
	男性	9.2	42.2	28.9	12.8	1.8	5.1
(3) 学校教育の場で	全体	2.3	20.2	61.4	5.4	0.9	9.8
	女性	3.6	22.5	58.9	3.0	0.5	11.5
	男性	0.4	17.2	65.5	8.8	1.5	6.6
(4) 地域社会(自治会・町内会や PTAなどの地域活動の場)で	全体	5.6	30.2	43.9	10.2	1.6	8.5
	女性	8.5	36.5	37.5	8.5	0.5	8.5
	男性	1.8	21.2	53.9	12.8	2.6	7.7
(5) 政治の場で	全体	33.2	45.8	14.6	1.9	0.0	4.5
	女性	40.1	45.3	8.8	1.1	0.0	4.7
	男性	24.5	47.0	22.3	2.9	0.0	3.3
(6) 法律や制度の上で	全体	11.8	38.6	35.2	5.7	1.9	6.8
	女性	16.2	44.2	26.9	3.3	0.3	9.1
	男性	6.2	31.5	46.2	9.2	4.0	2.9
(7) 社会通念・習慣・しきたり などで	全体	23.4	57.9	12.2	2.0	0.5	4.0
	女性	28.6	58.2	8.0	0.8	0.3	4.1
	男性	17.2	57.9	17.6	3.7	0.7	2.9
(8) 社会全体では	全体	13.5	63.2	15.3	3.7	0.6	3.7
	女性	17.0	67.3	9.6	2.2	0.3	3.6
	男性	9.2	57.8	22.7	5.9	1.1	3.3

問8 女性が仕事をする事について、あなたのお考えに近いものを選んでください。

(1つに〇)

		全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)			
		全体	女性	男性		全体	女性	男性
1	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	27.3	29.1	24.9		27.3	29.1	24.9
2	結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をする	58.9	60.8	56.4		58.9	60.8	56.4
3	子どもができたならやめて、その後仕事をしない	2.9	1.9	4.4		2.9	1.9	4.4
4	結婚したらやめて、その後仕事をしない	1.7	1.1	2.6		1.7	1.1	2.6
5	生涯仕事をしない	0.6	0.3	1.1		0.6	0.3	1.1
6	その他〔具体的に： 〕	6.7	5.2	8.8		6.7	5.2	8.8
		無回答				1.9	1.6	1.8

日ごろの生活についておたずねします

問9 日ごろの生活についておたずねします。あなたが主に行っているものを、お答えください。(いくつでも○)

		全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)				
		全体	女性	男性	全体	女性	男性		
1	掃除・洗濯	71.2	89.3	46.5	7	家具・家電品などの修理	34.4	23.1	49.8
2	日常品の買い物	70.4	87.4	48.0	8	高齢者や病人の世話	12.1	17.6	4.8
3	食事の支度	60.3	84.9	27.5	9	高額商品の購入	22.5	16.5	30.8
4	食事の後かたづけ、食器洗い	68.7	84.1	48.0	10	その他〔具体的に：〕	5.3	4.1	7.0
5	子どもの世話やしつけ	28.1	39.8	12.5	11	特になし	6.7	2.7	12.1
6	家計管理	48.7	65.1	27.5		無回答	0.3	0.0	0.7

問10 あなたが平日・休日で家事・育児・介護などに携わる1日あたりの時間はどのくらいですか。平均的な時間をお答えください。

(それぞれについて、1つに○)

		全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)										(%)
		0 ～ 15 分未 満	15 ～ 30 分未 満	30 分 ～ 1 時間未 満	1 ～ 2 時間未 満	2 ～ 3 時間未 満	3 ～ 5 時間未 満	5 ～ 7 時間未 満	7 ～ 8 時間未 満	8 時間 以上	無 回 答	
(1) 平日 (1つに○)	全体	15.9	9.5	11.9	15.8	11.5	14.7	5.9	2.2	8.4	4.2	
	女性	6.3	3.6	7.1	14.0	15.1	23.6	10.2	3.6	13.5	3.0	
	男性	29.3	17.6	17.9	17.9	6.6	3.3	0.4	0.4	1.8	4.8	
(2) 休日 (1つに○)	全体	10.1	7.1	9.1	14.0	18.1	15.7	6.0	1.6	12.1	6.2	
	女性	4.1	3.6	4.7	7.1	23.1	21.2	9.6	2.7	18.1	5.8	
	男性	18.3	12.1	14.7	22.9	12.1	8.1	1.5	0.0	4.4	5.9	

問11 あなたは、男性が家事、育児、介護などを積極的に行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

		全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)		
		全体	女性	男性	全体	女性	男性
1	男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	54.6	63.5	43.6			
2	男性が家事・育児などを行うことに対する女性の抵抗感をなくすこと	24.7	30.8	16.5			
3	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	68.1	72.8	62.3			
4	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	35.0	42.6	24.5			
5	社会の中で、男性が家事・育児を行うことが当たり前とする考え方を普及すること	56.7	63.7	48.0			
6	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	56.4	63.7	48.0			
7	働き方改革により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	49.1	49.5	48.7			
8	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、講座などを行うこと	16.1	19.2	12.5			
9	男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	20.3	22.8	17.2			
10	子どもの頃から、男女平等意識を教育や生活の中にとり入れること	58.0	69.5	43.2			
11	その他〔具体的に：〕	5.3	4.1	7.0			
12	特になし	1.4	0.5	2.6			
	無回答	1.6	0.8	2.2			

仕事に関することについておたずねします

問12 あなたは、今、収入を伴う仕事をしていますか。

出産や育児・介護のために休んでいる場合（育児・介護休業）は働いていると
考えてください。（ただし、学生で学費や生活費のためにアルバイトをしている
場合は「3」、それ以外（お小遣いや趣味など）のためにアルバイトをしている
場合は「5」です）（1つに○）

	(%)		
	全体	女性	男性
1 自由業・自営業・家族従業員として働いている	7.9	5.5	11.4
2 正社員として雇用されている	33.4	21.4	49.4
3 契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている	23.1	32.7	10.6
4 その他〔具体的に： 〕	1.2	1.1	1.5
5 仕事をもっていない（主婦・主夫・その他）	31.0	37.4	23.4
無回答	3.4	1.9	3.7

問12-1、
問12-2にも
お答えください

問13へ
お進みください

問12-1 問12で「1」～「4」と答えた方におたずねします。

将来、あなたは管理職に昇進したいとっていますか。（1つに○）

	(%)		
	全体	女性	男性
1 思っている	16.3	10.0	23.6
2 思っていない	50.8	64.2	36.2
3 わからない	14.2	16.3	12.1
4 現在、管理職である	17.0	6.8	27.6
無回答	1.7	2.7	0.5

問12-2 問12で「1」～「4」と答えた方におたずねします。

あなたは、職場で次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。
(いくつでも○)

	(%)		
	全体	女性	男性
1 パワー・ハラスメント	29.8	27.1	32.2
2 セクシュアル・ハラスメント	8.5	14.0	2.0
3 マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント	3.5	4.5	2.5
4 性的指向・性自認に関するハラスメント	0.9	1.4	0.5
5 その他〔具体的に： 〕	2.1	1.4	3.0
6 受けたことはない	62.6	61.1	65.3
無回答	1.7	3.2	0.0

【パタニティ・ハラスメント】とは

男性が育児休業や子育てのための短時間勤務を取得することを妨げるなどの行為のこと。

問13 現在のあなたの暮らし向き（経済状況）は、次のうちどれに該当しますか。

(1つに○)

	(%)		
	全体	女性	男性
1 家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている	18.9	17.9	20.9
2 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	50.3	52.2	46.5
3 家計にゆとりがなく、多少心配である	20.0	20.6	19.8
4 家計が苦しく、非常に心配である	8.2	7.1	9.9
無回答	2.6	2.2	2.9



問14 あなたは、今後、どのような形態で働きたいと思いますか。(1つに○)

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 自由業・自営業・家族従業員として働きたい	12.1	9.1	16.5			
2 正社員として働きたい	36.2	28.0	47.6			
3 契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい	21.2	31.1	8.1			
4 その他〔具体的に： 〕	4.3	3.8	5.1			
5 働きたくない	12.4	13.2	11.4			
6 わからない	8.2	8.2	8.4			
無回答	5.6	6.6	2.9			

問15 あなたは、育児休業や介護休業を取得した経験がありますか。または、これから先そのような状況が生じた時、どうしようと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについて、回答欄に数字を記載してください。

(1) 育児休業 全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)

(2) 介護休業 全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)

	(%)					
	(1) 育児休業			(2) 介護休業		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 取得経験がある	7.8	11.5	2.9	1.1	1.4	0.7
2 必要が生じれば取得する	25.9	27.7	24.2	40.4	42.3	38.4
3 取得には抵抗がある	5.1	0.3	11.4	6.4	4.4	9.2
4 必要がない	18.1	19.0	17.2	5.4	4.4	7.0
5 わからない	5.4	5.2	5.9	9.5	11.5	7.0
無回答	37.7	36.3	38.4	37.2	36.0	37.7

問16 家事、育児、介護などのために一時期仕事をやめた人が再就職を希望する場合、役立つものは何だと思いますか。(いくつでも○)

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 再雇用制度(育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度)	75.8	75.0	77.7			
2 育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度	70.1	78.3	60.4			
3 再就職のための講座やセミナー	16.6	17.9	15.0			
4 再就職のための職業訓練にかかる費用の助成制度	25.3	27.2	23.1			
5 保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実	60.2	68.1	50.5			
6 ホームヘルパーや介護福祉施策の充実	43.6	46.4	40.3			
7 家族の理解と協力	45.9	58.2	30.0			
8 企業の理解と協力	69.8	73.1	66.3			
9 その他〔具体的に： 〕	3.3	3.3	3.3			
10 特にない	2.0	1.4	2.9			
無回答	3.3	2.2	3.7			

問17 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(いくつでも〇)

	(%)		
	全体	女性	男性
1 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	83.4	87.4	79.9
2 介護支援サービスの充実	42.6	49.2	34.4
3 家事・育児支援サービスの充実	40.2	39.8	41.0
4 男性の家事参加への理解・意識改革	56.6	64.6	47.3
5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	47.9	49.2	46.5
6 働き続けることへの女性自身の意識改革	28.2	31.0	24.5
7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	49.5	55.8	42.1
8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実	56.0	61.3	49.8
9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	57.7	64.0	50.5
10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	35.5	37.1	34.4
11 その他〔具体的に： 〕	2.3	1.1	3.7
12 特にない	0.3	0.3	0.4
13 わからない	1.2	1.4	1.1
無回答	2.6	1.9	2.6

問18 男性が育児休業を取得しやすくするために必要だと思うことは何ですか。

(いくつでも〇)

	(%)		
	全体	女性	男性
1 上司の理解を促進する	65.6	67.3	64.5
2 上司が積極的に育児休業をとる	42.8	46.7	38.5
3 男性従業員自身に育児休業をとる意識を持たせる	46.8	51.6	41.8
4 取得事例の紹介をする	20.3	21.7	18.7
5 キャリア形成において不利にならないようにする	59.4	65.7	52.0
6 事業所内で雰囲気や風土を醸成する	50.7	51.4	50.2
7 人事担当の部署等で育児休業の取得促進に取り組む	36.4	37.6	35.9
8 育児休業取得後に、欠員が生じないよう、人員体制に配慮する	47.8	51.4	44.0
9 育児休業中でも会社の情報が入るような体制を整える	38.6	46.2	29.3
10 育児休業中の賃金を補償する	58.3	62.9	53.5
11 職場復帰後のサポート体制を整える	46.2	48.9	42.9
12 その他〔具体的に： 〕	4.5	2.7	6.6
無回答	4.0	3.3	3.7



問19 男女がともに仕事と生活を両立しつつ、個性と能力を發揮し、活躍できるようにするためには、これまでの働き方を抜本的に見直す「働き方改革」が必要と言われています。あなたは、「働き方改革」についてどう思いますか。

(1つに〇)

	全体(N=645)	女性(n=364)	男性(n=273)	(%)
	全体	女性	男性	
1 必要だと思う	82.4	83.6	81.3	→ 問19-1にもお答えください
2 必要だと思わない	3.4	1.6	5.9	→ 問20へお進みください
3 わからない	11.3	12.1	10.6	
無回答	2.9	2.7	2.2	

問19-1 問19で「1 必要だと思う」と答えた方におたずねします。

あなたは、「働き方改革」に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。

(いくつでも〇)

	全体(n=531)	女性(n=304)	男性(n=222)	(%)
	全体	女性	男性	
1 長時間労働の削減	77.8	78.3	77.5	
2 年次有休休暇の取得促進	63.8	62.8	64.9	
3 経営者及び管理職などの意識啓発	59.7	55.6	65.8	
4 男性の家事・育児・介護等の家庭生活への参画の促進	46.3	55.3	34.7	
5 多様で柔軟な働き方を選択しやすい環境の整備	60.3	64.5	55.0	
6 女性の活躍推進	23.7	25.3	21.6	
7 自己啓発等にかかる時間の確保	17.3	18.4	15.3	
8 非正規雇用労働者の処遇改善	40.7	44.1	36.5	
9 育児・介護などにより離職した人の再就職、起業に向けた支援	53.5	59.2	45.5	
10 その他〔具体的に： 〕	4.7	4.6	5.0	
11 わからない	0.2	0.0	0.5	
無回答	0.0	0.0	0.0	

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)についておたずねします

【仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)】が実現した社会と

内閣府の「ワーク・ライフ・バランス憲章」では、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と定義

問20 あなたはワーク・ライフ・バランスを実現していますか。あなたの実情に近いものを選んでください。(1つに〇)

	全体(N=645)	女性(n=364)	男性(n=273)	(%)
	全体	女性	男性	
1 実現できている	9.9	9.6	10.6	
2 やや実現できている	32.1	33.0	30.8	
3 あまり実現できていない	32.2	33.2	31.1	
4 実現できていない	16.0	14.3	18.7	
無回答	9.8	9.9	8.8	

問21 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なものは何だ
 と思いますか。（いくつでも〇）

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)		
	全体	女性	男性 (%)
1 保育・介護サービスが向上すること	48.2	55.2	39.9
2 仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること	43.4	43.4	44.3
3 フレックスタイム制度の導入など就業時間（帯）を選ぶようにすること	51.8	54.9	48.4
4 男女とも残業や休日出勤を減らし、時間外（所定外）労働（時間）が短縮されること	55.2	56.9	53.5
5 育児・介護休業取得の制度やしきみについて職場で周知を図ること	30.9	34.9	26.0
6 育児・介護などのための休暇取得や短時間勤務など（のしくみ）が整うこと	46.2	54.9	35.9
7 育児・介護休業取得者の代わりとなる人材を補充すること	31.6	36.3	25.6
8 何らかの理由で退職した職員の復帰・再就職が可能になるような制度が整うこと	38.4	41.5	35.5
9 男女の雇用機会や昇進、待遇格差がなくなること	32.2	36.3	27.5
10 社内に保育施設が整っていくこと	31.5	37.1	24.2
11 パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること	40.0	49.2	28.6
12 「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識を解消すること	37.4	43.7	29.3
13 働いている男女が地域活動に参加しやすいよう配慮すること	17.8	18.4	17.6
14 働いている男女が自己啓発に取り組みやすいよう配慮すること	14.3	15.1	13.2
15 その他〔具体的に： 〕	4.3	3.6	5.5
16 わからない	3.4	3.6	3.3
無回答	4.2	4.1	3.3

地域とのつながりについておたずねします

問22 地域活動についておたずねします。

①あなたは現在、どのような地域活動に参加していますか。【参加状況】

（いくつでも〇）

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)		
	全体	女性	男性 (%)
1 自治会・町内会の活動	9.8	9.9	9.9
2 PTAの役員や子ども会などの世話役	5.3	7.4	2.6
3 環境保護・教育問題などの市民活動	0.9	0.8	1.1
4 高齢者や障がい者のための活動	5.0	5.5	3.7
5 在住外国人支援のための活動	0.5	0.3	0.7
6 子どもの見守りや子育て支援の活動	3.7	5.8	1.1
7 仕事でつちかった知識や経験を活かした活動	3.4	3.3	3.7
8 趣味、スポーツ、習い事	22.5	23.1	22.3
9 自己啓発のための学習活動	6.2	6.3	6.2
10 西東京市や東京都から委嘱された委員	1.2	0.8	1.8
11 NPO活動やボランティアへの参加	5.4	5.8	5.1
12 シルバー人材センターでの活動	0.8	0.8	0.7
13 その他〔具体的に： 〕	2.6	1.9	3.3
14 参加していない	55.2	54.1	57.5
無回答	4.0	2.7	4.4

②あなたは今後、どのような地域活動に参加したいと思いますか。【参加意向】
現在参加している地域活動も含めて、参加したい活動をお答えください。

(いくつでも○)

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)		
	全体	女性	男性
			(%)
1 自治会・町内会の活動	7.3	6.3	8.8
2 P T Aの役員や子ども会などの世話役	2.8	4.4	0.7
3 環境保護・教育問題などの市民活動	6.4	4.7	8.8
4 高齢者や障がい者のための活動	11.3	11.5	10.3
5 在住外国人支援のための活動	5.6	5.2	6.2
6 子どもの見守りや子育て支援の活動	14.7	19.2	9.2
7 仕事でつちかった知識や経験を活かした活動	18.0	15.7	21.2
8 趣味、スポーツ、習い事	45.3	47.3	43.6
9 自己啓発のための学習活動	16.1	17.9	13.6
10 西東京市や東京都から委嘱された委員	4.7	2.5	7.7
11 N P O活動やボランティアへの参加	11.0	12.1	9.5
12 シルバー人材センターでの活動	6.4	5.5	7.0
13 その他〔具体的に：	2.8	2.2	3.7
14 参加したいと思わない	22.3	19.2	27.1
無回答	5.7	5.8	4.8

防災についておたずねします

問23 あなたは、防災分野で男女平等の視点を活かすためには、どのようなことが重要だと思えますか。(いくつでも○)

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)		
	全体	女性	男性
			(%)
1 防災分野に男女平等の視点を活かすことの重要性について、周知を図る	27.0	24.7	30.0
2 災害や防災に関する知識の習得を進める	49.5	53.3	45.1
3 防災分野の委員会や会議の構成員の男女比をバランス良くする	28.7	29.1	28.9
4 災害対応や復興において女性のリーダーを育成・配置する	23.6	25.0	21.6
5 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を組み込む	21.1	21.7	20.1
6 消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	28.5	30.8	26.4
7 避難所設備に女性の意見を反映させる	53.5	61.0	44.3
8 備蓄品に女性の視点を活かす	55.3	63.5	45.4
9 その他〔具体的に：	2.0	1.9	2.2
10 わからない	10.1	8.2	12.5
無回答	3.7	3.3	3.3

人権についておたずねします

問24 近年、性的マイノリティへの対応が求められており、取り組みが進められている自治体もみられます。あなたは、このような動きがあることについて、どう思いますか。(1つに○)

	全体	女性	男性	(%)	
1 必要だと思う	66.5	73.0	58.3		→ 問24-1にもお答えください
2 必要だと思わない	7.3	3.3	12.8		→ 問25へお進みください
3 わからない	23.1	21.2	26.0		
無回答	3.1	2.5	2.9		

【性的マイノリティ】とは

性的マイノリティとは、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）とトランスジェンダー（自分の性別に違和感を持ち、身体の性と心の性が一致していない人）などを意味します。

問24-1 問24で「1 必要だと思う」と答えた方におたずねします。

性的マイノリティの方々が生活しやすくするために、あなたは、自治体の取り組みとしてどのような対策が必要だと思いますか。(いくつでも○)

	全体	女性	男性	(%)
1 市民や企業等に対して意識啓発を行う	54.3	52.6	56.6	
2 学校や市役所の窓口での対応の充実を図るため、教員や市職員に対して研修等を行う	55.5	56.0	55.3	
3 相談窓口等の充実を図る	51.0	49.6	53.5	
4 トイレ等について利用しやすい環境を整備する	62.9	66.9	56.6	
5 当事者団体や支援団体等と意見交換を行い、施策に反映する	38.0	37.2	39.6	
6 その他〔具体的に：	3.3	2.3	5.0	
7 わからない	2.8	3.0	2.5	
無回答	0.5	0.4	0.6	

問25 あなたは、今まで自分の性的指向や性自認に悩んだことはありますか。

(1つに○)

	全体	女性	男性	(%)
1 ある	1.7	2.2	1.1	
2 ない	92.9	93.1	93.8	
無回答	5.4	4.7	5.1	

【性的指向、性自認】とは

性的指向は、「恋愛感情や性的な関心がいずれの性別に向かうかの指向」であり、性自認は「自分がどの性別であるかの認識」を意味します。

問26 あなたが、パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力だと思うものはどれですか。（いくつでも○）

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)
	全体	女性	男性	
1 命の危険を感じるくらいの暴力行為	64.7	71.2	56.8	
2 なぐったり、けったりする	67.1	73.4	59.3	
3 物をなげつけたり、突き飛ばしたりする	63.4	70.1	55.3	
4 なぐるふりをして、おどす	52.2	60.4	41.4	
5 人格を否定するような暴言をはく	65.6	72.3	57.1	
6 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」という	51.8	59.9	41.8	
7 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	45.4	53.3	35.2	
8 大声でどなる	53.0	61.3	41.4	
9 何を言っても長時間無視する	43.7	48.6	37.7	
10 必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う	51.6	61.3	39.2	
11 外で働くことを妨害したり、外出先を制限する	51.0	58.5	41.8	
12 家族や友人と関わりを持たせない	50.7	59.1	40.3	
13 いやがっているのに性的な行為を強要する	56.3	65.9	43.6	
14 見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せる	45.9	52.7	37.0	
15 避妊に協力しない	48.4	58.5	35.5	
16 その他〔具体的に：	1.6	1.4	1.8	
17 特にない	20.6	17.9	24.9	
無回答	4.7	4.1	4.8	

問27 パートナー（配偶者や交際相手など）から暴力を受けた場合、相談ができる機関があります。あなたは、下記の相談機関を知っていますか。（いくつでも○）

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)			(%)
	全体	女性	男性	
1 警察	75.5	77.7	73.3	
2 西東京市の相談窓口	37.8	40.9	33.0	
3 東京都の相談窓口（東京都ウィメンズプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所）	28.5	34.9	20.1	
4 民生委員	19.1	18.7	19.4	
5 法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談	11.6	10.2	13.2	
6 民間相談機関	12.1	13.2	10.6	
7 その他〔具体的に：	1.2	0.8	1.8	
8 どれも知らない	14.4	12.6	17.2	
無回答	4.8	4.1	5.1	

問28 配偶者や交際相手などの男女間で起こる暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）と言います。あなたは、配偶者や交際相手などから次のような暴力を受けたことがありますか。（いくつでも○）

全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273) (%)

	全体	女性	男性
1 身体的暴行（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど）	5.3	7.1	2.9
2 心理的攻撃（人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、脅迫する、無視するなど）	8.4	9.1	7.7
3 経済的圧迫（生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）	2.5	3.3	1.5
4 性的強要（いやがっているのに性的な行為を強要する、見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せられる、避妊に協力しないなど）	1.9	2.7	0.7
5 その他〔具体的に：〕	0.0	0.0	0.0
6 受けたことはない	81.1	79.1	85.0
無回答	7.3	7.4	5.5

問 28-1 にもお答えください

問 28-1 問28で「1」～「5」に1つでも○をつけた方におたずねします。

あなたが受けた暴力について、相談した方はどなたですか。（いくつでも○）

全体(n=75) 女性(n=49) 男性(n=26) (%)

	全体	女性	男性
1 警察に相談した	8.0	12.2	0.0
2 西東京市の相談窓口にご相談した	1.3	2.0	0.0
3 東京都の相談窓口（東京都フェミニズムプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所）にご相談した	2.7	4.1	0.0
4 民間相談機関に相談した	2.7	4.1	0.0
5 医師に相談した	5.3	6.1	3.8
6 家族、親族に相談した	18.7	26.5	3.8
7 友人、知人に相談した	28.0	34.7	15.4
8 民生委員に相談した	1.3	2.0	0.0
9 法務局の人権相談窓口、人権擁護委員に相談した	1.3	0.0	3.8
10 その他〔具体的に：〕	2.7	4.1	0.0
11 誰にも相談しなかった	58.7	49.0	76.9
無回答	0.0	0.0	0.0

問 29 へお進みください

問 28-2 問 28-1 で「11 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。

誰にも相談しなかった理由は何ですか。（いくつでも○）

全体(n=44) 女性(n=24) 男性(n=20) (%)

	全体	女性	男性
1 相談できる人がいなかったから	20.5	25.0	15.0
2 どこに相談してよいのかわからなかったから	9.1	12.5	5.0
3 誰にも知られずに相談できるところがないと思ったから	4.5	4.2	5.0
4 人に打ち明けることに抵抗があったから	29.5	41.7	15.0
5 相談しても無駄だと思ったから	31.8	29.2	35.0
6 我慢すればこのまま何とかやっているとと思ったから	20.5	25.0	15.0
7 自分にも悪いところがあると思ったから	25.0	25.0	25.0
8 他人を巻き込みたくなかったから	4.5	4.2	5.0
9 相談するほどのことではないと思ったから	36.4	33.3	40.0
10 その他〔具体的に：〕	13.6	8.3	20.0
無回答	2.3	0.0	5.0

男女平等参画を進めるために必要な施策についておたずねします

問29 あなたは、以下のことがらを知っていますか。(1)から(7)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに○)

		(%)			
		知って 内容まで いる	聞 いた こと あり	ま った く 知 ら な い	無 回 答
全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)					
(1) 西東京市男女平等推進センター パリテ	全体	1.4	18.9	74.3	5.4
	女性	2.2	24.5	68.1	5.2
	男性	0.4	11.4	83.4	4.8
(2) 西東京市男女平等参画推進計画	全体	0.5	24.2	69.6	5.7
	女性	0.5	28.6	66.0	4.9
	男性	0.4	18.3	75.4	5.9
(3) 西東京市男女平等情報誌「パリテ」	全体	1.1	12.2	81.0	5.7
	女性	1.9	15.1	78.3	4.7
	男性	0.0	8.1	85.7	6.2
(4) 西東京市「女性相談」	全体	0.8	18.4	74.4	6.4
	女性	1.4	25.3	68.6	4.7
	男性	0.0	9.2	83.5	7.3
(5) 男女共同参画社会基本法	全体	5.7	31.5	56.8	6.0
	女性	4.4	32.7	57.4	5.5
	男性	7.7	29.3	57.5	5.5
(6) 配偶者暴力防止法	全体	2.3	29.1	62.6	6.0
	女性	2.5	33.0	59.6	4.9
	男性	2.2	23.4	68.2	6.2
(7) 女性活躍推進法	全体	1.7	32.4	59.7	6.2
	女性	0.8	37.4	56.6	5.2
	男性	2.6	25.6	65.6	6.2

(注) 法律については略式名を記載しています。

問30 西東京市では、市の審議会における女性委員の割合は34.9%（平成29年4月1日現在）、市議会における女性議員の割合は25.9%（平成29年7月1日現在）となっています。

あなたはこの数字をどのように思いますか。(1つに○)

	(%)		
	全体	女性	男性
1 女性の割合をもっと増やす必要がある	46.2	51.1	40.4
2 男性の割合をもっと増やす必要がある	0.3	0.0	0.7
3 現状のままでよい	18.1	16.5	20.1
4 その他〔具体的に：	7.8	4.9	11.4
5 わからない	24.3	23.9	25.6
無回答	3.3	3.6	1.8

問31 一般的には政治や企業・地域活動など、あらゆる分野において政策や方針決定過程への女性の参画が少ない状況です。その理由は何だと思いませんか。

(いくつでも○)

	(%)		
	全体	女性	男性
1 性別による役割分担や性差別の意識があるから	45.3	49.7	39.9
2 子どもの頃からの男女平等教育が十分行われていないから	28.5	31.0	25.3
3 男性優位の組織運営であるから	54.7	56.6	52.4
4 家庭の支援・協力が得られないから	31.3	34.6	27.1
5 女性の能力開発の機会が不十分であるから	20.5	20.9	19.8
6 女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから	20.0	21.2	18.3
7 女性の参画を積極的に進めようとする意識する人が少ないから	39.8	41.8	38.5
8 その他〔具体的に：	8.2	6.3	10.6
9 わからない	9.1	8.2	10.6
無回答	3.3	2.7	3.3

問32 国が男女共同参画社会基本法を制定した後、多くの自治体では男女共同参画条例（地方自治体が定める法）を制定し、各々独自の男女平等参画社会のしくみづくりを進めています。

現在西東京市には、「男女平等参画条例」（男女平等参画社会の実現を図ることを目的に、基本理念や市民・事業主の責務、施策の基本的事項を定めたもの。）がありません。あなたは条例の制定についてどのように思いますか。

(1つに〇)

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)		
	全体	女性	男性
1 男女平等推進条例があったほうがよい	63.6	63.6	63.7
2 男女平等推進条例はなくてもよい	7.1	4.9	10.3
3 わからない	25.6	27.7	23.4
無回答	3.7	3.8	2.6

問33 男女平等をめざした以下の取り組みのうち、西東京市が特に力を入れていくべきだと思うものはどれですか。(いくつでも〇)

	全体(N=645) 女性(n=364) 男性(n=273)		
	全体	女性	男性
1 男女平等教育の推進	34.0	34.6	32.6
2 意思決定の場（審議会・委員会等）への女性の参画促進	36.1	36.3	37.0
3 雇用の場の平等な待遇の推進	44.8	47.0	42.5
4 地域活動における女性リーダーの育成・登用	25.3	25.3	25.3
5 地域活動における男女共同参画の促進	26.2	25.3	27.5
6 あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み	32.2	34.9	29.3
7 性・年代別のニーズに応じた健康支援	22.6	24.5	20.9
8 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための取り組み	38.3	41.8	33.7
9 男性の家事・育児・介護への参画促進	34.0	40.4	26.0
10 保育サービスの多様化	47.0	51.4	41.8
11 高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減	49.9	55.5	43.2
12 地域での男女平等意識推進のための啓発活動の充実	15.2	15.9	13.9
13 各種相談窓口の充実	23.1	23.4	22.7
14 民間の団体・グループの自主活動支援	11.0	10.4	11.7
15 西東京市男女平等推進センター パリテの積極的な取り組み	14.6	15.4	13.6
16 防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み	15.5	16.8	14.3
17 その他〔具体的に： 〕	1.6	1.4	1.8
18 わからない	8.1	7.7	8.8
無回答	3.3	3.3	2.6

問34 西東京市の男女平等に向けての取り組みについてご意見がございましたら、自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

返信用封筒にこの調査票を入れて、10月20日（金）までにご投函ください

**男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査
報告書**

平成 30 年 3 月

発 行：西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課男女平等推進係
〒202-0005 東京都西東京市住吉町 6-15-6 住吉会館内
男女平等推進センター パリテ
電話：042-439-0075
Email：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp